

瀬戸市
男女共同参画に関するアンケート調査
【結果報告書】

令和3年2月

瀬戸市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の概要	2
II	調査結果	5
1	あなた自身のことについて	6
2	男女平等について	15
3	女性の活躍について	34
4	生活と仕事の調和（ライフ・ワーク・バランス）について	42
5	防災における男女共同参画について	65
6	DV（ドメスティック・バイオレンス）について	67
7	男女共同参画行政について	74
III	自由意見	79
1	自由意見	80
IV	調査結果のまとめ	83
1	調査結果のまとめ	84

I 調査の概要

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、瀬戸市民の男女共同参画の意識や実態を把握し、「第2次瀬戸市女性活躍推進計画・第4次瀬戸市男女共同参画プラン」策定のための基礎資料とすることを目的として実施しました。

(2) 調査概要

対象者	令和2年7月現在、瀬戸市に居住している 18歳以上の市民より無作為抽出
調査票の配布・回収	郵送配布・郵送回収
調査期間	令和2年7月31日～8月31日

配布数 (A)	2,000 件
回収件数 (B)	672 件
回収率 (B/A)	33.6%
有効回答件数 (C)	672 件
有効回答率 (C/A)	33.6%

(3) 報告書の見方

●集計について

本報告書では、設問ごとに全体の集計結果を記載しています。

●「N」について

グラフ中の「N」とは、Number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表しています。したがって、各選択肢の%に「N」を乗じることで、その選択肢の回答者数が計算できます。

●「%」について

グラフ中の「%」は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、○はひとつの設問（1つだけに○をつけるもの）であっても、合計が100%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示しています。

●選択肢の記載について

グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載しています。

●表について

「その他」「不明・無回答」を除き、回答の高いもの**第1位**と**第2位**に網掛けをしています。ただし、N数が1桁のものは順位付けを省略し、読み取り文の対象外としています。

●グラフについて

単数回答のグラフについては、数値が「0.0」の場合、グラフ中には表記していません。

●比較分析について

比較分析において使用した調査名は次のとおりです。

【経年比較】・瀬戸市平成27年度実施「男女共同参画に関するアンケート調査」

【県調査比較】・愛知県令和元年度実施「男女共同参画意識に関する調査」

【国調査比較】・内閣府令和元年度実施「男女共同参画社会に関する世論調査」

有効回収数

単位：件

対象調査	全体	女性	男性
瀬戸市平成27年度実施 「男女共同参画に関するアンケート調査」	765	423	332
愛知県令和元年度実施 「男女共同参画意識に関する調査」	1,220	641	539
内閣府令和元年度実施 「男女共同参画社会に関する世論調査」	2,645	1,407	1,238

II 調査結果

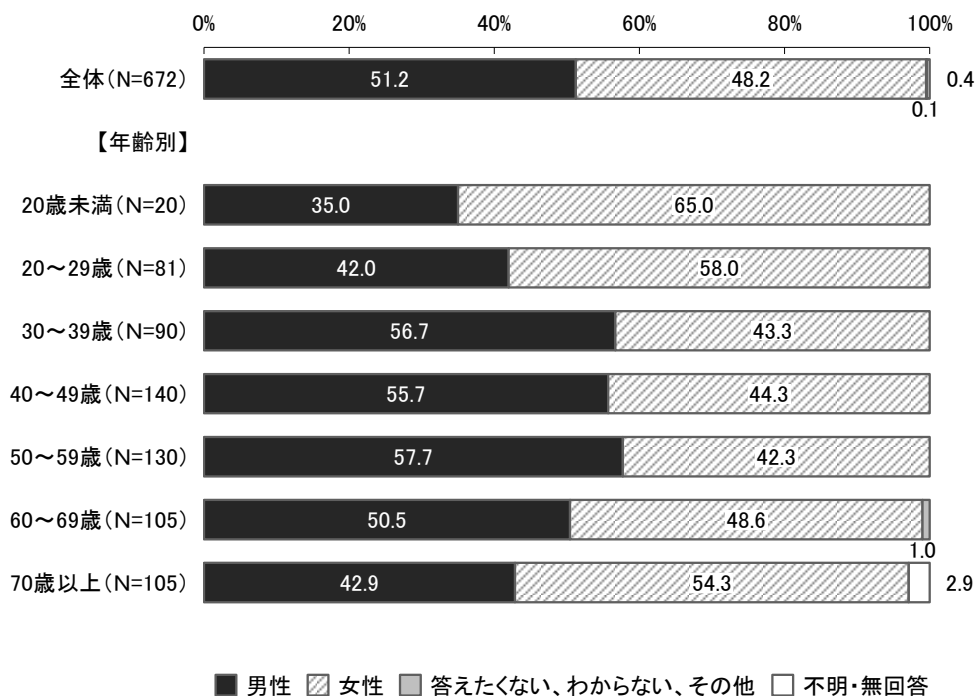
1 あなた自身のことについて

問1 あなた自身のことについておたずねします。

(1) あなたの性別は、次のうちどれですか。(○はひとつ)

性別についてみると、全体では「男性」が51.2%、「女性」が48.2%となっています。

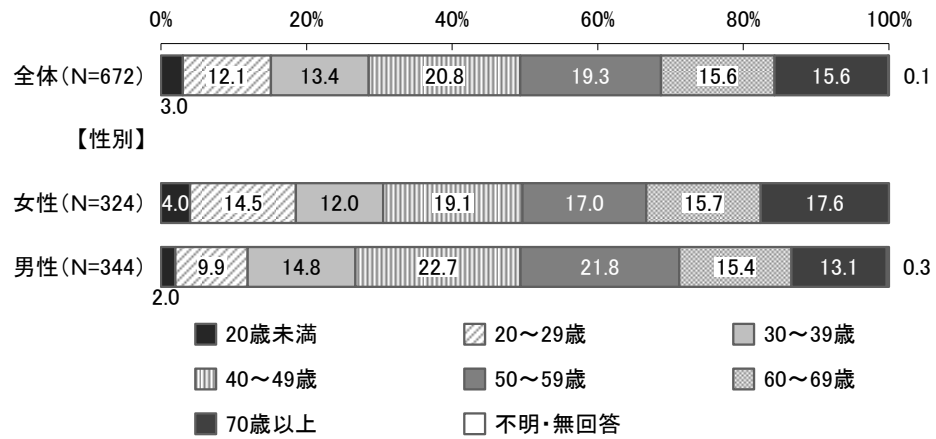
年齢別でみると、20歳未満、20歳代、70歳以上で「女性」が5割を超え、他の年齢区分と比べて高くなっています。



(2)あなたの年齢は、次のうちどれですか。(〇はひとつ)

年齢についてみると、全体では「40～49歳」が20.8%と最も高く、次いで「50～59歳」が19.3%、「60～69歳」、「70歳以上」がそれぞれ15.6%となっています。

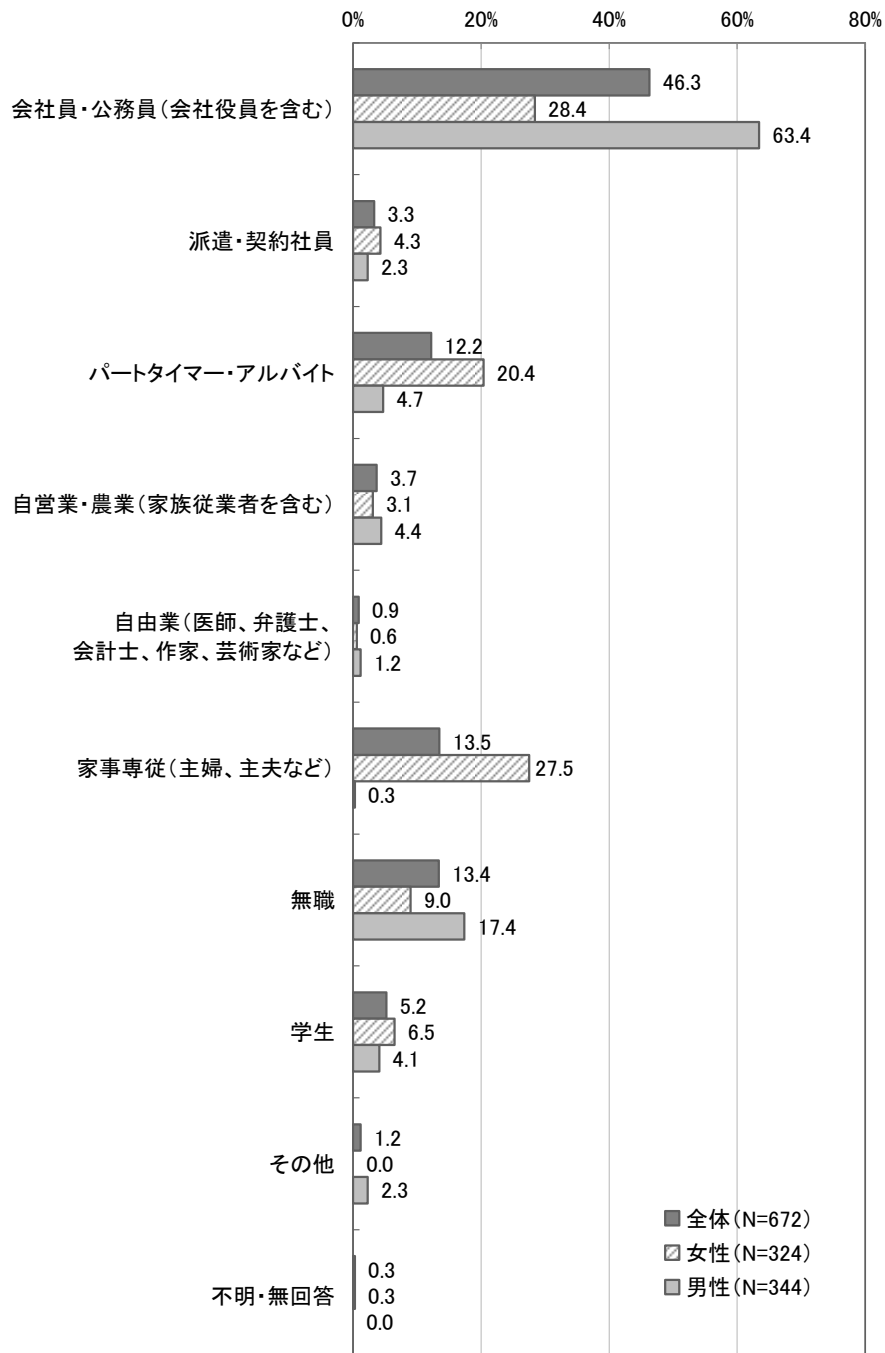
性別でみると、大きな差異はみられません。



(3)あなたの主な職業は、次のうちどれですか。(〇はひとつ)

主な職業についてみると、全体では「会社員・公務員（会社役員を含む）」が46.3%と最も高く、次いで「家事専従（主婦、主夫など）」が13.5%、「無職」が13.4%となっています。

性別でみると、女性では「パートタイマー・アルバイト」、「家事専従（主婦、主夫など）」の割合が男性に比べて高い一方で、「会社員・公務員（会社役員を含む）」、「無職」の割合が男性に比べて低くなっています。



年齢別比較

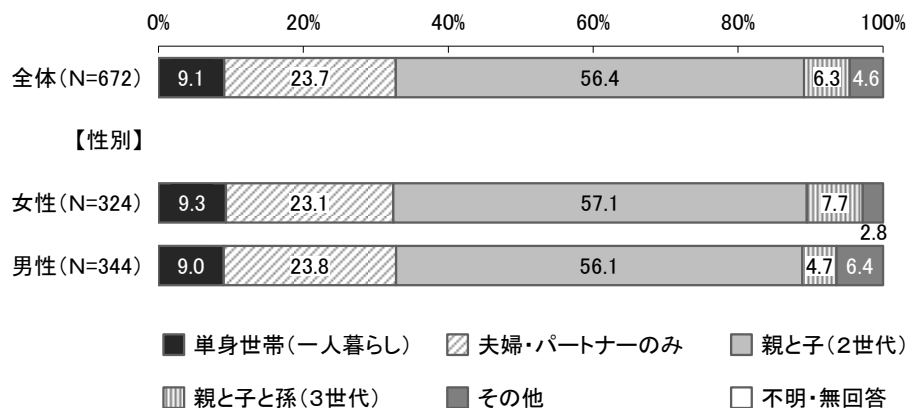
年齢別で見ると、20歳未満では「学生」、70歳以上では「無職」、20～60歳代では「会社員・公務員（会社役員を含む）」の割合が高くなっています。

(単位：%)	会社員・公務員 (会社役員を含む)	派遣・契約社員	パートタイマー・アルバイト	自営業・農業 (家族従業者を含む)	自由業(医師、 弁護士、会計士、作家、 芸術家など)	家事専従(主婦、 主夫など)	無職	学生	その他	不明・無回答
【年齢別】										
20歳未満(N=20)	5.0	5.0	5.0	0.0	0.0	5.0	5.0	75.0	0.0	0.0
20～29歳(N=81)	63.0	2.5	4.9	0.0	1.2	2.5	1.2	24.7	0.0	0.0
30～39歳(N=90)	65.6	3.3	10.0	1.1	0.0	15.6	3.3	0.0	1.1	0.0
40～49歳(N=140)	62.1	2.9	13.6	5.7	1.4	10.0	2.1	0.0	2.1	0.0
50～59歳(N=130)	61.5	3.8	16.9	4.6	0.8	5.4	4.6	0.0	2.3	0.0
60～69歳(N=105)	28.6	6.7	20.0	5.7	1.0	18.1	20.0	0.0	0.0	0.0
70歳以上(N=105)	1.9	0.0	5.7	3.8	1.0	32.4	52.4	0.0	1.0	1.9

(4)あなたの家族構成は、次のうちどれですか。(〇はひとつ)

家族構成についてみると、全体では「親と子（2世代）」が56.4%と最も高く、次いで「夫婦・パートナーのみ」が23.7%、「単身世帯（一人暮らし）」が9.1%となっています。

性別で見ると、大きな差異はみられません。

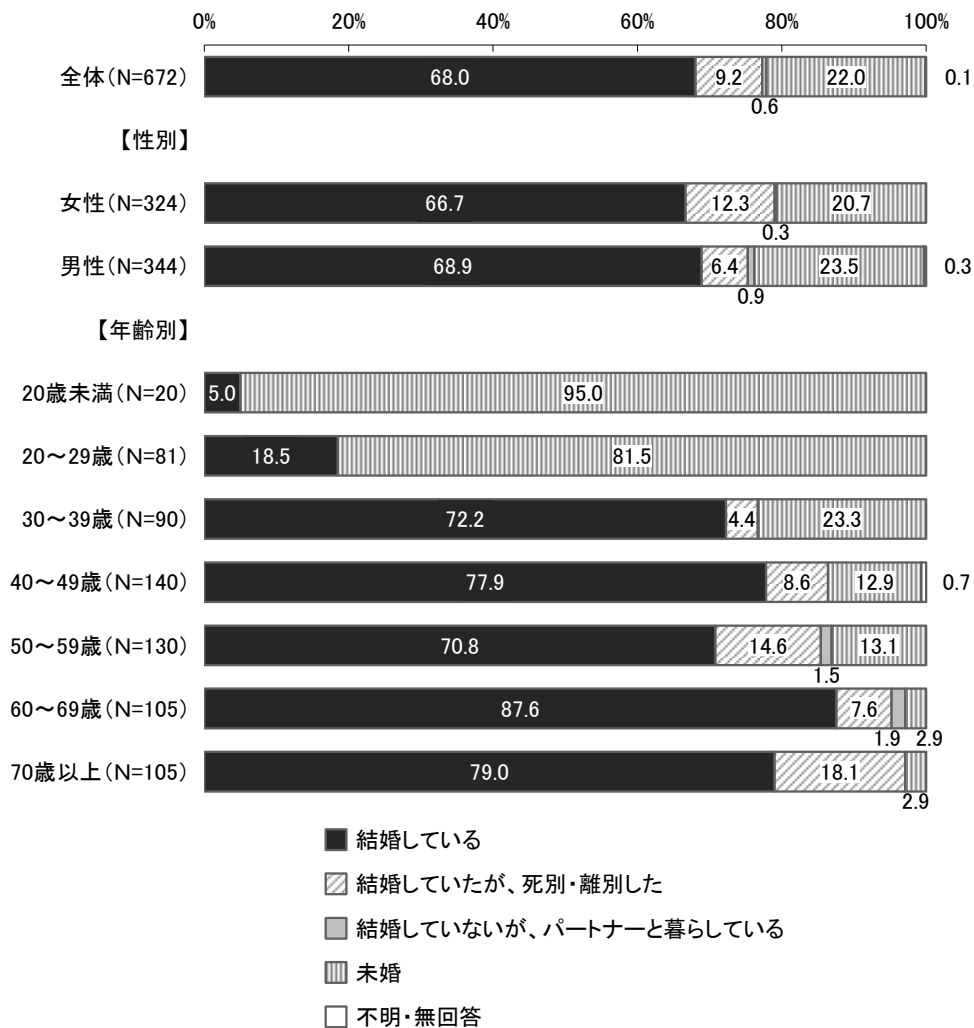


(5)あなたは結婚していますか。(〇はひとつ)

結婚しているかについてみると、全体では「結婚している」が68.0%と最も高く、次いで「未婚」が22.0%、「結婚していたが、死別・離別した」が9.2%となっています。

性別でみると、女性では「結婚していたが、死別・離別した」の割合が、男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、30～50歳代で「未婚」の割合が1～2割と、一定数みられます。



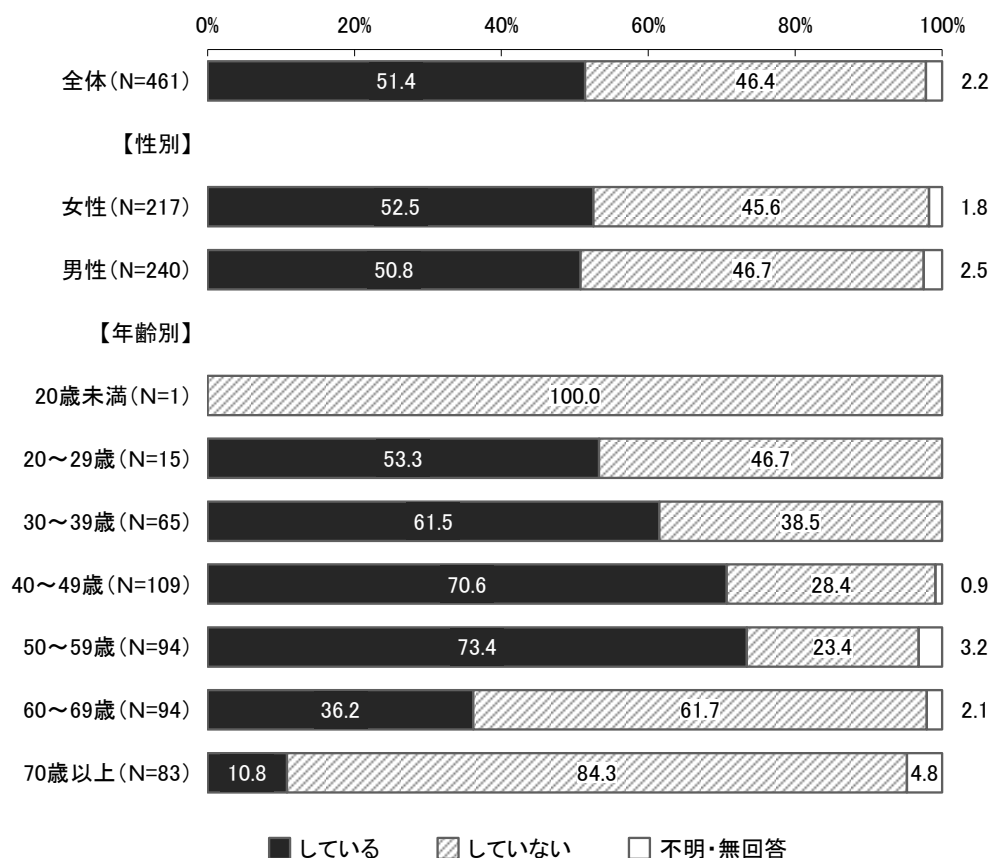
(5)で「結婚している」または「結婚していないが、パートナーと暮らしている」と答えた方におたずねします。

(6)あなたは共働きをしていますか。(〇はひとつ)

共働きをしているかについてみると、全体では「している」が51.4%、「していない」が46.4%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

年齢別でみると、50歳代以下では「している」の割合が半数を超えている一方で、60歳代以上では「していない」の割合が半数を超えています。

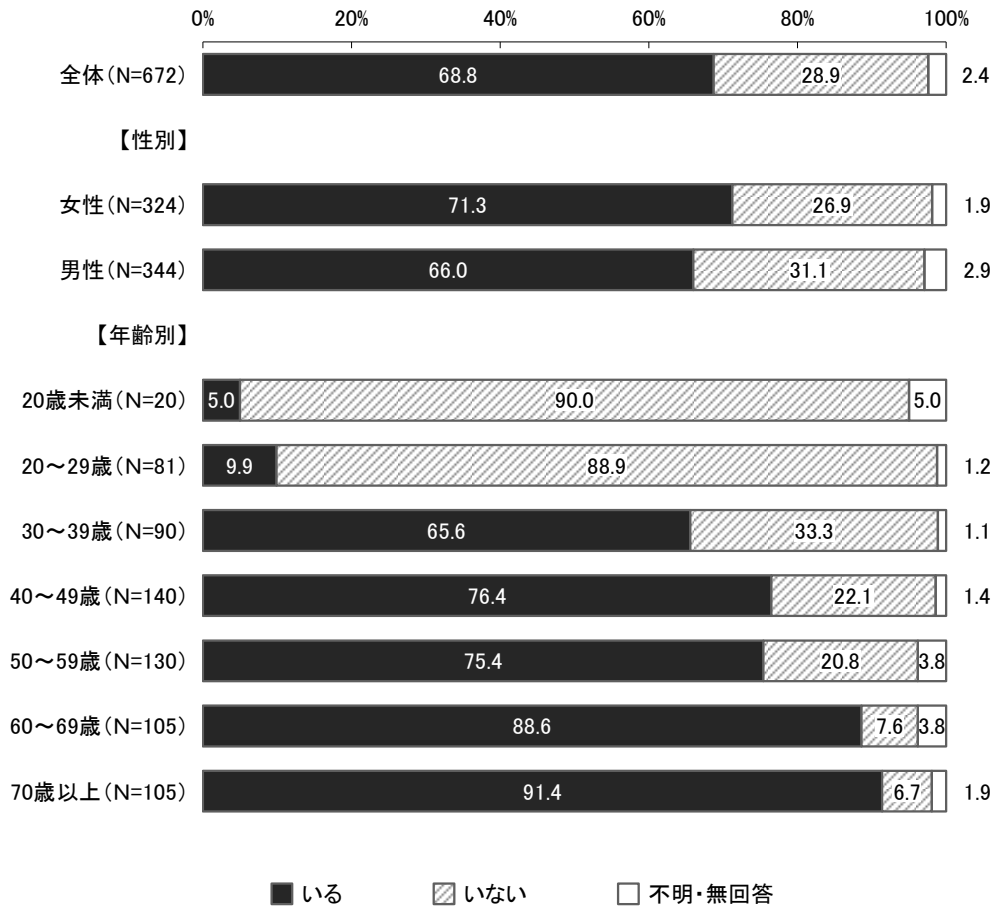


(7)あなたにお子さんはいますか。(〇はひとつ)

子どもはいるかについてみると、全体では「いる」が68.8%、「いない」が28.9%となっています。

性別でみると、女性で「いる」の割合が、男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、30歳代以上では「いる」の割合が半数を超えており、年齢が上がるにつれて高くなっています。



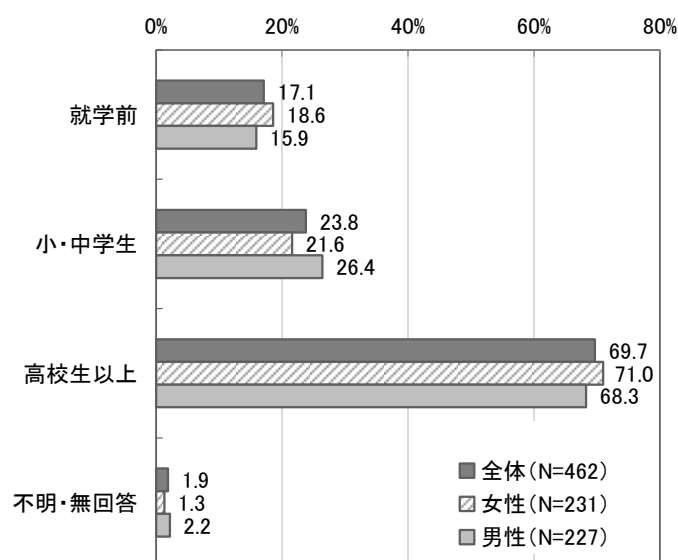
(7)で「いる」と答えた方におたずねします。

(8)お子さんは次のうちどれにあてはまりますか。(2人以上いる場合は、あてはまる番号すべてに○)

お子さんの状況についてみると、全体では「高校生以上」が69.7%と最も高く、次いで「小・中学生」が23.8%、「就学前」が17.1%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

年齢別でみると、30歳代では「就学前」、40歳代では「小・中学生」、50歳代以上では「高校生以上」の割合が高くなっています。



年齢別比較

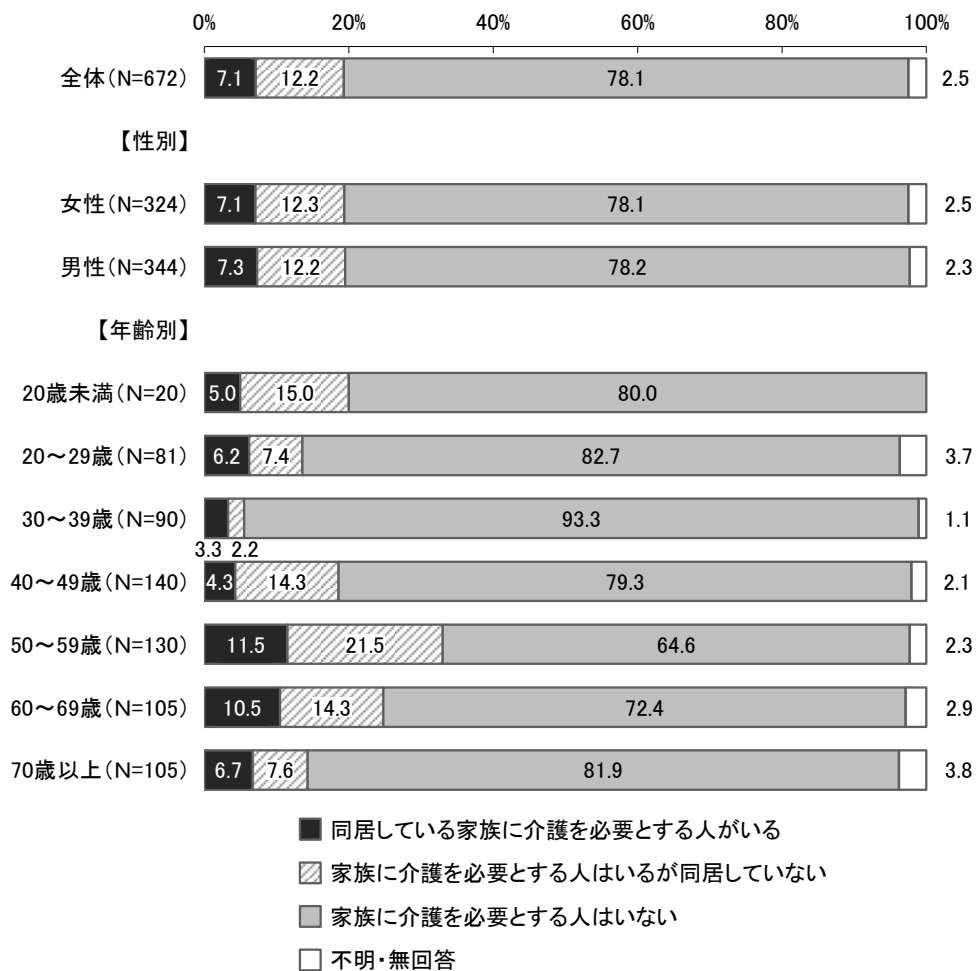
	就学前	小・中学生	高校生以上	不明・無回答
(単位：%)				
【年齢別】				
20歳未満 (N=1)	100.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳 (N=8)	87.5	25.0	0.0	0.0
30～39歳 (N=59)	81.4	45.8	0.0	0.0
40～49歳 (N=107)	19.6	61.7	47.7	0.0
50～59歳 (N=98)	1.0	11.2	93.9	1.0
60～69歳 (N=93)	0.0	2.2	98.9	0.0
70歳以上 (N=96)	1.0	2.1	90.6	8.3

(9) 家族に介護を必要とする人はいますか。(〇はひとつ)

家族に介護を必要とする人はいるかについてみると、全体では「家族に介護を必要とする人はいない」が78.1%と最も高く、次いで「家族に介護を必要とする人はいるが同居していない」が12.2%、「同居している家族に介護を必要とする人がいる」が7.1%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

年齢別でみると、50歳代では「同居している家族に介護を必要とする人がいる」と「家族に介護を必要とする人はいるが同居していない」をあわせた“介護を必要とする人がいる”の割合が3割を超え、他の年齢区分と比べて高くなっています。



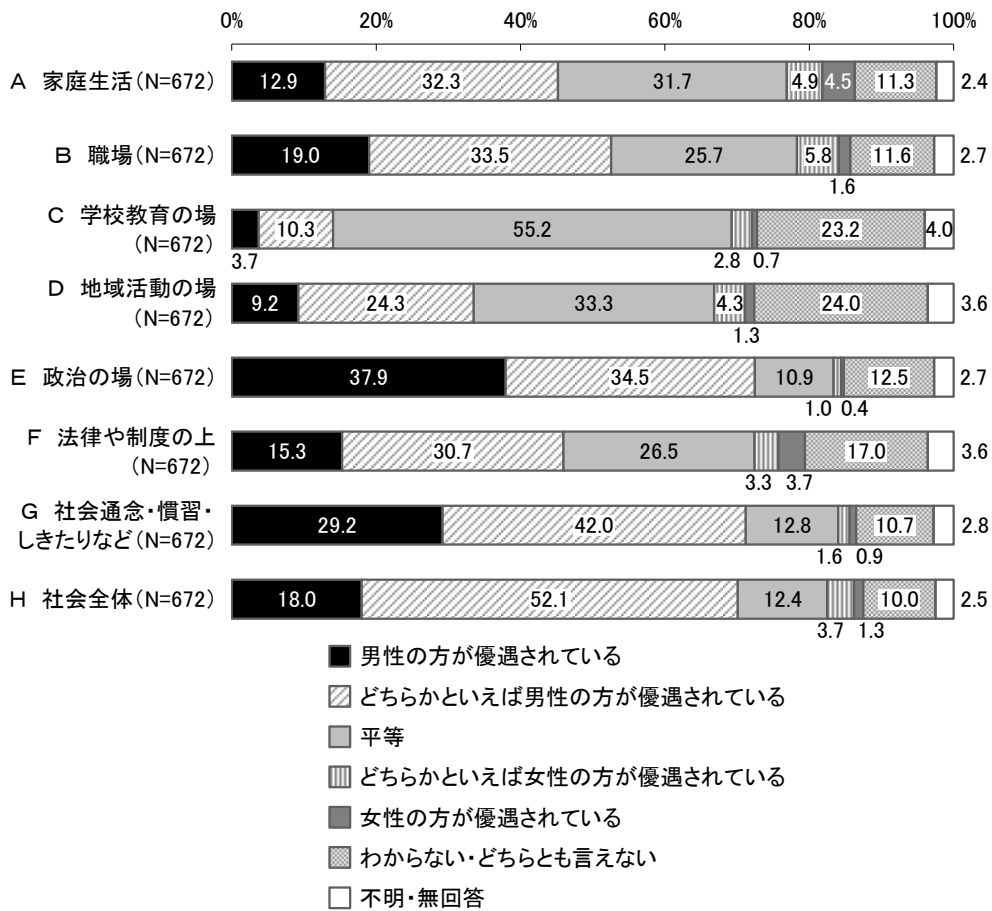
2 男女平等について

問2 以下のA～Hの分野において男女の地位は平等になっていると思いますか。(各分野についてそれぞれ○はひとつ)

A～Hの8つの分野についてみると、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合は、「政治の場」が72.4%と最も高く、次いで「社会通念・慣習・しきたりなど」が71.2%、「社会全体」が70.1%となっています。

「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」をあわせた“女性の方が優遇されている”の割合は、「政治の場」が1.4%と最も低く、次いで「社会通念・慣習・しきたりなど」が2.5%、「学校教育の場」が3.5%となっています。

また、「平等」の割合は、「学校教育の場」が55.2%と最も高くなっています。

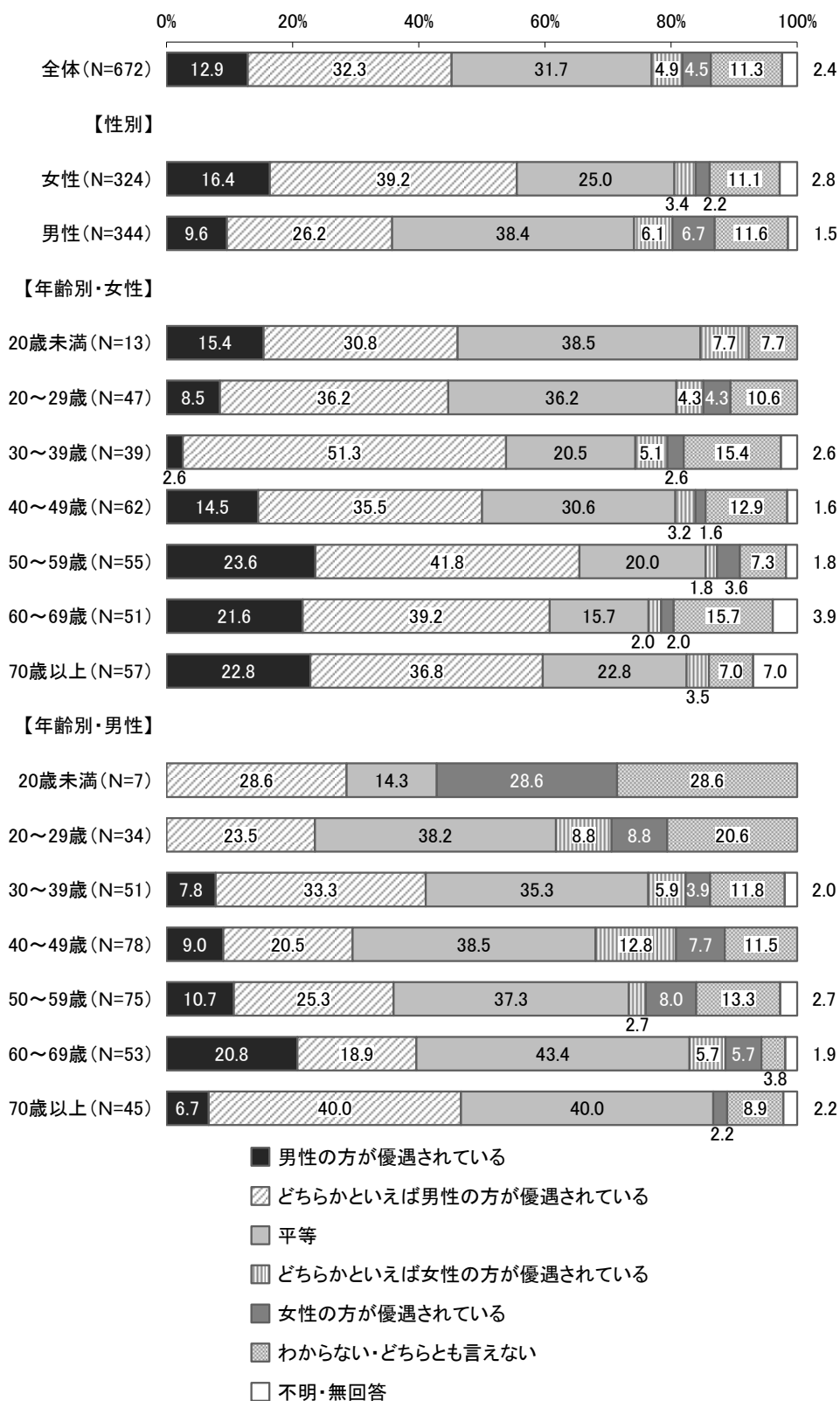


A 家庭生活は平等になっていると思いますか。

家庭生活についてみると、全体では“男性の方が優遇されている”が45.2%、「平等」が31.7%、“女性の方が優遇されている”が9.4%となっています。

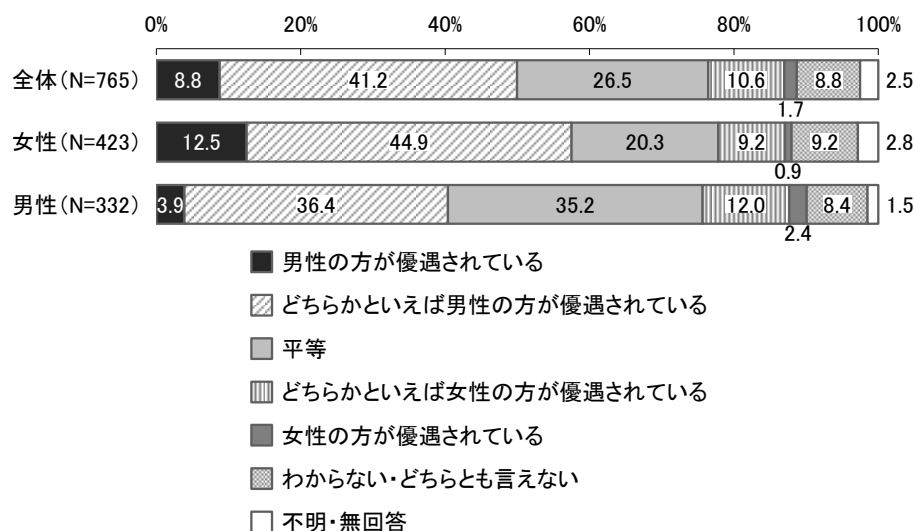
性別でみると、女性では“男性の方が優遇されている”の割合が高い一方で、男性では「平等」の割合が高く、それぞれの割合の差が大きい結果となっています。

性・年齢別でみると、女性の50歳代では“男性の方が優遇されている”の割合が、他の性・年齢区分と比べて高くなっています。



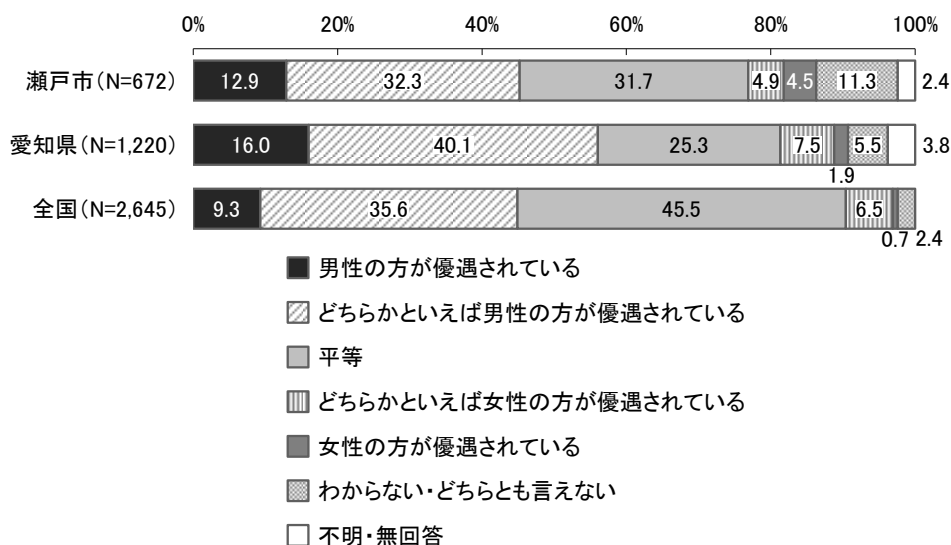
《前回調査との比較（平成 27 年度）》

前回調査と比較すると、全体では「平等」の割合が高くなっています。
性別でみると、全体と同様の傾向がみられます。



《県調査・全国調査との比較》

県調査と比較すると、愛知県に比べ“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。
全国調査と比較すると、全国に比べ「平等」の割合が低くなっています。

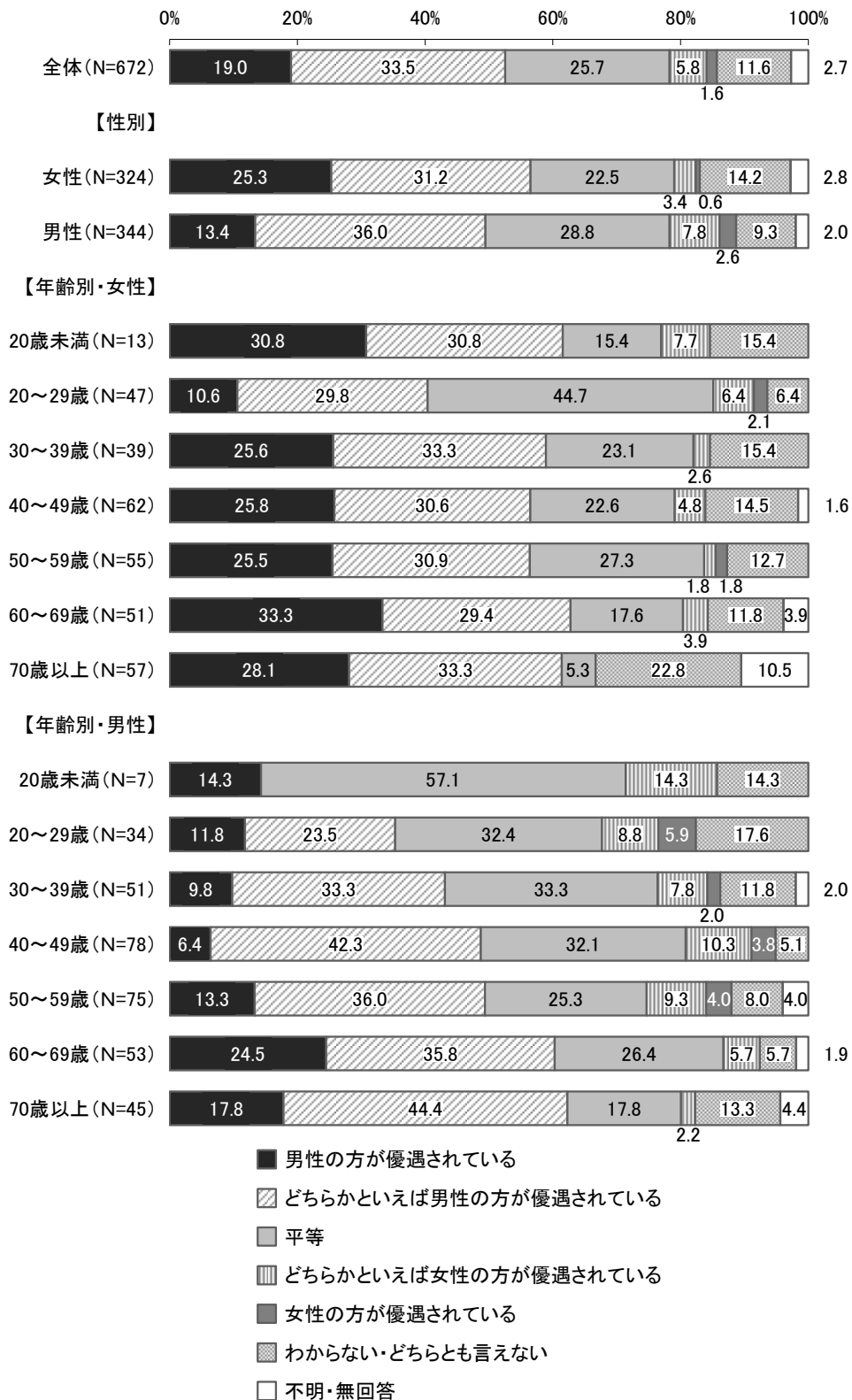


B 職場は平等になっていると思いますか。

職場についてみると、全体では“男性の方が優遇されている”が 52.5%、「平等」が 25.7%、“女性の方が優遇されている”が 7.4%となっています。

性別でみると、女性では“男性の方が優遇されている”の割合が、男性と比べて高くなっています。

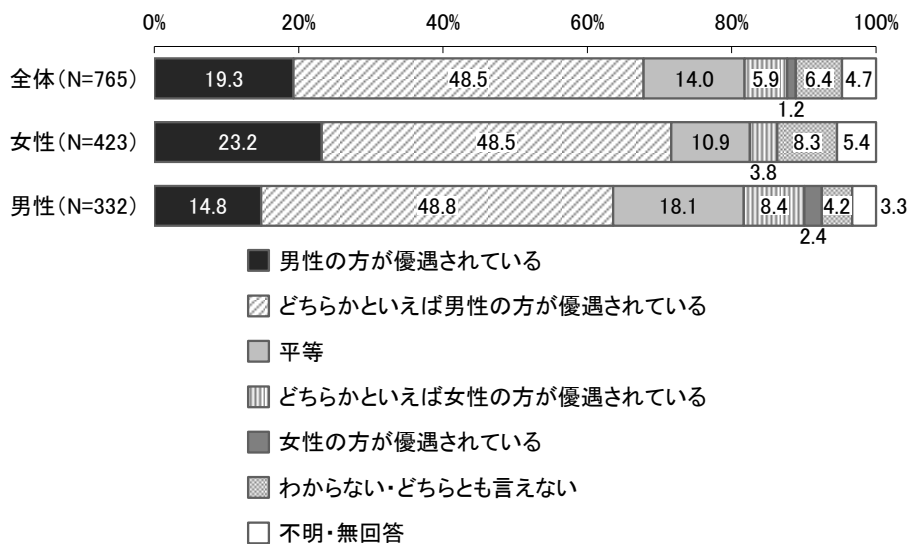
性・年齢別でみると、男女ともに 60 歳代以上で“男性の方が優遇されている”の割合が 6 割を超え、他の性・年齢区分と比べて高くなっており、また、男性では年齢が上がるにつれて、割合が高くなる傾向がみられます。



《前回調査との比較（平成 27 年度）》

前回調査と比較すると、全体では“男性の方が優遇されている”の割合が低くなり、「平等」の割合が高くなっています。

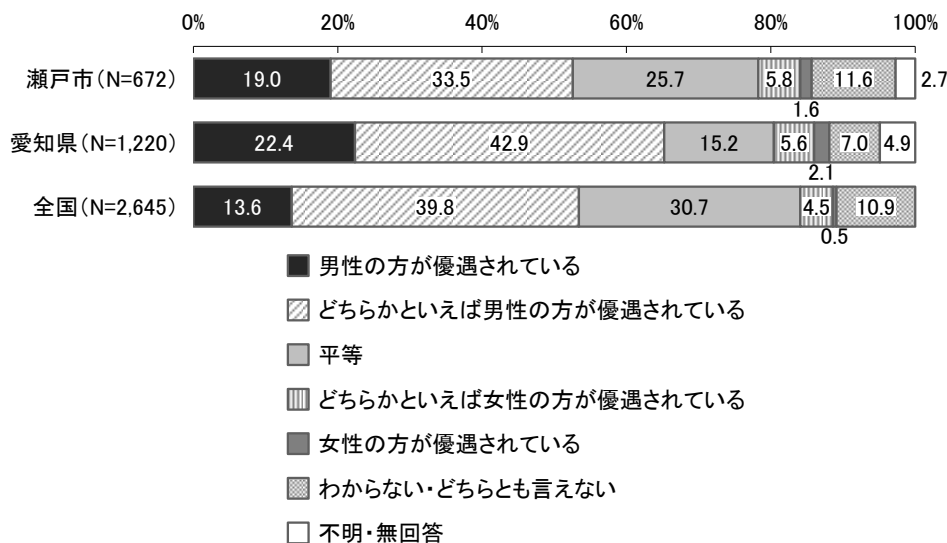
性別で見ると、全体と同様の傾向がみられます。



《県調査・全国調査との比較》

県調査と比較すると、愛知県に比べ“男性の方が優遇されている”の割合が低く、「平等」の割合が高くなっています。

全国調査と比較すると、全国に比べ「平等」の割合が低くなっています。

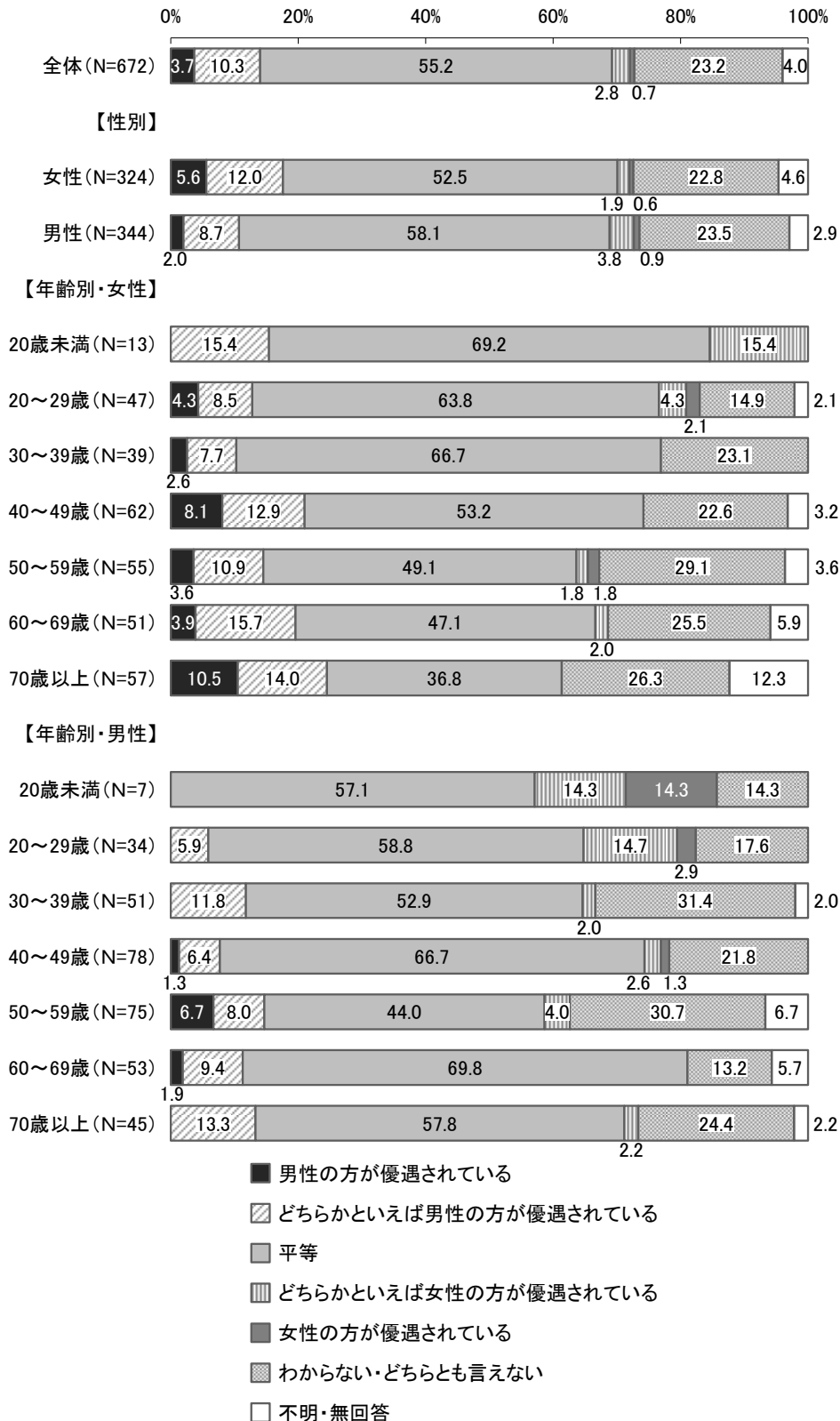


C 学校教育の場は平等になっていると思いますか。

学校教育の場についてみると、全体では“男性の方が優遇されている”が14.0%、「平等」が55.2%、“女性の方が優遇されている”が3.5%となっています。

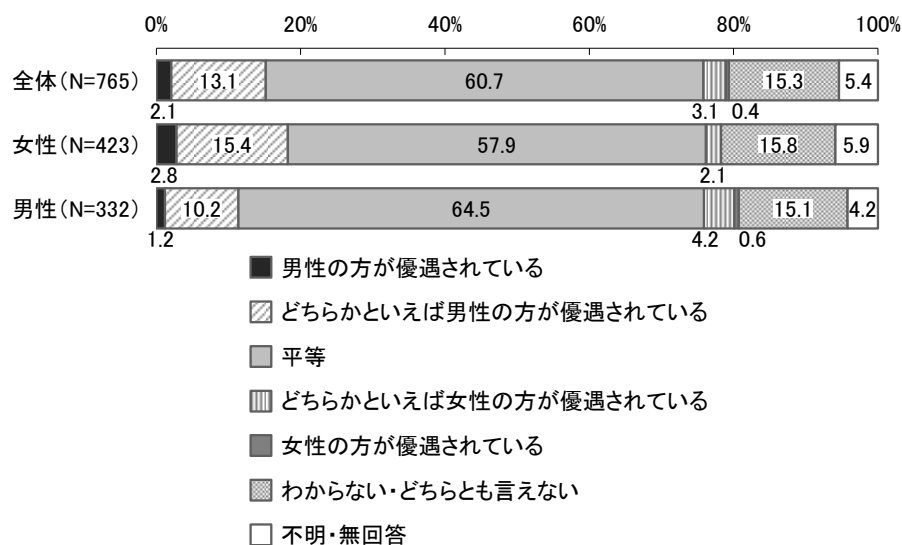
性別でみると、女性では“男性の方が優遇されている”の割合が、男性と比べて高くなっています。

性・年齢別でみると、女性の40歳代、70歳以上では“男性の方が優遇されている”の割合が2割を超え、他の性・年齢区分と比べて高くなっています。



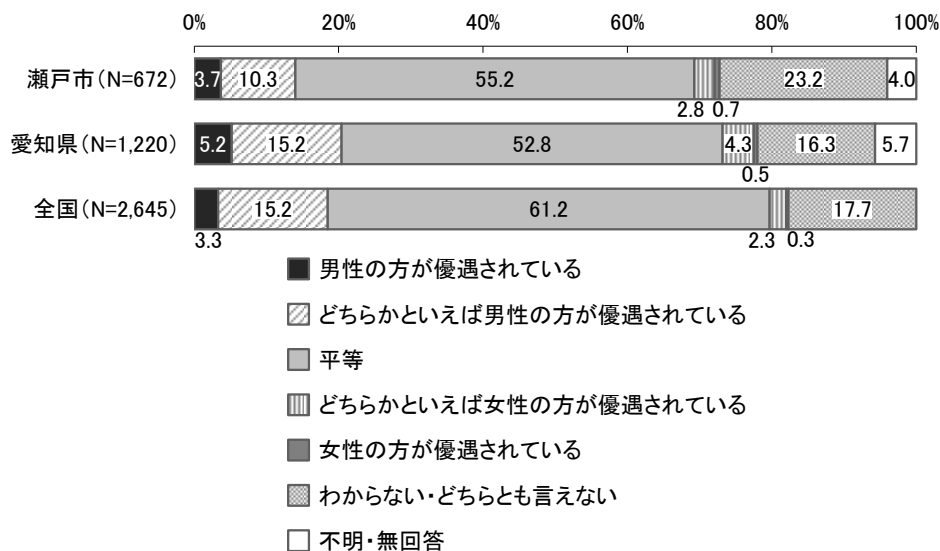
《前回調査との比較（平成 27 年度）》

前回調査と比較すると、全体では「平等」の割合が低くなっています。
性別で見ると、全体と同様の傾向がみられます。



《県調査・全国調査との比較》

県調査と比較すると、愛知県に比べ“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。
全国調査と比較すると、全国に比べ「平等」の割合が低くなっています。

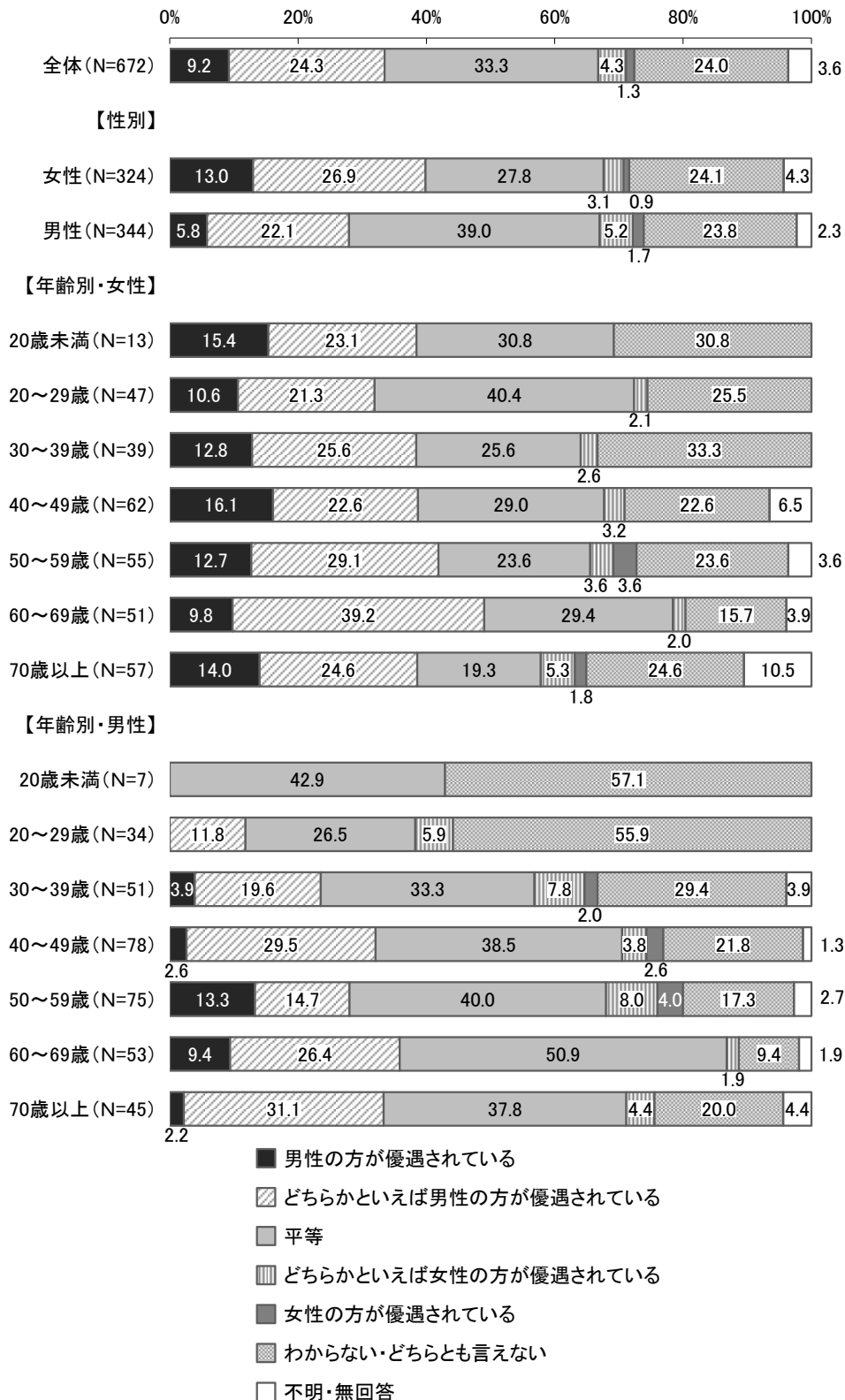


D 地域活動(自治会、町内会)の場は平等になっていると思いますか。

地域活動の場についてみると、全体では“男性の方が優遇されている”が33.5%、「平等」が33.3%、“女性の方が優遇されている”が5.6%となっています。

性別でみると、女性では“男性の方が優遇されている”の割合が高い一方で、男性では「平等」の割合が高く、それぞれの割合の差が大きい結果となっています。

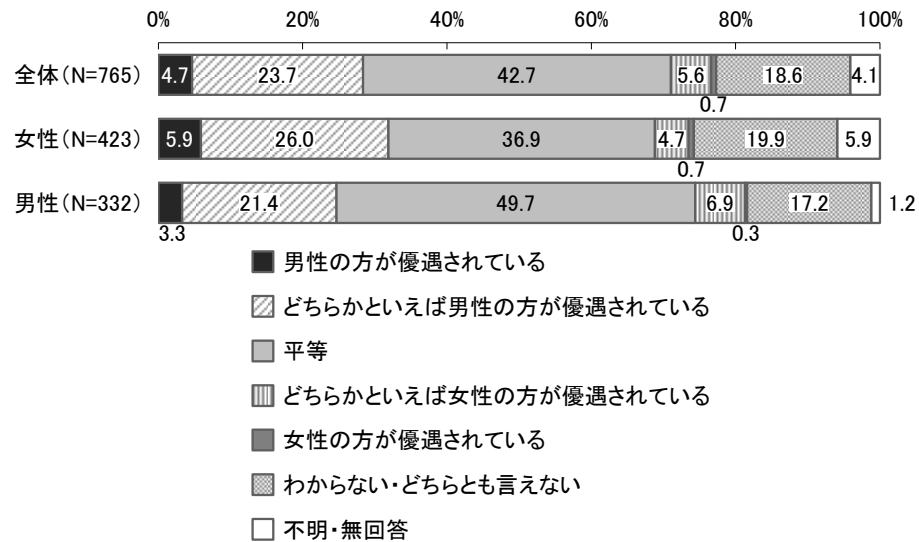
性・年齢別でみると、女性の60歳代では“男性の方が優遇されている”の割合が、他の性・年齢区分と比べて高くなっています。



《前回調査との比較（平成 27 年度）》

前回調査と比較すると、全体では“男性の方が優遇されている”の割合が高く、「平等」の割合が低くなっています。

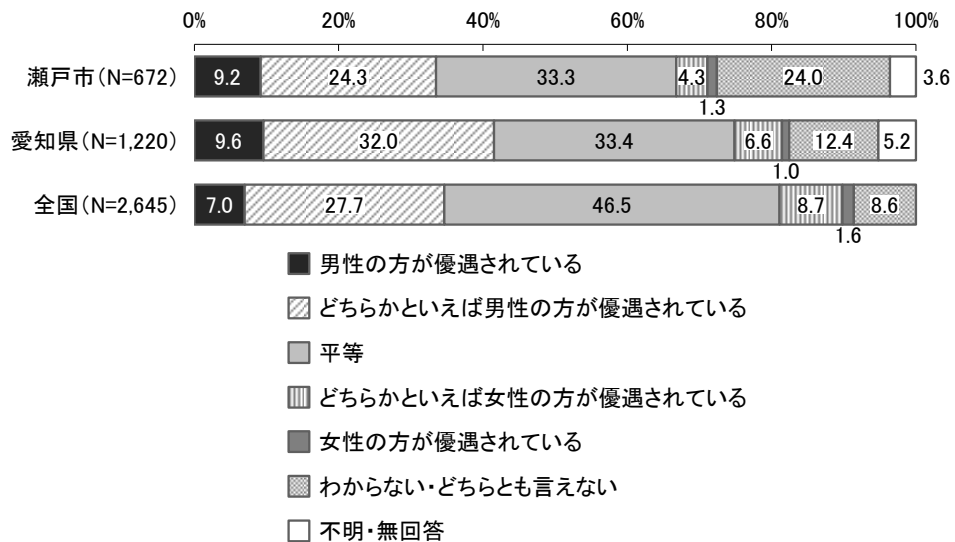
性別で見ると、女性では“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



《県調査・全国調査との比較》

県調査と比較すると、愛知県に比べ“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。

全国調査と比較すると、全国に比べ「平等」の割合が低くなっています。

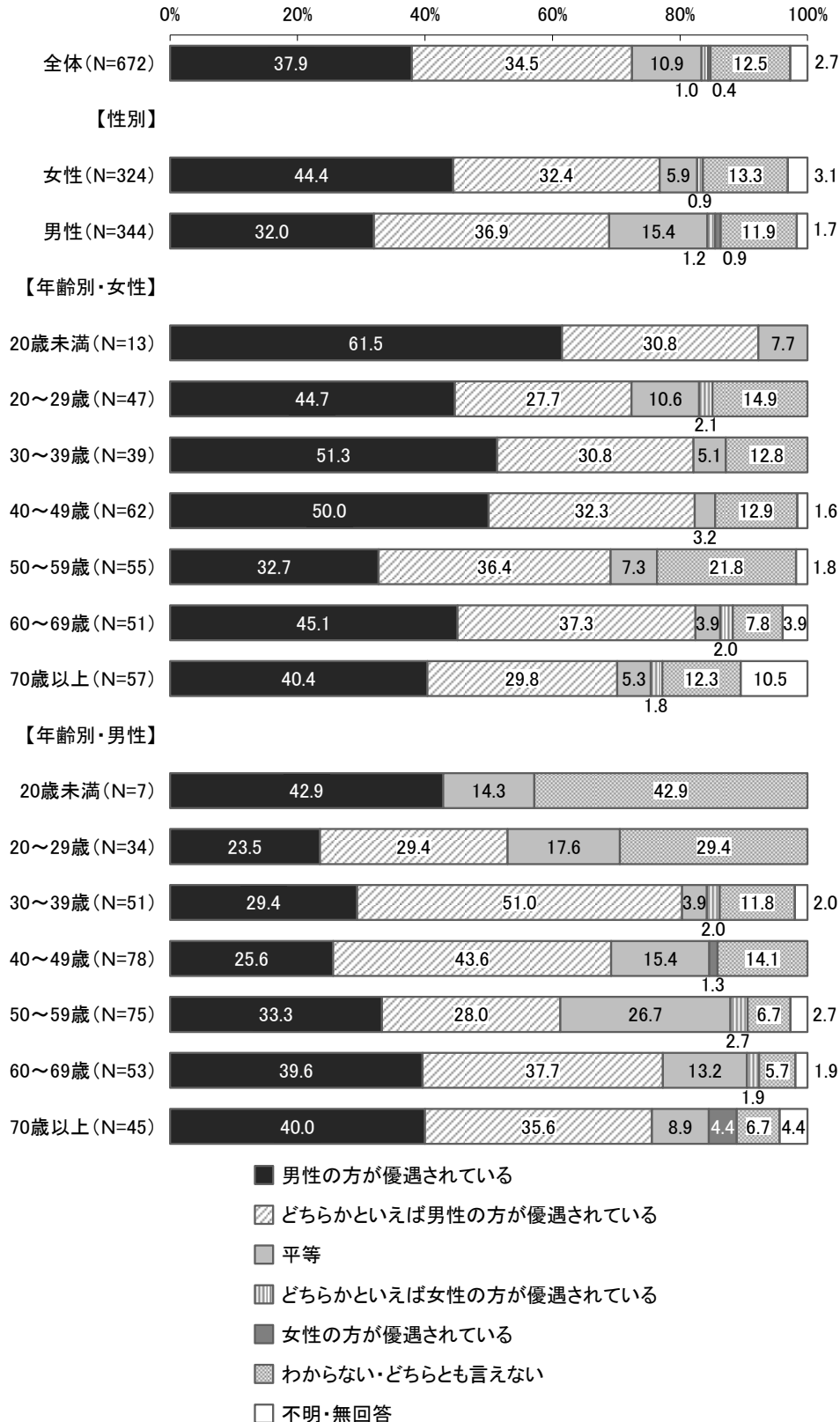


E 政治の場は平等になっていると思いますか。

政治の場についてみると、全体では“男性の方が優遇されている”が72.4%、「平等」が10.9%、“女性の方が優遇されている”が1.4%となっています。

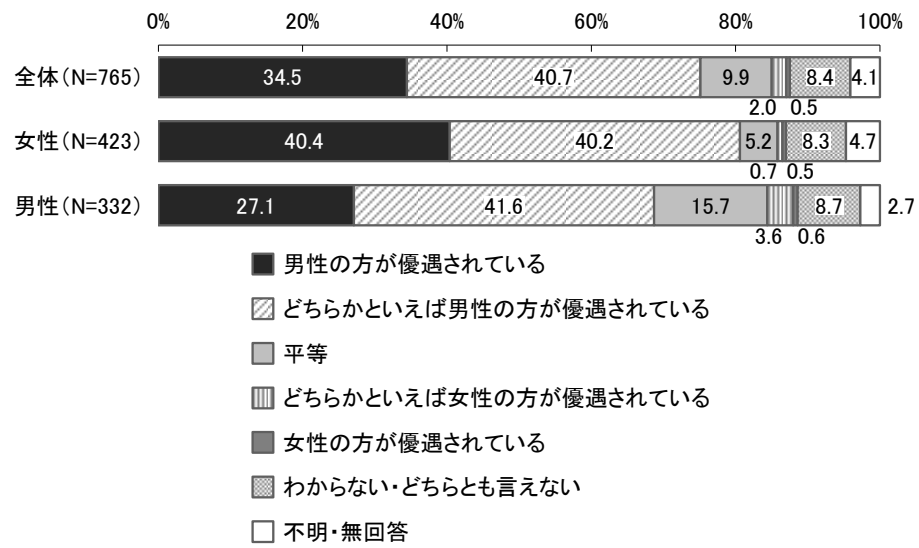
性別でみると、女性では“男性の方が優遇されている”の割合が、男性と比べて高くなっています。

性・年齢別でみると、女性の20歳未満では“男性の方が優遇されている”の割合が、他の性・年齢区分と比べて高くなっています。



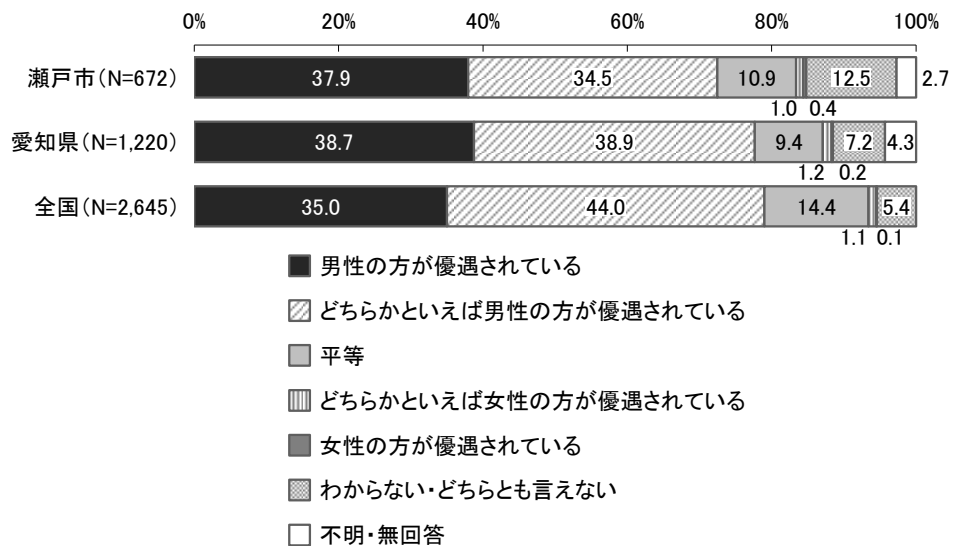
《前回調査との比較（平成 27 年度）》

前回調査と比較すると、全体、男女ともに大きな差異はみられません。



《県調査・全国調査との比較》

県調査・全国調査と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。

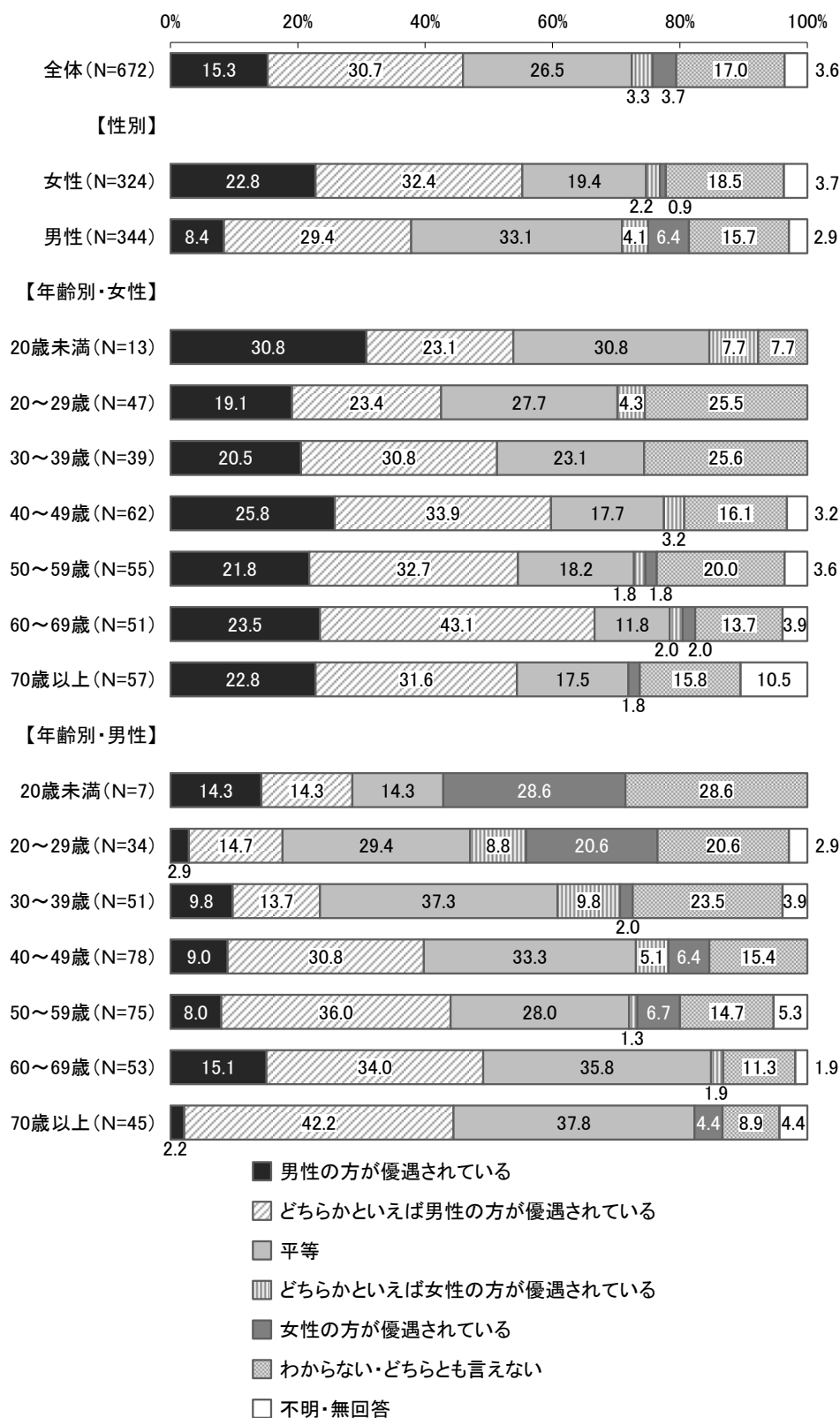


F 法律や制度の上は平等になっていると思いますか。

法律や制度上についてみると、全体では“男性の方が優遇されている”が46.0%、「平等」が26.5%、“女性の方が優遇されている”が7.0%となっています。

性別でみると、女性では“男性の方が優遇されている”の割合が男性と比べて高く、その差が大きい結果となっています。

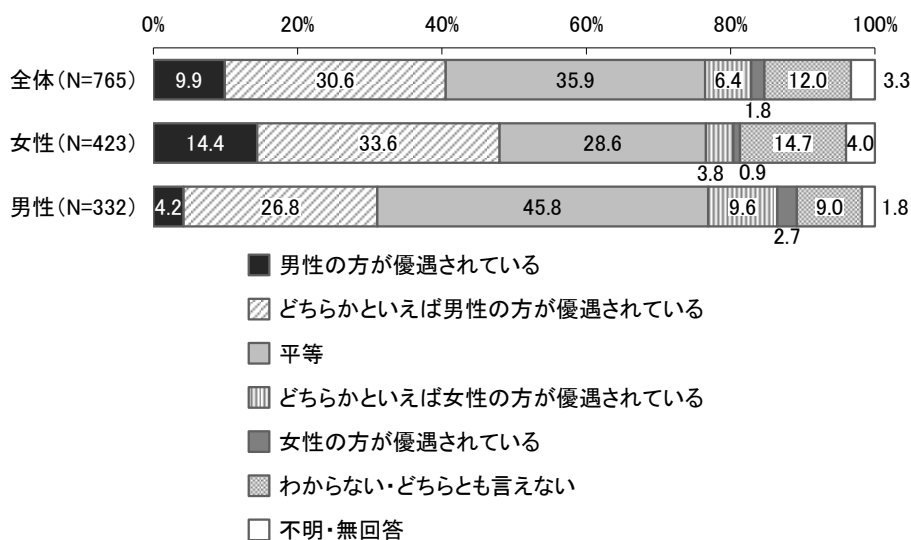
性・年齢別でみると、女性の60歳代では“男性の方が優遇されている”の割合が、他の性・年齢区分と比べて高くなっています。



《前回調査との比較（平成 27 年度）》

前回調査と比較すると、全体では“男性の方が優遇されている”の割合が高く、「平等」の割合が低くなっています。

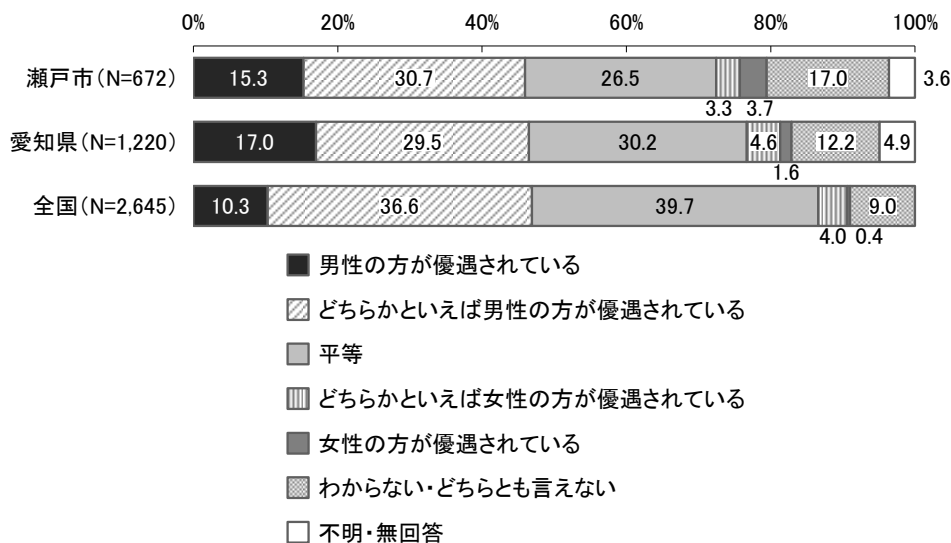
性別でみると、男女ともに“男性の方が優遇されている”の割合が高く、「平等」の割合が低くなっています。



《県調査・全国調査との比較》

県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

全国調査と比較すると、全国に比べ「平等」の割合が低くなっています。

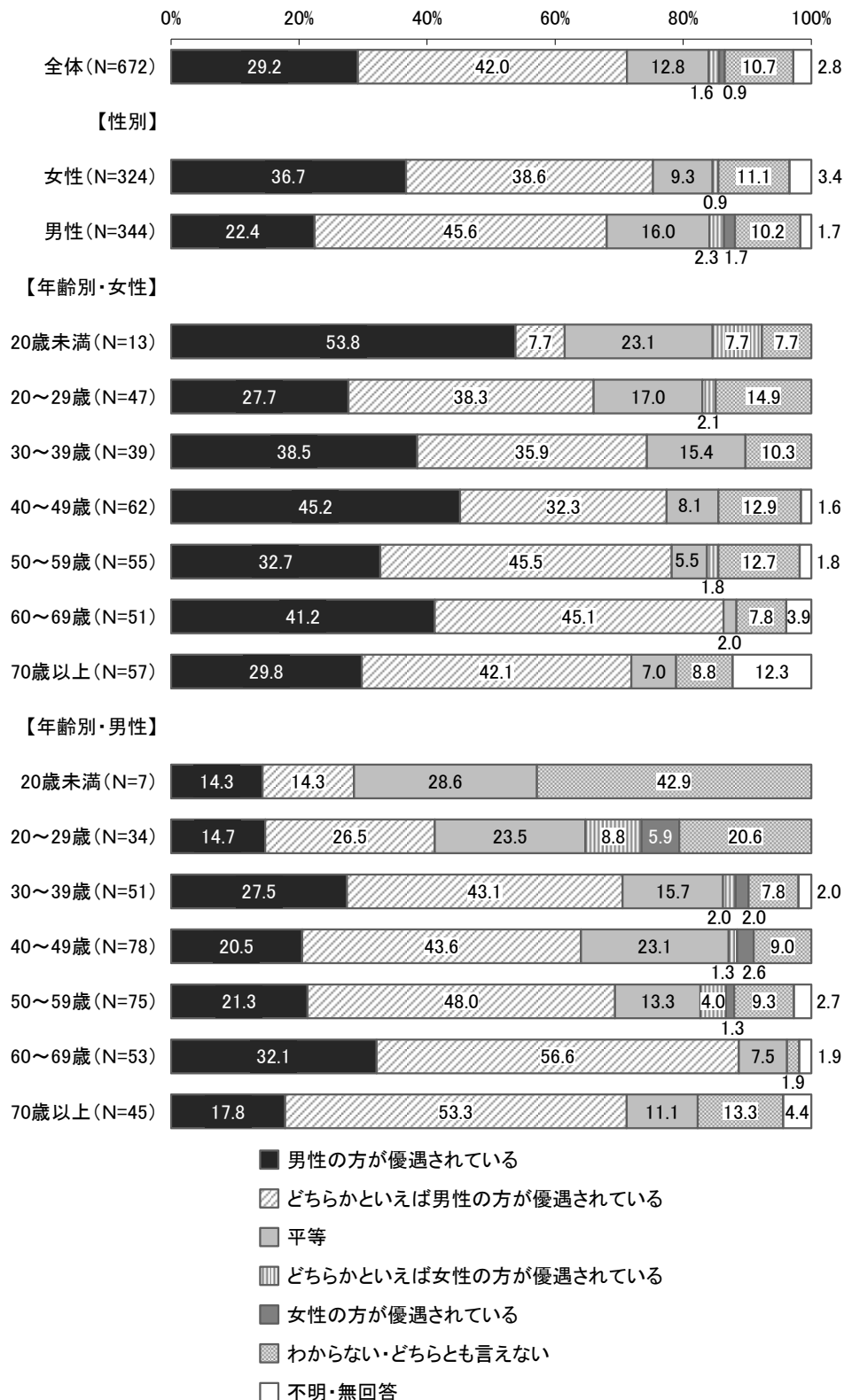


G 社会通念・慣習・しきたりなどは平等になっていると思いますか。

社会通念・慣習・しきたりなどについてみると、全体では“男性の方が優遇されている”が71.2%、「平等」が12.8%、“女性の方が優遇されている”が2.5%となっています。

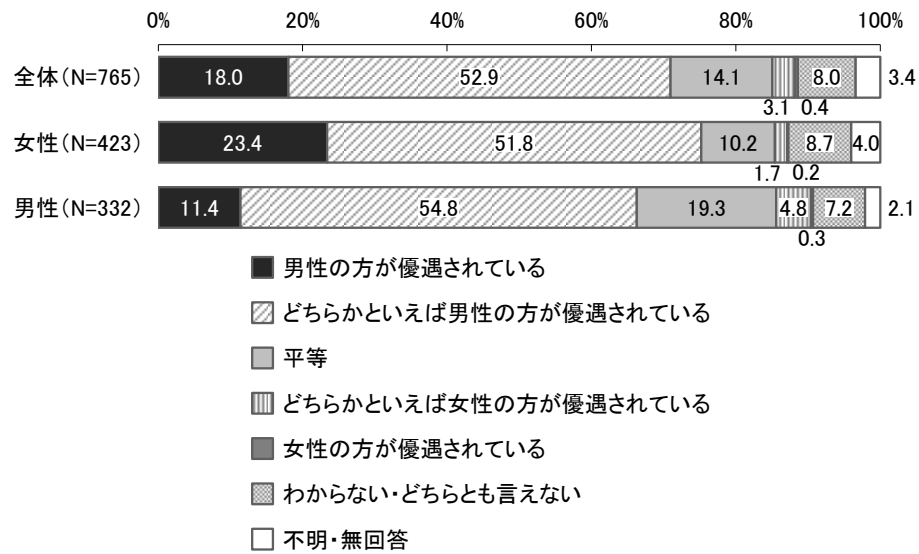
性別でみると、女性では“男性の方が優遇されている”の割合が、男性と比べて高くなっています。

性・年齢別でみると、男女ともに60歳代では“男性の方が優遇されている”の割合が8割を超え、他の性・年齢区分と比べて高くなっています。



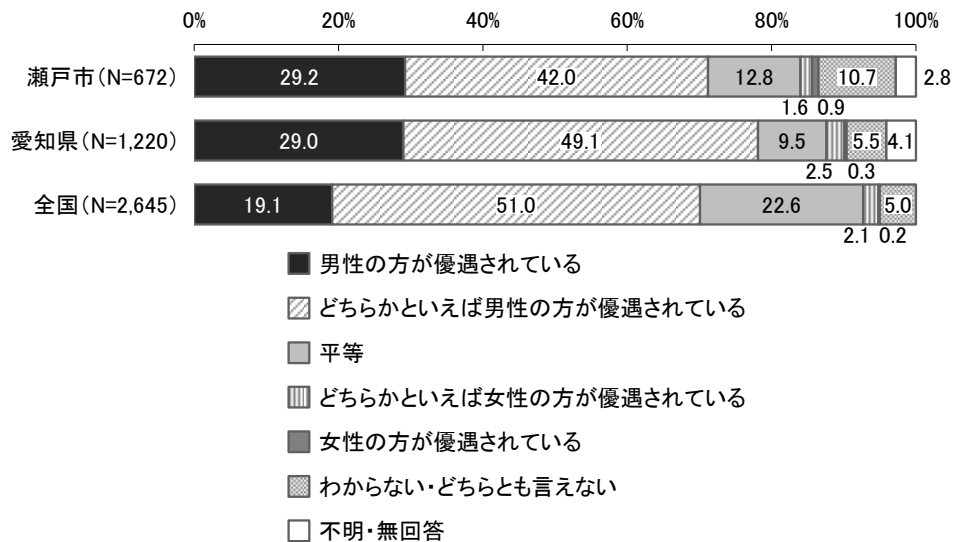
《前回調査との比較（平成 27 年度）》

前回調査と比較すると、全体、男女ともに大きな差異はみられません。



《県調査・全国調査との比較》

県調査と比較すると、愛知県に比べ“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。
 全国調査と比較すると、全国に比べ「平等」の割合が低くなっています。

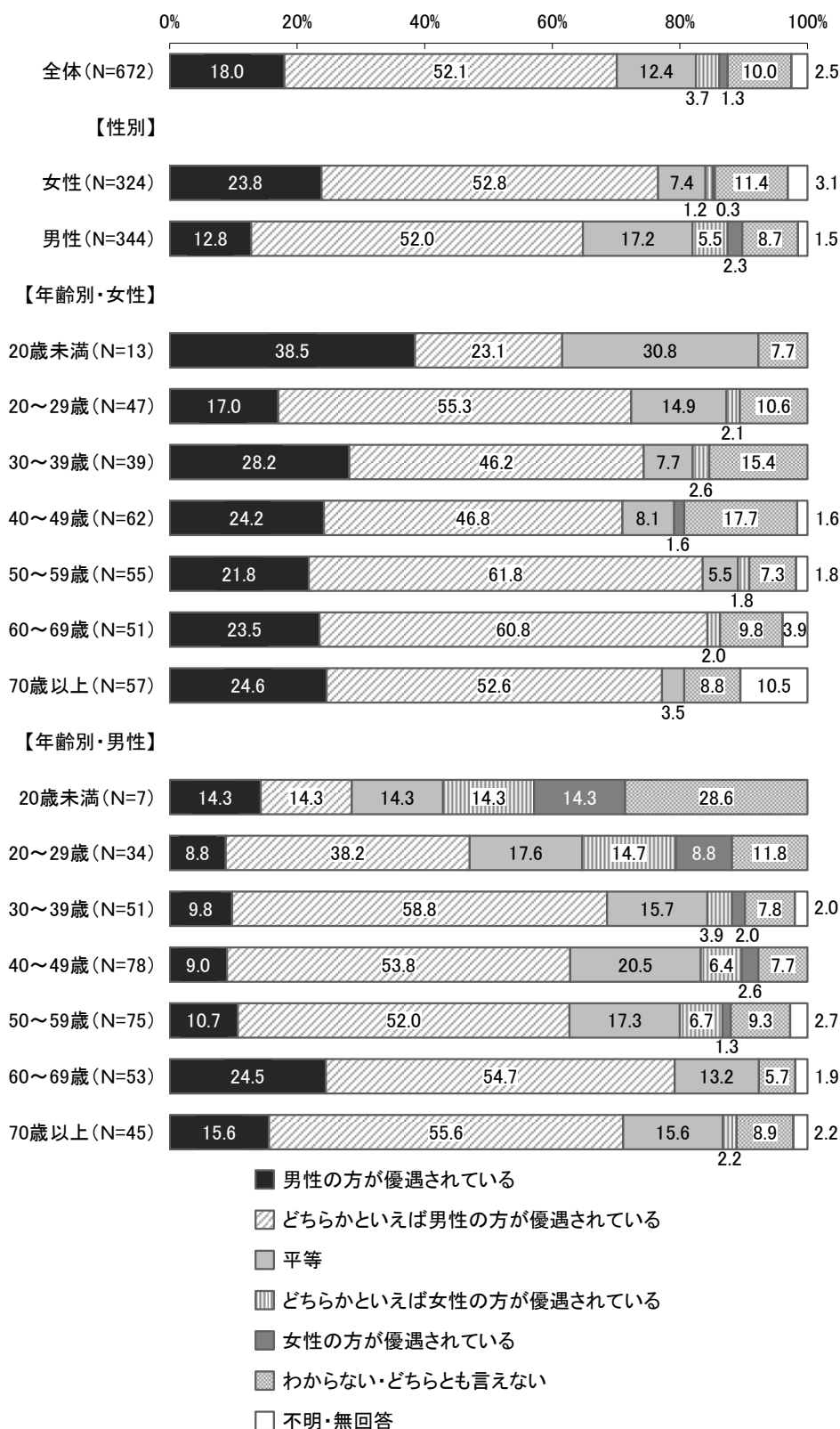


H 社会全体は平等になっていると思いますか。

社会全体についてみると、全体では“男性の方が優遇されている”が70.1%、「平等」が12.4%、“女性の方が優遇されている”が5.0%となっています。

性別でみると、女性では“男性の方が優遇されている”の割合が男性と比べて高く、その差が大きい結果となっています。

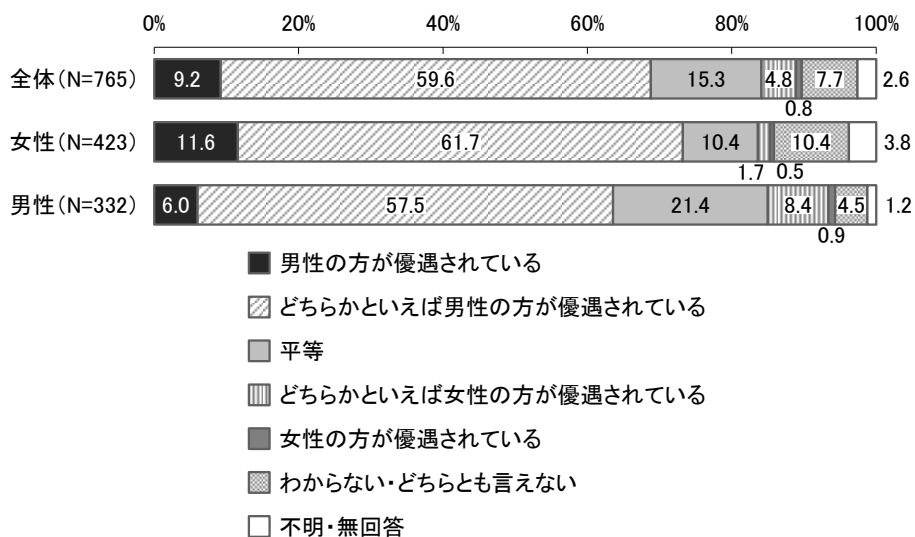
性・年齢別でみると、女性の50～60歳代では“男性の方が優遇されている”の割合が8割を超え、他の性・年齢区分と比べて高くなっています。



《前回調査との比較（平成 27 年度）》

前回調査と比較すると、全体では“男性の方が優遇されている”の割合が高く、「平等」がやや低くなっています。

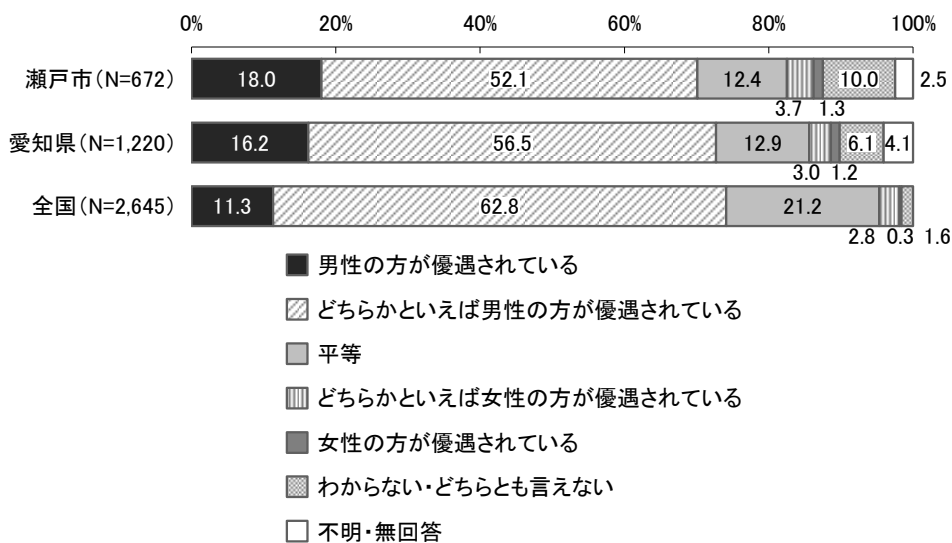
性別でみると、男女ともに“男性の方が優遇されている”の割合が高く、「平等」の割合がやや低くなっています。



《県調査・全国調査との比較》

県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

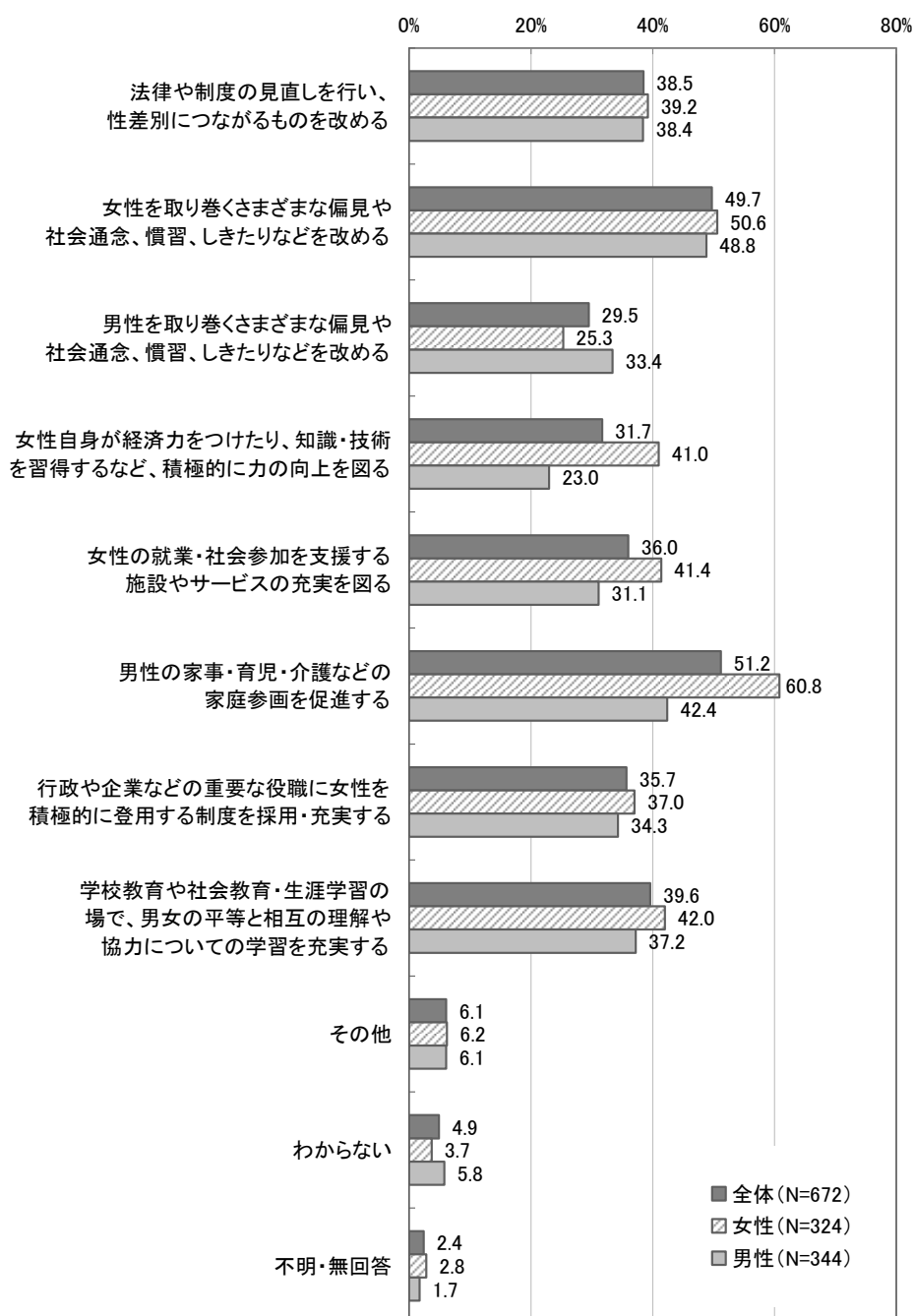
全国調査と比較すると、全国に比べ「平等」の割合が低くなっています。



問3 男女があらゆる分野で平等になるためには、何が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

男女があらゆる分野で平等になるために重要なことについてみると、全体では「男性の家事・育児・介護などの家庭参画を促進する」が51.2%と最も高く、次いで「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」が49.7%、「学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」が39.6%となっています。

性別で見ると、女性では「男性の家事・育児・介護などの家庭参画を促進する」の割合が高くなっている一方で、男性では「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」の割合が高くなっています。また、女性では「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図る」、「女性の就業・社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」、「男性の家事・育児・介護などの家庭参画を促進する」の割合が男性と比べて高く、特にその差が大きい結果となっています。



性・年齢別比較

性・年齢別で見ると、女性の70歳以上では「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図る」、男性の70歳以上では「行政や企業などの重要な役職に女性を積極的に登用する制度を採用・充実する」の割合が、他の性・年齢区分と比べて高くなっています。

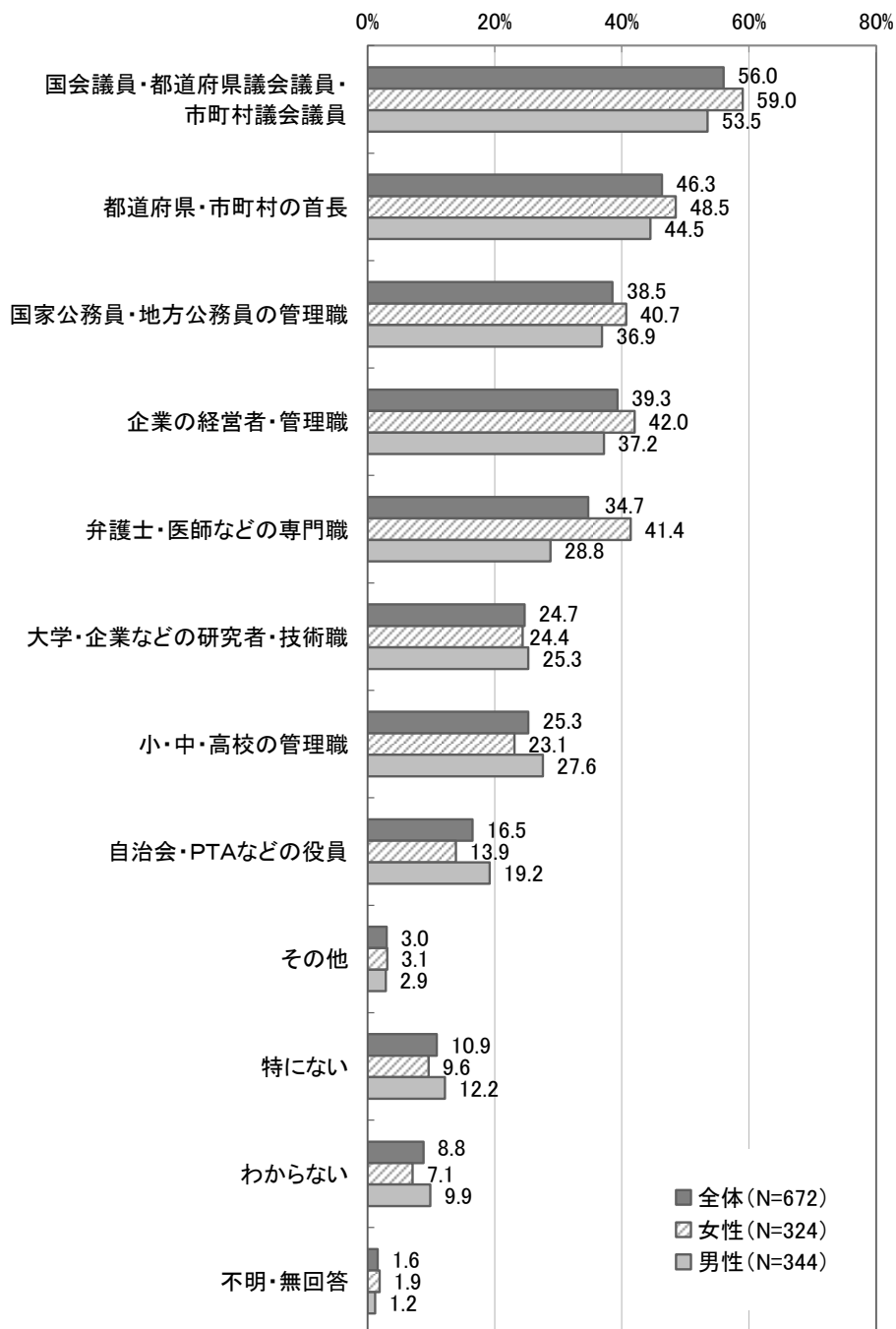
	法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改める	女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める	男性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める	女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図る	女性の就業・社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る	男性の家事・育児・介護などの家庭参画を促進する	行政や企業などの重要な役職に女性を積極的に登用する制度を採用・充実する	学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	その他	わからない	不明・無回答
(単位：%)											
【年齢別・女性】											
20歳未満(N=13)	30.8	46.2	23.1	38.5	38.5	84.6	30.8	61.5	7.7	0.0	0.0
20～29歳(N=47)	48.9	66.0	40.4	23.4	40.4	68.1	23.4	36.2	10.6	2.1	0.0
30～39歳(N=39)	33.3	64.1	41.0	43.6	41.0	79.5	25.6	48.7	7.7	0.0	0.0
40～49歳(N=62)	41.9	51.6	25.8	38.7	41.9	62.9	40.3	48.4	8.1	3.2	0.0
50～59歳(N=55)	32.7	38.2	18.2	43.6	29.1	49.1	41.8	34.5	5.5	3.6	1.8
60～69歳(N=51)	43.1	47.1	15.7	43.1	52.9	60.8	45.1	43.1	3.9	2.0	11.8
70歳以上(N=57)	36.8	43.9	17.5	52.6	43.9	45.6	42.1	36.8	1.8	10.5	3.5
【年齢別・男性】											
20歳未満(N=7)	14.3	42.9	28.6	0.0	42.9	57.1	28.6	42.9	0.0	28.6	14.3
20～29歳(N=34)	35.3	47.1	38.2	29.4	29.4	44.1	17.6	35.3	0.0	8.8	0.0
30～39歳(N=51)	31.4	52.9	37.3	19.6	27.5	51.0	35.3	33.3	9.8	2.0	2.0
40～49歳(N=78)	29.5	52.6	43.6	21.8	25.6	39.7	30.8	26.9	5.1	2.6	0.0
50～59歳(N=75)	45.3	46.7	26.7	28.0	26.7	46.7	24.0	32.0	6.7	8.0	2.7
60～69歳(N=53)	43.4	50.9	32.1	15.1	34.0	35.8	47.2	50.9	5.7	3.8	3.8
70歳以上(N=45)	51.1	42.2	22.2	26.7	48.9	33.3	55.6	53.3	8.9	8.9	0.0

3 女性の活躍について

問4 女性が増えるとよいと思う職業や役職は何ですか。(〇はいくつでも)

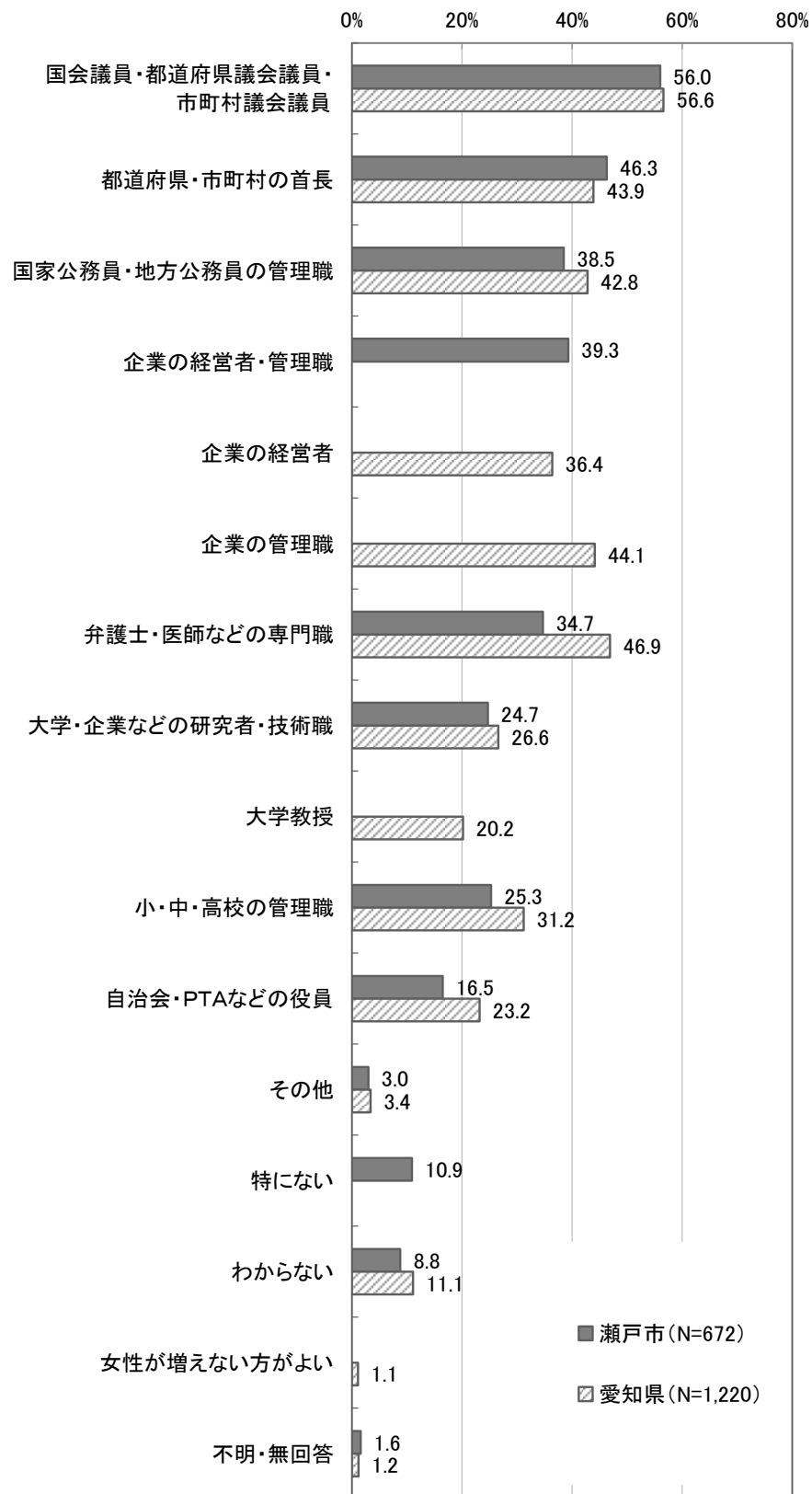
女性が増えるとよいと思う職業や役職についてみると、全体では「国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員」が56.0%と最も高く、次いで「都道府県・市町村の首長」が46.3%、「企業の経営者・管理職」が39.3%となっています。

性別でみると、女性では「弁護士・医師などの専門職」の割合が男性と比べて高く、その差が大きい結果となっています。



《県調査との比較》

県調査と比較すると、愛知県に比べ「弁護士・医師などの専門職」の割合が低くなっています。



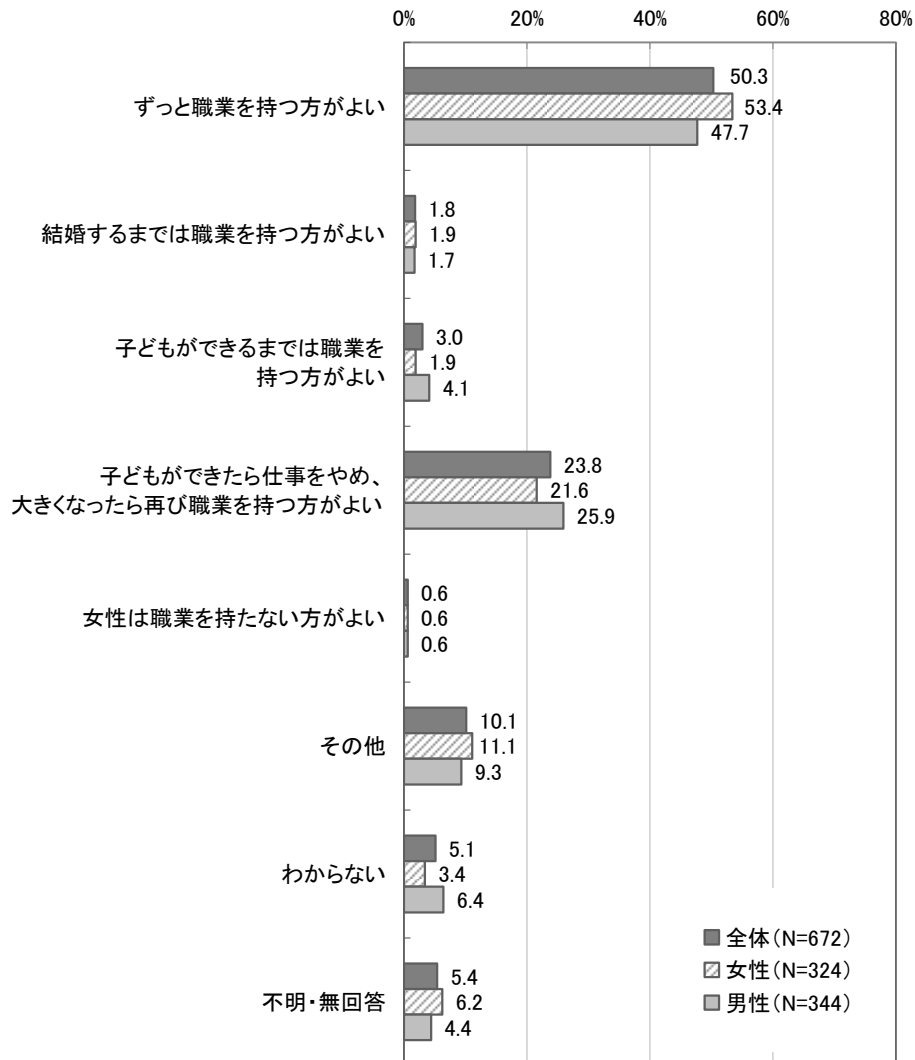
※「企業の経営者・管理職」、「特になし」は瀬戸市だけの選択肢

※「企業の経営者」、「企業の管理職」、「大学教授」、「女性が増えない方がよい」は愛知県だけの選択肢

問5 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。(〇はひとつ)

一般的に女性が職業を持つことについてどう考えるかについてみると、全体では「ずっと職業を持つ方がよい」が50.3%と最も高く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が23.8%、「その他」が10.1%となっています。

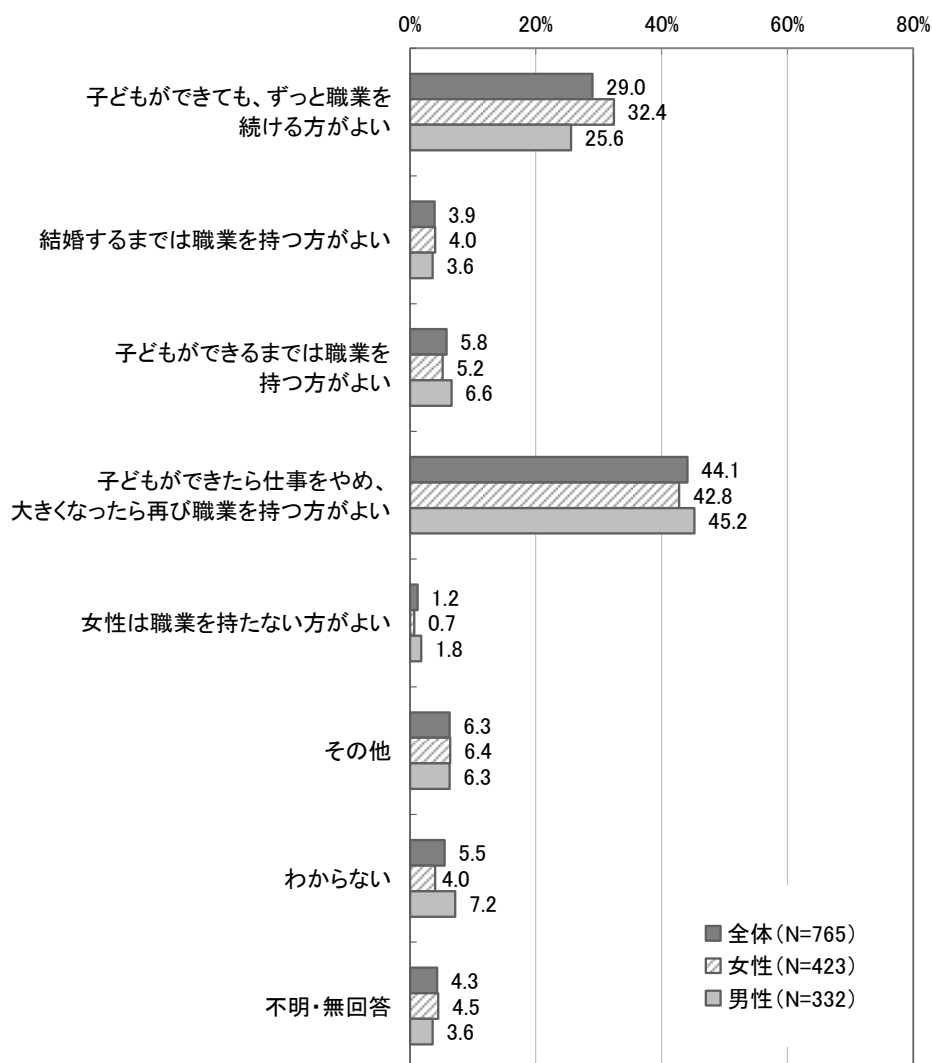
性別でみると、女性では「ずっと職業を持つ方がよい」の割合が、男性と比べて高くなっています。



《前回調査との比較（平成 27 年度）》

前回調査と比較すると、全体では「ずっと職業を持つ方がよい」（前回調査：「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」）の割合が高くなっている一方で、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が低くなっています。

性別でみると、全体と同様の傾向がみられます。

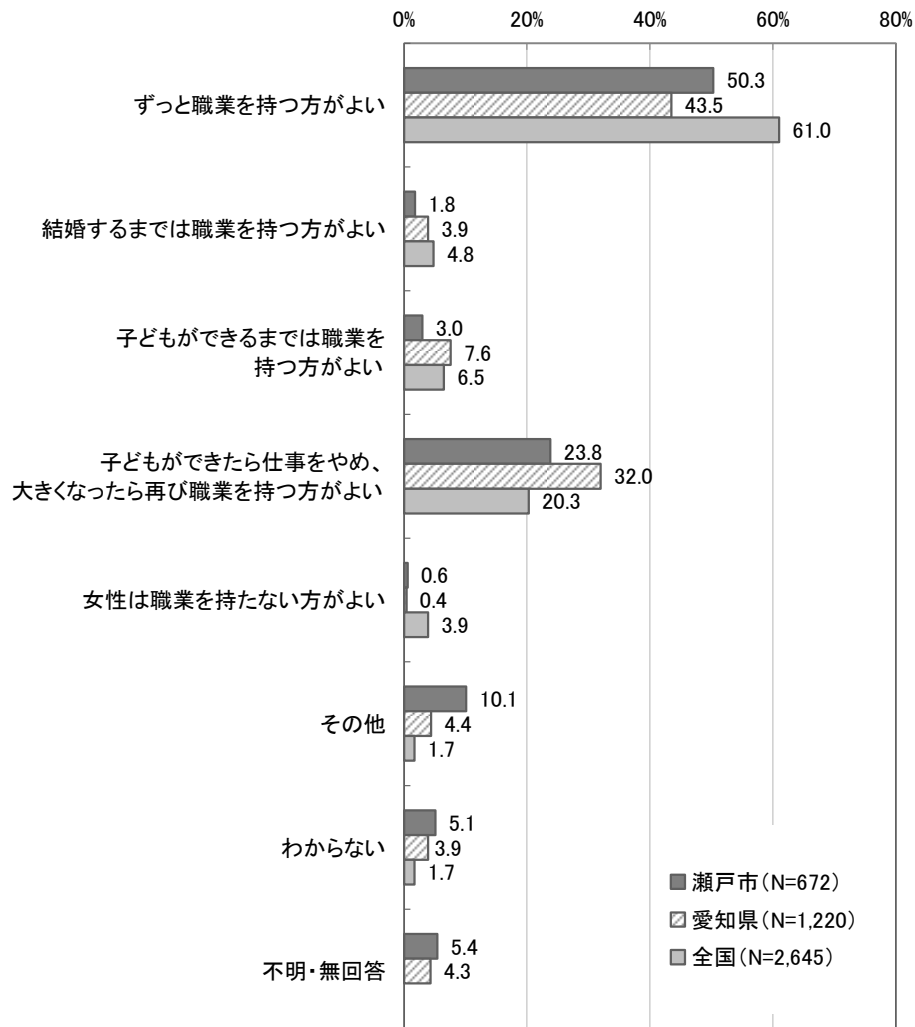


※今回調査「ずっと職業を持つ方がよい」は、前回調査「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と比較しています。

《県調査・全国調査との比較》

県調査と比較すると、愛知県に比べ「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が低くなっています。

全国調査と比較すると、全国に比べ「ずっと職業を持つ方がよい」の割合が低くなっています。



《令和2年度》

性・年齢別比較

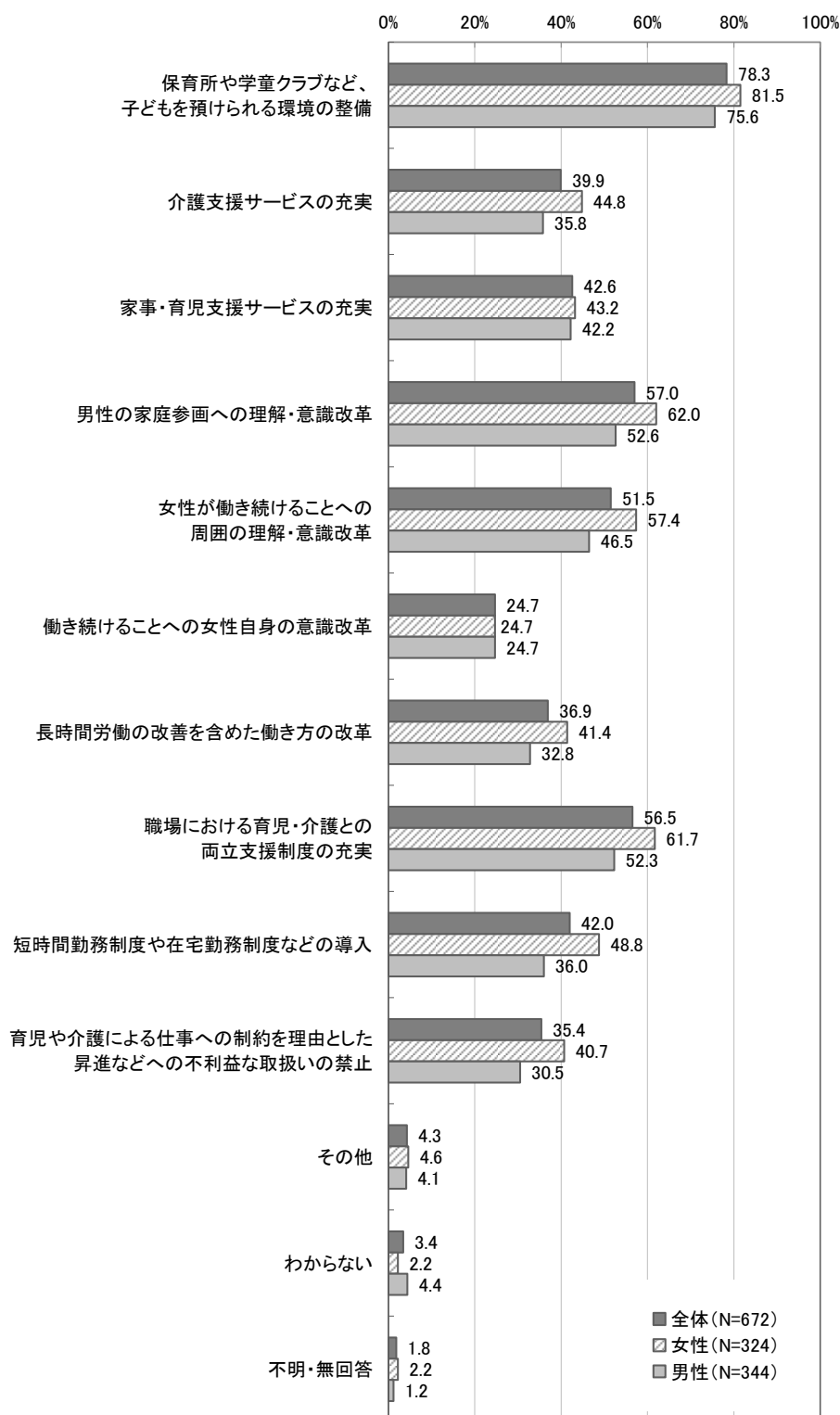
性・年齢別で見ると、女性の20歳未満、50～60歳代では「ずっと職業を持つ方がよい」の割合が6割前後で、他の性・年齢区分と比べて高くなっています。一方、男性の70歳以上では「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が、他の性・年齢区分と比べて高くなっています。

	ずっと職業を持つ方がよい	結婚するまでは職業を持つ方がよい	子どもができるまでは職業を持つ方がよい	子どもができたら再び仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい	女性は職業を持たない方がよい	その他	わからない	不明・無回答
(単位：%)								
【年齢別・女性】								
20歳未満(N=13)	61.5	0.0	0.0	15.4	0.0	7.7	0.0	15.4
20～29歳(N=47)	48.9	2.1	4.3	19.1	0.0	23.4	2.1	0.0
30～39歳(N=39)	51.3	2.6	2.6	28.2	0.0	12.8	0.0	2.6
40～49歳(N=62)	54.8	0.0	1.6	14.5	0.0	14.5	8.1	6.5
50～59歳(N=55)	60.0	1.8	1.8	21.8	0.0	7.3	3.6	3.6
60～69歳(N=51)	58.8	0.0	0.0	27.5	0.0	5.9	2.0	5.9
70歳以上(N=57)	43.9	5.3	1.8	22.8	3.5	5.3	3.5	14.0
【年齢別・男性】								
20歳未満(N=7)	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	28.6	28.6	0.0
20～29歳(N=34)	38.2	0.0	8.8	20.6	0.0	20.6	5.9	5.9
30～39歳(N=51)	51.0	0.0	2.0	21.6	0.0	13.7	5.9	5.9
40～49歳(N=78)	50.0	1.3	1.3	26.9	1.3	10.3	7.7	1.3
50～59歳(N=75)	56.0	4.0	2.7	21.3	1.3	5.3	8.0	1.3
60～69歳(N=53)	49.1	0.0	9.4	22.6	0.0	5.7	3.8	9.4
70歳以上(N=45)	37.8	4.4	4.4	42.2	0.0	2.2	2.2	6.7

問6 女性が出産後なども離職せずに働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

女性が出産後なども離職せずに働き続けるために必要なことについてみると、全体では「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が78.3%と最も高く、次いで「男性の家庭参画への理解・意識改革」が57.0%、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が56.5%となっています。

性別でみると、女性ではほとんどの項目において割合が男性と比べて高く、特に「男性の家庭参画への理解・意識改革」、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」、「育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止」の差が大きい結果となっています。



性・年齢別比較

性・年齢別でみると、女性の39歳以下と60歳代、男性の30歳代では「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」の割合が8割を超え、他の性・年齢区分と比べて高くなっています。

(単位：%)	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性の家庭参画への理解・意識改革	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	働き続けることへの女性自身の意識改革	長時間労働の改善を含めた働き方の改革	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	その他	わからない	不明・無回答
【年齢別・女性】													
20歳未満(N=13)	100.0	53.8	30.8	84.6	61.5	7.7	46.2	69.2	69.2	69.2	23.1	0.0	0.0
20～29歳(N=47)	87.2	36.2	48.9	72.3	48.9	17.0	55.3	63.8	66.0	42.6	2.1	0.0	0.0
30～39歳(N=39)	92.3	35.9	53.8	79.5	64.1	25.6	48.7	74.4	66.7	46.2	5.1	0.0	0.0
40～49歳(N=62)	74.2	43.5	51.6	69.4	64.5	29.0	48.4	58.1	48.4	46.8	8.1	3.2	1.6
50～59歳(N=55)	76.4	52.7	29.1	49.1	52.7	25.5	32.7	52.7	38.2	36.4	3.6	3.6	1.8
60～69歳(N=51)	80.4	45.1	43.1	56.9	54.9	29.4	31.4	64.7	43.1	35.3	0.0	2.0	0.0
70歳以上(N=57)	78.9	49.1	38.6	45.6	57.9	24.6	33.3	59.6	33.3	31.6	3.5	3.5	8.8
【年齢別・男性】													
20歳未満(N=7)	57.1	42.9	28.6	71.4	71.4	28.6	28.6	57.1	57.1	57.1	0.0	14.3	0.0
20～29歳(N=34)	61.8	26.5	29.4	58.8	29.4	8.8	35.3	50.0	35.3	35.3	8.8	5.9	0.0
30～39歳(N=51)	84.3	31.4	49.0	49.0	49.0	21.6	37.3	60.8	45.1	35.3	7.8	2.0	2.0
40～49歳(N=78)	76.9	34.6	42.3	52.6	47.4	17.9	33.3	44.9	37.2	28.2	1.3	3.8	0.0
50～59歳(N=75)	77.3	36.0	46.7	54.7	44.0	25.3	21.3	48.0	30.7	22.7	5.3	4.0	1.3
60～69歳(N=53)	77.4	43.4	45.3	47.2	56.6	37.7	47.2	58.5	39.6	30.2	0.0	7.5	1.9
70歳以上(N=45)	71.1	40.0	33.3	51.1	44.4	35.6	28.9	57.8	26.7	35.6	4.4	2.2	2.2

4 生活と仕事の調和(ライフ・ワーク・バランス)^(※)について

※性別や年齢などに関わらず誰もが、仕事・家庭生活・地域生活・個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態のこと。一般的にはワーク・ライフ・バランスと表すことが多いが、瀬戸市では、ライフ(生活)あつてのワーク(仕事)という観点から、ライフ・ワーク・バランスと表している。

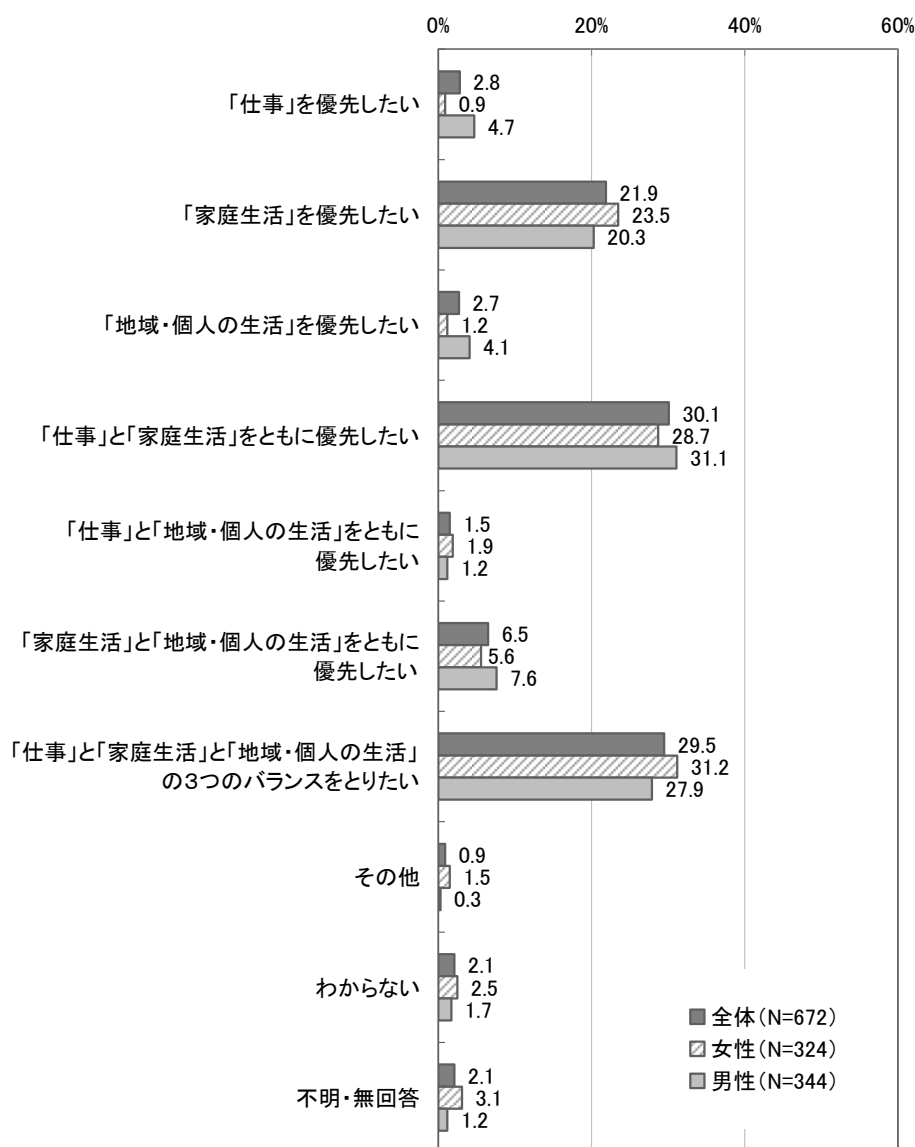
問7 生活の中で、仕事、家庭生活、地域・個人の生活で何を優先しますか。

(A, Bについてそれぞれ○はひとつ)

A 理想として優先するもの

理想として優先するものについてみると、全体では『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が30.1%と最も高く、次いで『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の3つのバランスをとりたい」が29.5%、『家庭生活』を優先したい」が21.9%となっています。

性別でみると、女性では『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の3つのバランスをとりたい」の割合が高い一方で、男性では『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」の割合が高くなっています。



性・年齢別比較

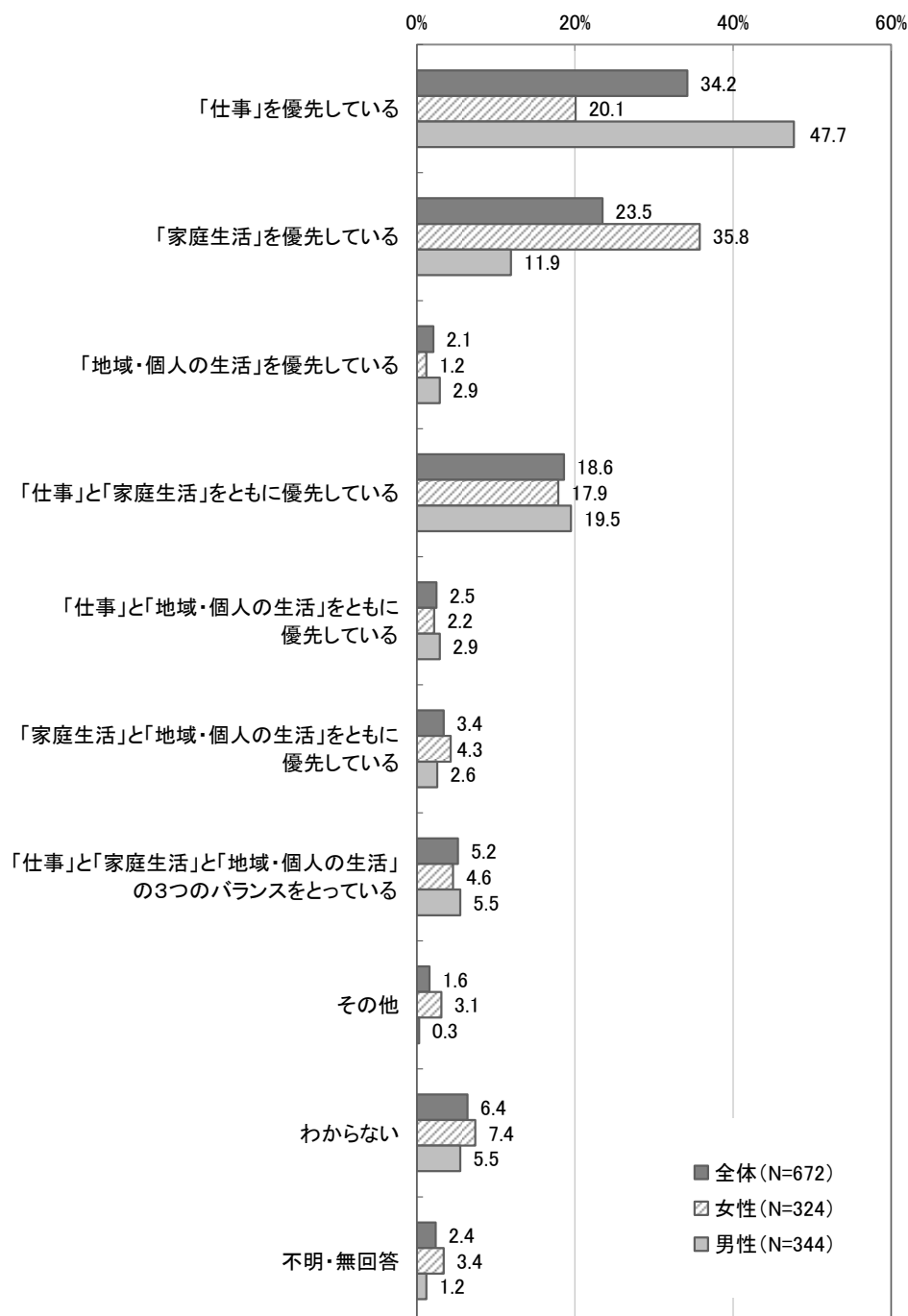
性・年齢別で見ると、女性の30～40歳代では『家庭生活』を優先したい」の割合が高くなっています。

	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つのバランスをとりたい	その他	わからない	不明・無回答
(単位：%)										
【年齢別・女性】										
20歳未満(N=13)	15.4	0.0	0.0	30.8	0.0	15.4	38.5	0.0	0.0	0.0
20～29歳(N=47)	2.1	19.1	6.4	31.9	4.3	6.4	25.5	2.1	2.1	0.0
30～39歳(N=39)	0.0	38.5	0.0	28.2	2.6	2.6	23.1	5.1	0.0	0.0
40～49歳(N=62)	0.0	35.5	0.0	27.4	0.0	3.2	29.0	1.6	1.6	1.6
50～59歳(N=55)	0.0	18.2	1.8	30.9	5.5	5.5	34.5	1.8	0.0	1.8
60～69歳(N=51)	0.0	19.6	0.0	25.5	0.0	2.0	51.0	0.0	2.0	0.0
70歳以上(N=57)	0.0	17.5	0.0	28.1	0.0	10.5	21.1	0.0	8.8	14.0
【年齢別・男性】										
20歳未満(N=7)	0.0	42.9	14.3	0.0	0.0	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0
20～29歳(N=34)	2.9	11.8	5.9	32.4	2.9	14.7	26.5	0.0	2.9	0.0
30～39歳(N=51)	0.0	9.8	9.8	35.3	0.0	7.8	35.3	0.0	0.0	2.0
40～49歳(N=78)	3.8	29.5	1.3	35.9	1.3	3.8	24.4	0.0	0.0	0.0
50～59歳(N=75)	5.3	26.7	2.7	30.7	1.3	5.3	24.0	0.0	2.7	1.3
60～69歳(N=53)	7.5	20.8	1.9	30.2	1.9	9.4	26.4	0.0	0.0	1.9
70歳以上(N=45)	8.9	8.9	4.4	24.4	0.0	8.9	33.3	2.2	6.7	2.2

B 現実として優先するもの

現実として優先するものについてみると、全体では『仕事』を優先している」が 34.2%と最も高く、次いで『家庭生活』を優先している」が 23.5%、『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が 18.6%となっています。

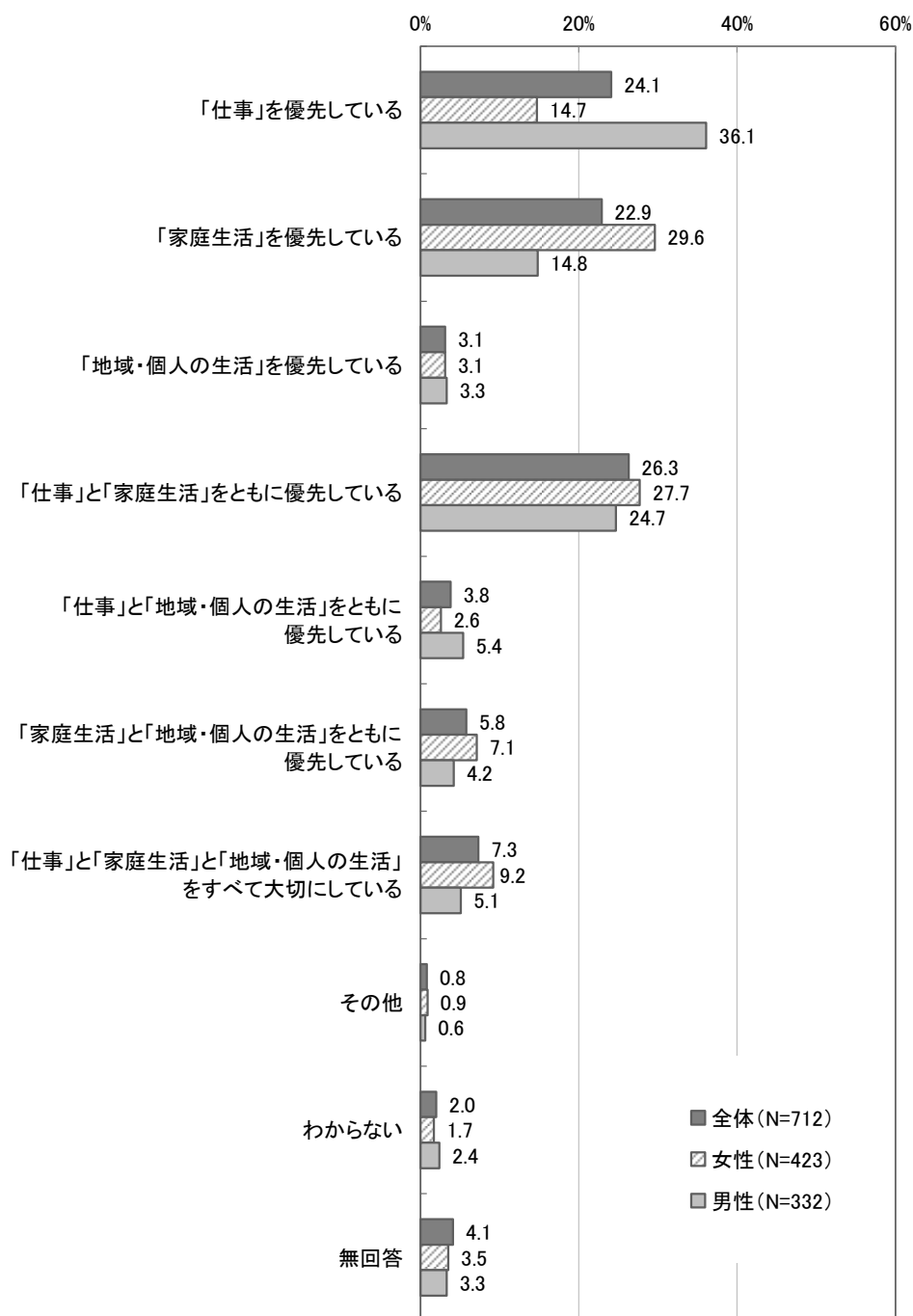
性別でみると、女性では『家庭生活』を優先している」の割合が高い一方で、男性では『仕事』を優先している」の割合が高く、その差が大きい結果となっています。



《前回調査との比較（平成 27 年度）》

前回調査と比較すると、全体では「『仕事』を優先している」の割合が高くなっている一方で、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」の割合が低くなっています。

性別でみると、女性では「『家庭生活』を優先している」の割合が高くなっています。

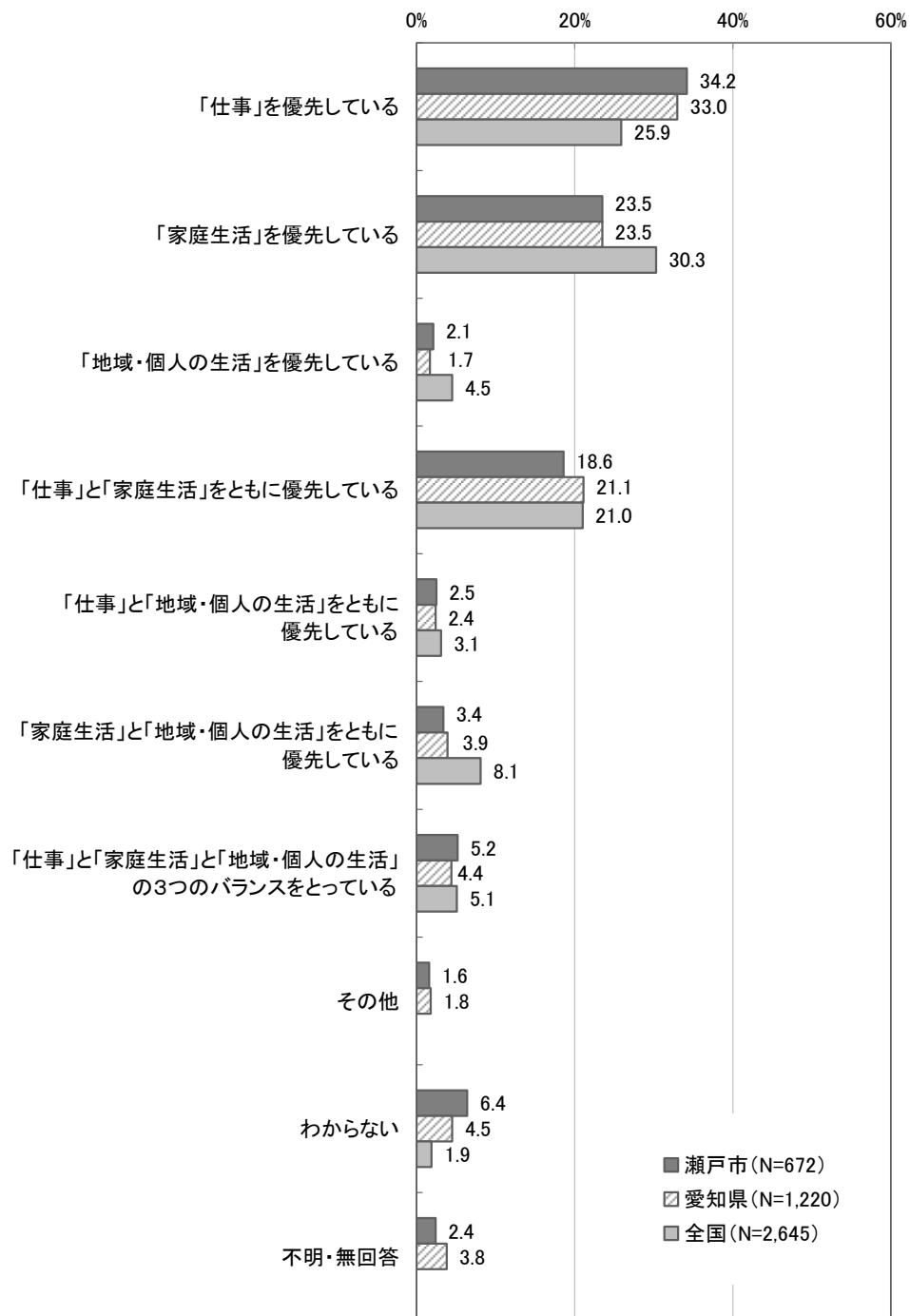


※今回調査「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の3つのバランスをとっている」は、前回調査「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をすべて大切にしている」と比較しています。

《県調査・全国調査との比較》

県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

全国調査と比較すると、全国に比べ『仕事』を優先している」の割合が高く、『家庭生活』を優先している」の割合が低くなっています。



※「その他」は瀬戸市・愛知県のみを選択肢

《令和2年度》

性・年齢別比較

性・年齢別で見ると、女性の20歳代、男性の30～60歳代、70歳以上では「『仕事』を優先している」の割合が高くなっています。

	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つのバランスをとっている	その他	わからない	不明・無回答
(単位：%)										
【年齢別・女性】										
20歳未満(N=13)	23.1	30.8	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0	30.8	0.0
20～29歳(N=47)	31.9	8.5	6.4	17.0	6.4	2.1	12.8	4.3	10.6	0.0
30～39歳(N=39)	23.1	56.4	0.0	10.3	2.6	0.0	0.0	5.1	2.6	0.0
40～49歳(N=62)	14.5	50.0	0.0	19.4	0.0	3.2	4.8	3.2	3.2	1.6
50～59歳(N=55)	27.3	20.0	0.0	34.5	3.6	3.6	5.5	1.8	1.8	1.8
60～69歳(N=51)	21.6	39.2	0.0	19.6	0.0	5.9	5.9	5.9	2.0	0.0
70歳以上(N=57)	5.3	42.1	1.8	7.0	0.0	10.5	0.0	0.0	17.5	15.8
【年齢別・男性】										
20歳未満(N=7)	42.9	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
20～29歳(N=34)	26.5	11.8	8.8	26.5	14.7	0.0	2.9	0.0	8.8	0.0
30～39歳(N=51)	47.1	3.9	5.9	25.5	2.0	3.9	2.0	0.0	7.8	2.0
40～49歳(N=78)	51.3	7.7	0.0	28.2	1.3	0.0	7.7	0.0	3.8	0.0
50～59歳(N=75)	61.3	10.7	2.7	13.3	0.0	2.7	2.7	0.0	5.3	1.3
60～69歳(N=53)	52.8	17.0	0.0	13.2	3.8	3.8	5.7	0.0	1.9	1.9
70歳以上(N=45)	31.1	22.2	4.4	8.9	2.2	6.7	11.1	2.2	8.9	2.2

問8 あなたが平日に家事・育児・介護に携わる時間はどのくらいですか。

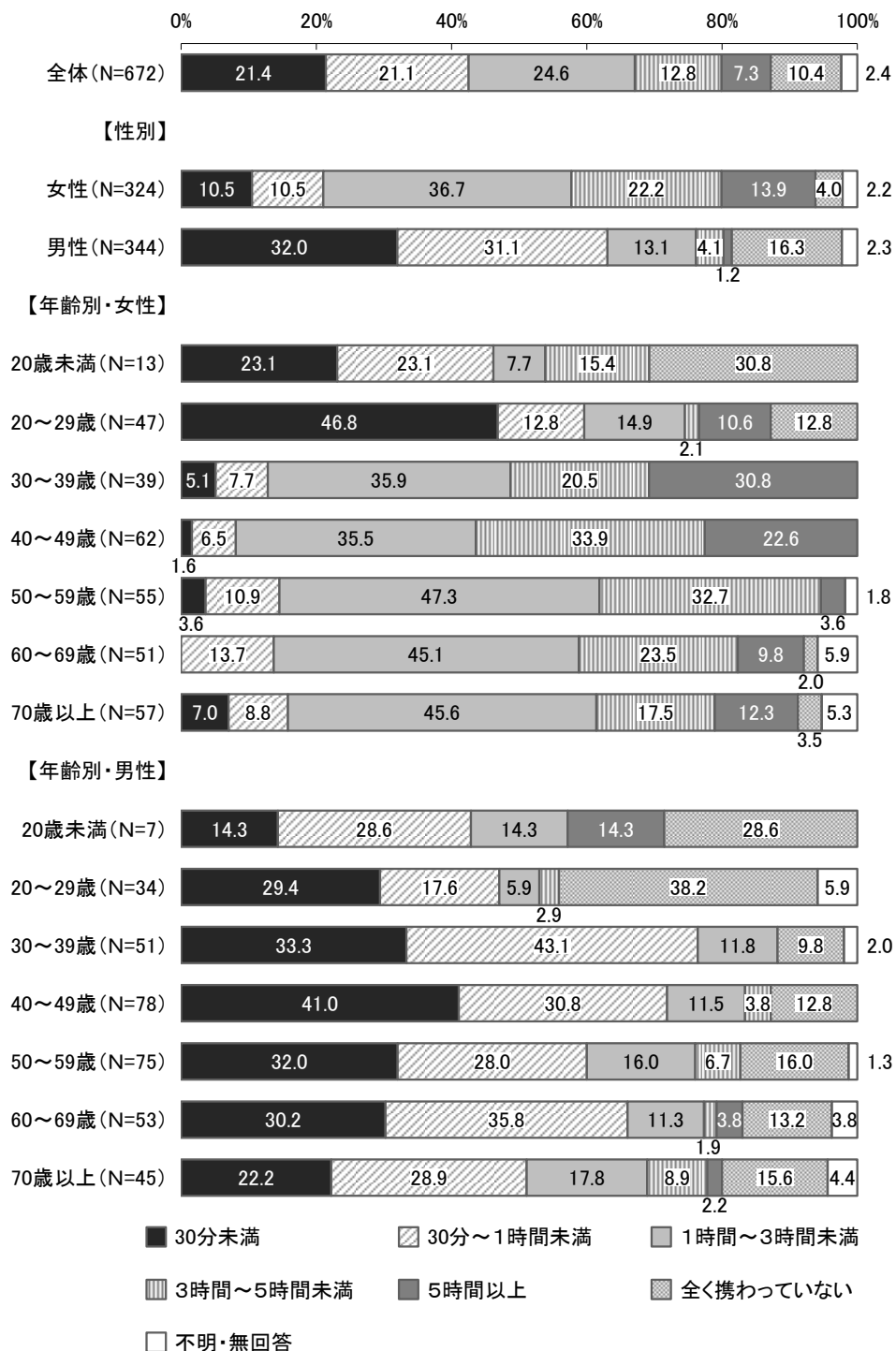
(A～Cについてそれぞれ○はひとつ)

A 家事に携わる時間

家事に携わる時間についてみると、全体では「1時間～3時間未満」が24.6%と最も高く、次いで「30分未満」が21.4%、「30分～1時間未満」が21.1%となっています。

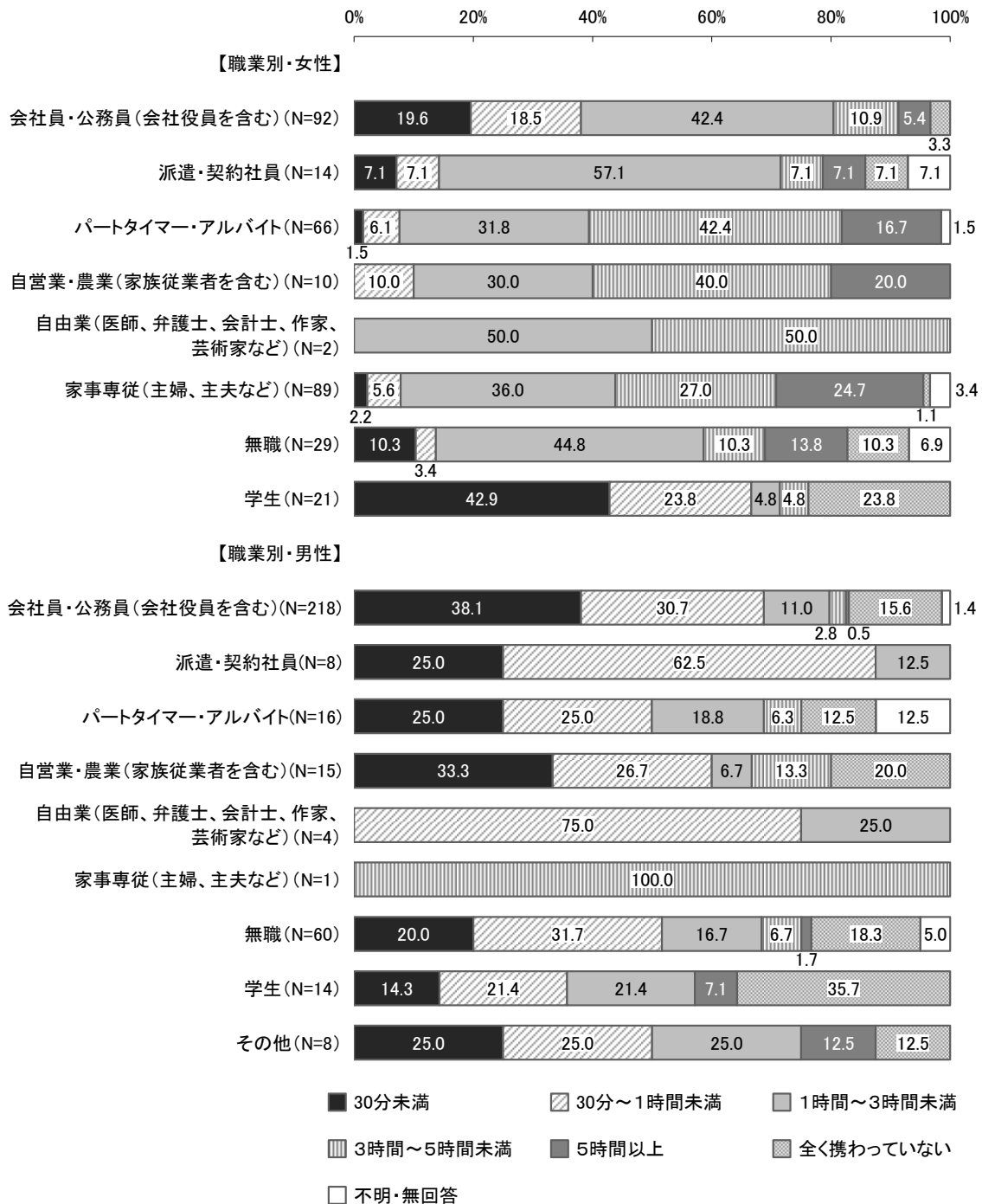
性別でみると、女性では「1時間～3時間未満」の割合が高い一方で、男性では「30分未満」の割合が高くなっています。

性・年齢別でみると、男性の40～50歳代では「30分未満」、30歳代と60歳代以上では「30分～1時間未満」の割合が高くなっています。



男女就業状況別比較

男女就業状況別でみると、女性の会社員・公務員（会社役員を含む）では、「1時間～3時間未満」の割合が高い一方で、男性の会社員・公務員（会社役員を含む）では「30分未満」の割合が高くなっています。



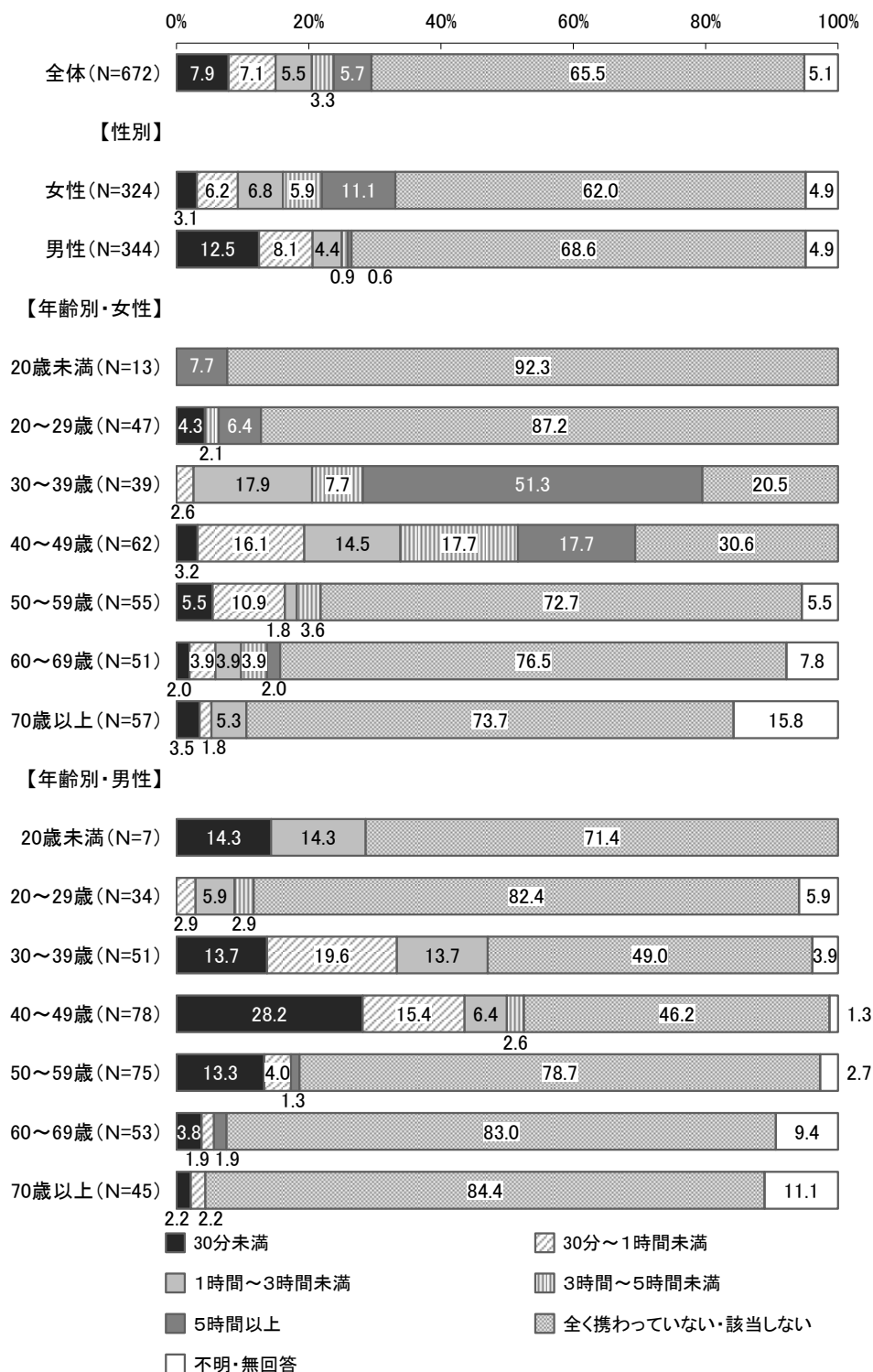
※女性のその他は、回答者がなかったため、グラフに記載していません。

B 育児に携わる時間

育児に携わる時間についてみると、全体では「全く携わっていない・該当しない」が 65.5%と最も高く、次いで「30分未満」が7.9%、「30分～1時間未満」が7.1%となっています。

性別でみると、男性では「全く携わっていない・該当しない」の割合が、女性と比べて高くなっています。また、女性では「5時間以上」の割合が約1割となっています。

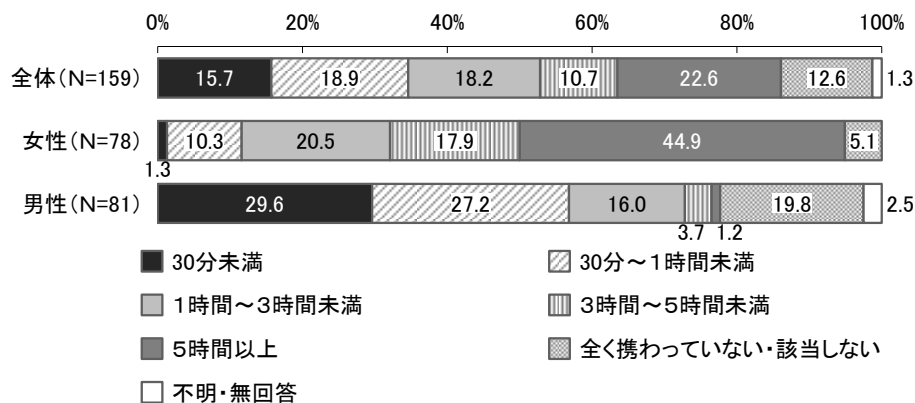
性・年齢別でみると、男性の30～40歳代では「全く携わっていない・該当しない」の割合が4割台で、他の男性の年齢区分と比べて低くなっています。



【中学生以下の子どもがいる方】

中学生以下の子どもがいる方でみると、「5時間以上」が22.6%と最も高く、次いで「30分～1時間未満」が18.9%、「1時間～3時間未満」が18.2%となっています。

性別でみると、女性では「5時間以上」の割合が高い一方で、男性では「30分未満」の割合が高くなっています。



男女就業状況別比較

中学生以下の子どもがいる方の男女就業状況別でみると、女性の家事専従（主婦、主夫など）、パートタイマー・アルバイトでは、「5時間以上」の件数が多くなっています。男性の会社員・公務員（会社役員を含む）では、「30分未満」の件数が多くなっています。

	30分未満	30分～1時間未満	1時間～3時間未満	3時間～5時間未満	5時間以上	全く携わっていない・該当しない	不明・無回答
(単位：件)							
【職業別・女性】							
会社員・公務員(会社役員を含む)(N=19)	0	3	4	6	5	1	0
派遣・契約社員(N=4)	0	0	1	2	1	0	0
パートタイマー・アルバイト(N=19)	0	1	7	1	9	1	0
自営業・農業(家族従業者を含む)(N=4)	0	1	1	1	1	0	0
自由業(医師、弁護士、会計士、作家、芸術家など)(N=1)	0	1	0	0	0	0	0
家事専従(主婦、主夫など)(N=31)	1	2	3	4	19	2	0
【職業別・男性】							
会社員・公務員(会社役員を含む)(N=78)	23	22	13	3	1	14	2
自営業・農業(家族従業者を含む)(N=1)	1	0	0	0	0	0	0
無職(N=2)	0	0	0	0	0	2	0

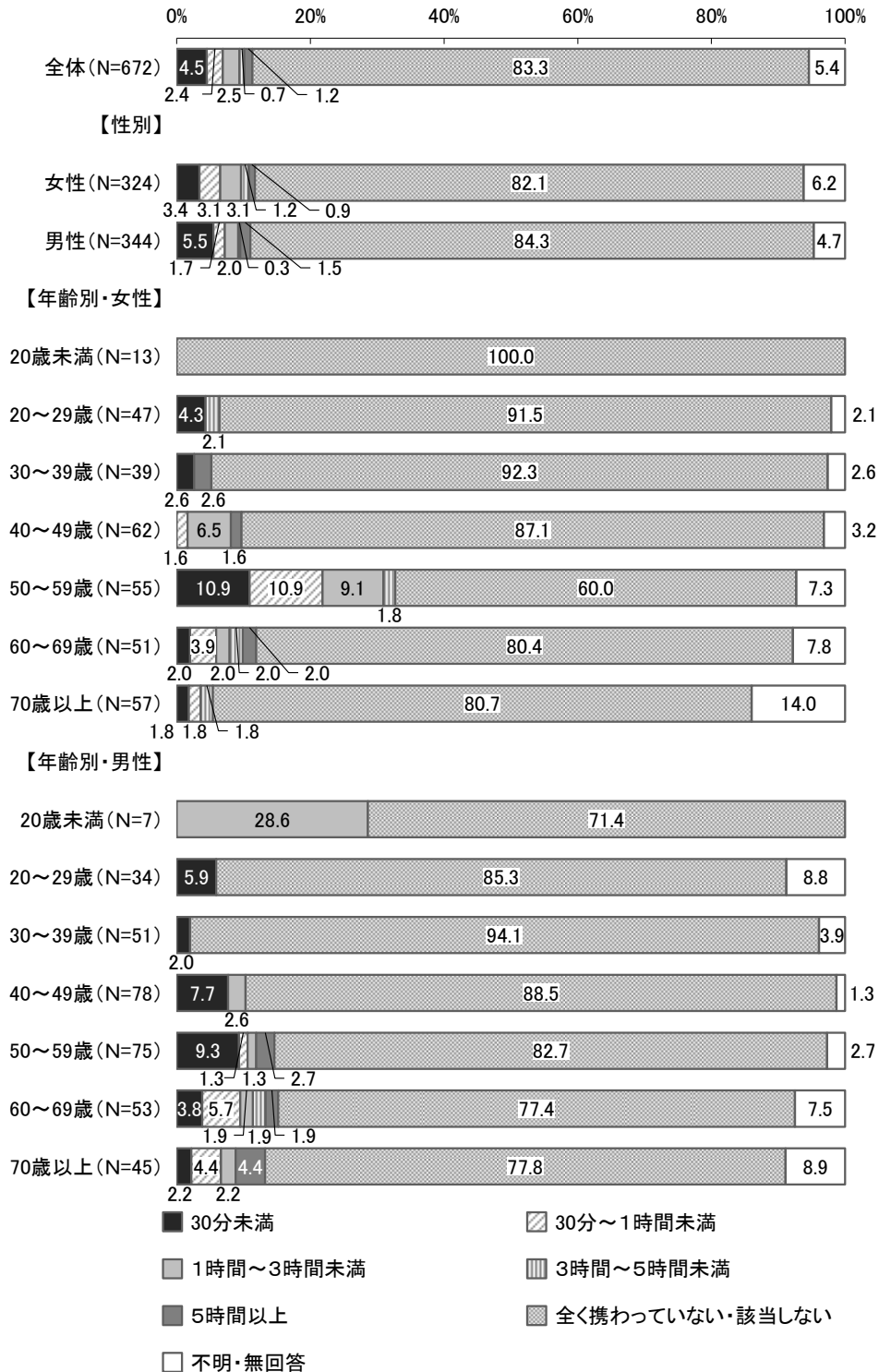
※女性の無職、学生、その他、男性の派遣・契約社員、パートタイマー・アルバイト、自由業(医師、弁護士、会計士、作家、芸術家など)、家事専従(主婦、主夫など)、学生、その他は回答者がなかったため、表に記載していません。

C 介護に携わる時間

介護に携わる時間についてみると、全体では「全く携わっていない・該当しない」が83.3%と最も高く、次いで「30分未満」が4.5%、「1時間～3時間未満」が2.5%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

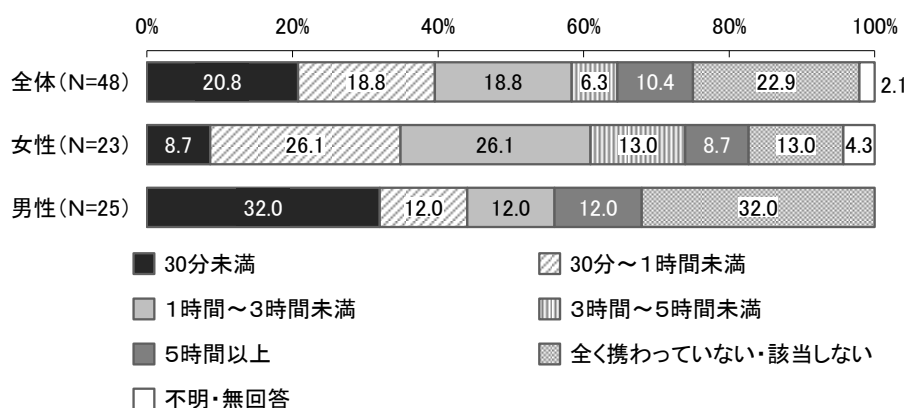
性・年齢別でみると、女性の50歳代では、「全く携わっていない・該当しない」以外の項目をあわせた“介護に携わっている”の割合が約3割で、他の性・年齢区分と比べて高くなっています。また、女性の60歳代、男性の40歳代以上において“介護に携わっている”の割合が約1割以上と、一定数みられます。



【介護をしている方(同居している家族に介護を必要とする人がいる方)】

同居家族に介護を必要とする人がいる方で見ると、「全く携わっていない・該当しない」が22.9%と最も高く、次いで「30分未満」が20.8%、「30分～1時間未満」、「1時間～3時間未満」がともに18.8%となっています。

性別で見ると、女性では「30分～1時間未満」、「1時間～3時間未満」の割合が高い一方で、男性では「30分未満」、「全く携わっていない・該当しない」の割合が高くなっています。



男女就業状況別比較

同居家族に介護を必要とする人がいる方の男女就業状況別で見ると、女性の会社員・公務員（会社役員含む）では「30分～1時間未満」が3件となっています。男性の会社員・公務員（会社役員含む）では「30分未満」は7件となっています。

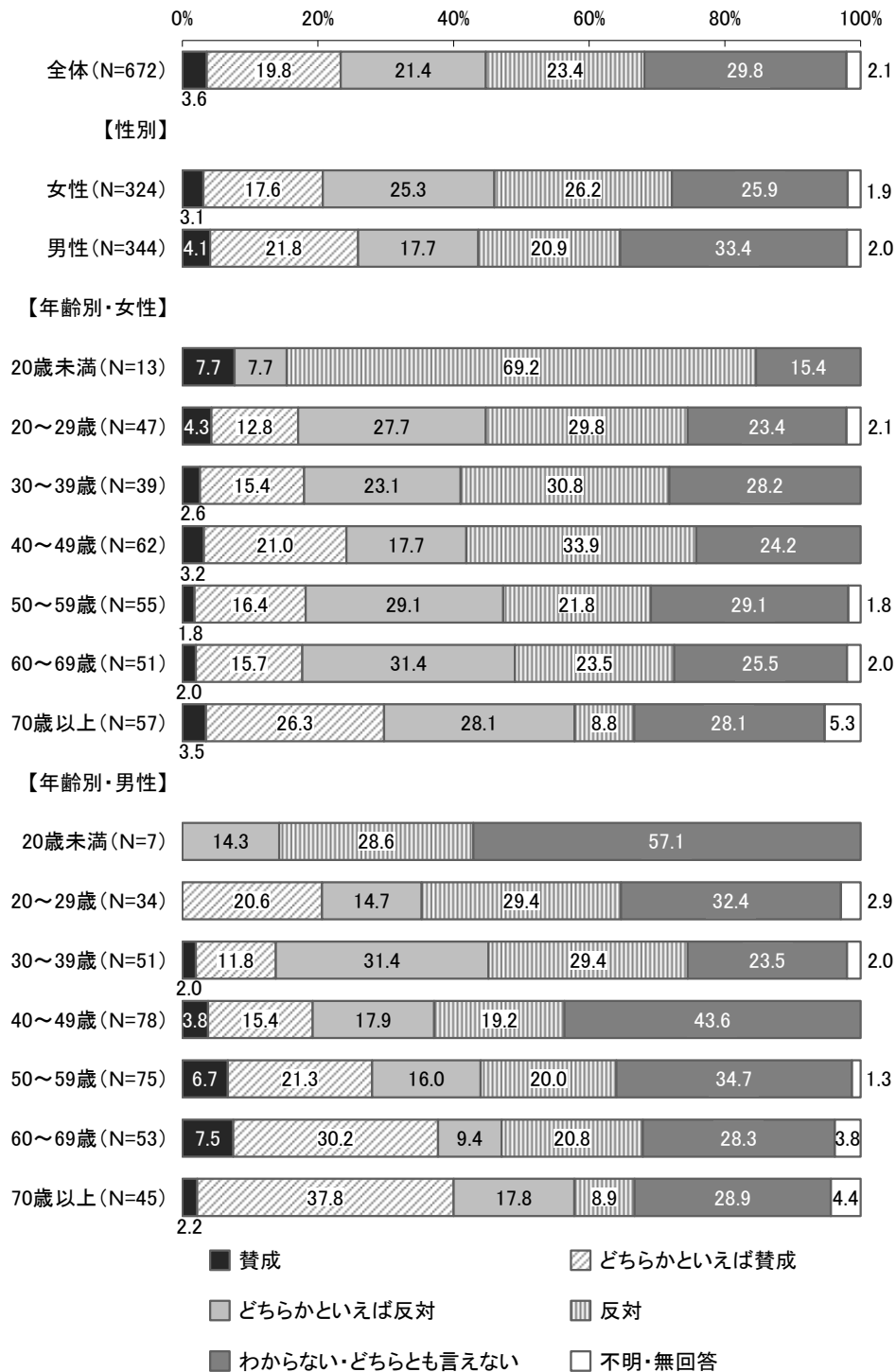
(単位：件)	30分未満	30分～1時間未満	1時間～3時間未満	3時間～5時間未満	5時間以上	全く携わっていない・該当しない	不明・無回答
【職業別・女性】							
会社員・公務員(会社役員を含む)(N=6)	1	3	1	0	1	0	0
パートタイマー・アルバイト(N=7)	0	2	2	2	0	1	0
自営業・農業(家族従業者を含む)(N=1)	1	0	0	0	0	0	0
家事専従(主婦、主夫など)(N=5)	0	0	3	0	1	1	0
無職(N=4)	0	1	0	1	0	1	1
【職業別・男性】							
会社員・公務員(会社役員を含む)(N=12)	7	1	1	0	0	3	0
パートタイマー・アルバイト(N=2)	0	0	0	0	1	1	0
自営業・農業(家族従業者を含む)(N=4)	1	1	1	0	0	1	0
無職(N=4)	0	1	1	0	2	0	0
学生(N=2)	0	0	0	0	0	2	0
その他(N=1)	0	0	0	0	0	1	0

※女性の派遣・契約社員、自由業(医師、弁護士、会計士、作家、芸術家など)、学生、その他、男性の派遣・契約社員、自由業(医師、弁護士、会計士、作家、芸術家など)、家事専従(主婦、主夫など)は回答者がなかったため、表に記載していません。

問9 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えについてどう思いますか。(〇はひとつ)

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えをどう思うかについてみると、全体では「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”の割合が23.4%、「どちらかといえば反対」と「反対」をあわせた“反対”の割合が44.8%となっています。

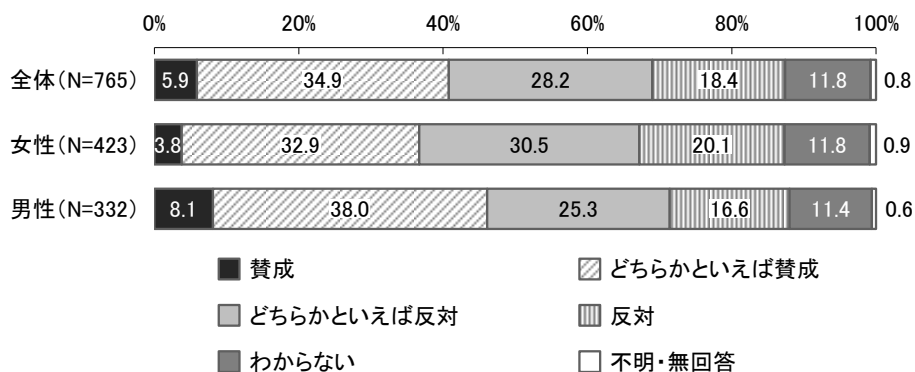
性別でみると、女性では“反対”の割合が男性と比べて高く、その差が大きい結果となっています。性・年齢別でみると、男性の60歳代以上では“賛成”の割合が高くなっています。



《前回調査との比較（平成 27 年度）》

前回調査と比較すると、全体では“賛成”の割合が低くなっている一方で、「わからない・どちらとも言えない」（前回調査：「わからない」）の割合が高くなっています。

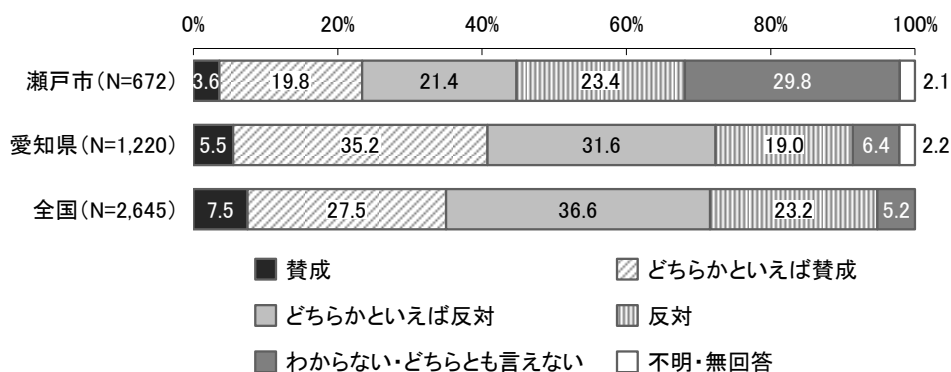
性別で見ると、全体と同様の傾向がみられます。



※今回調査「わからない・どちらとも言えない」は、前回調査「わからない」と比較しています。

《県調査・全国調査との比較》

県調査、全国調査と比較すると、“賛成”の割合が低くなっています。

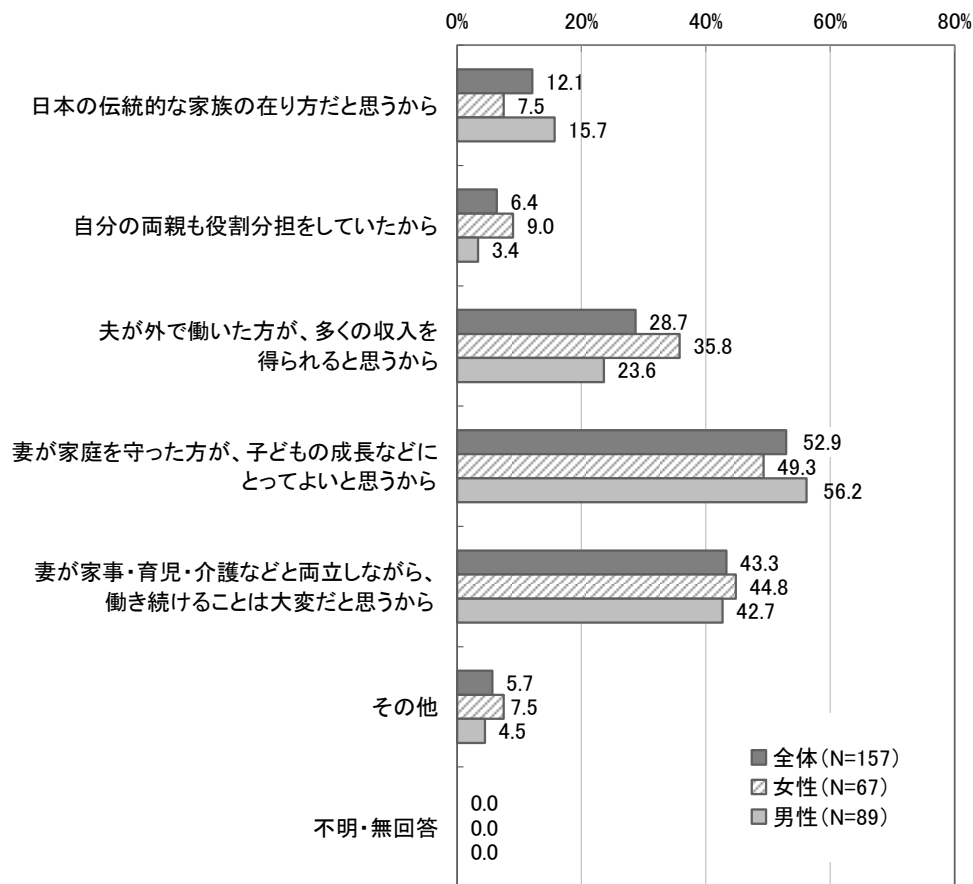


問9で「賛成」、「どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。

問 10 それはなぜですか。(〇はいくつでも)

“賛成”と答えた方の理由についてみると、全体では「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとってよいと思うから」が52.9%と最も高く、次いで「妻が家事・育児・介護などと両立しながら、働き続けることは大変だと思うから」が43.3%、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が28.7%となっています。

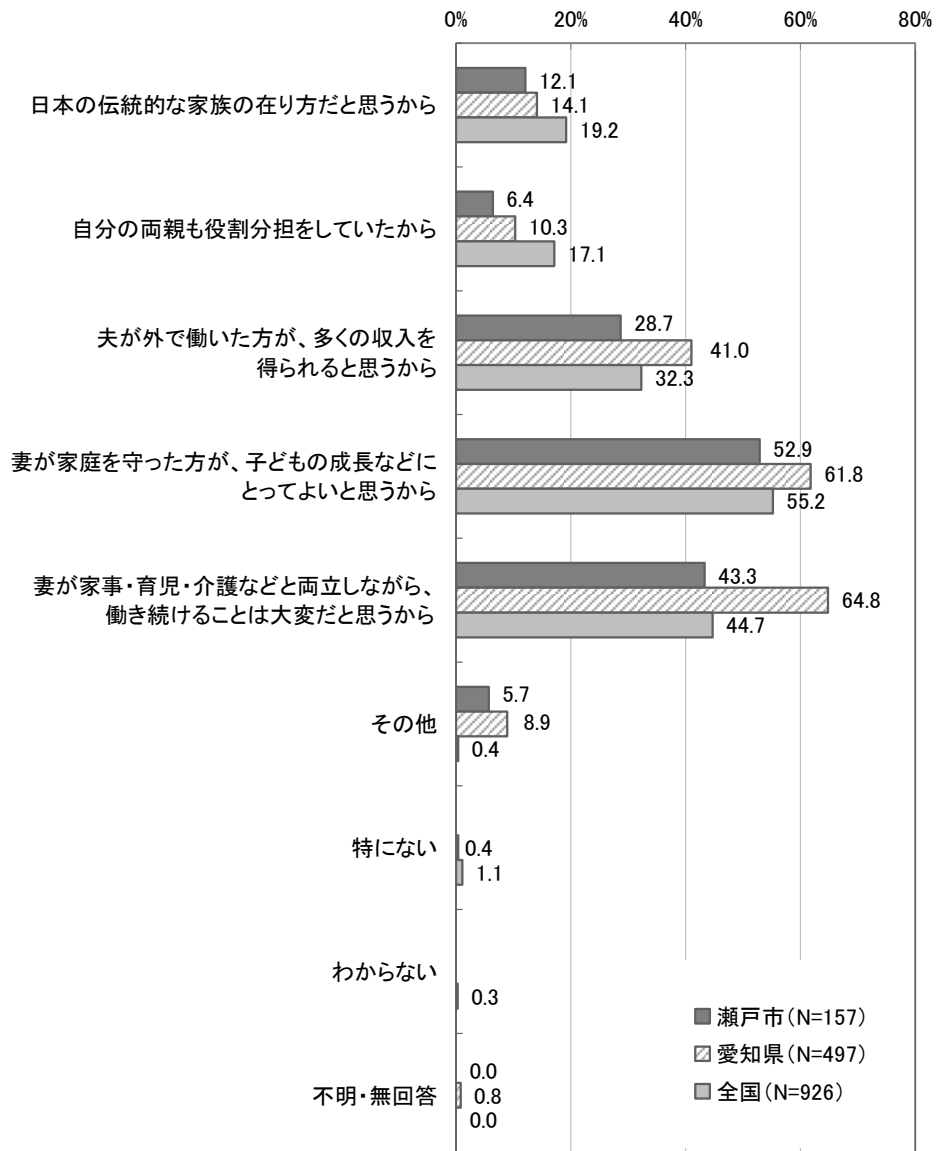
性別でみると、女性では「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」の割合が男性と比べて高く、その差が大きい結果となっています。一方、男性では「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとってよいと思うから」の割合が、女性と比べて高くなっています。



《県調査・全国調査との比較》

全国調査と比較すると、全国に比べ「自分の両親も役割分担をしていたから」の割合が低くなっています。

県調査と比較すると、愛知県に比べ、「妻が家事・育児・介護などと両立しながら、働き続けることは大変だと思うから」の割合が低くなっています。



※「わからない」は国のみの選択肢

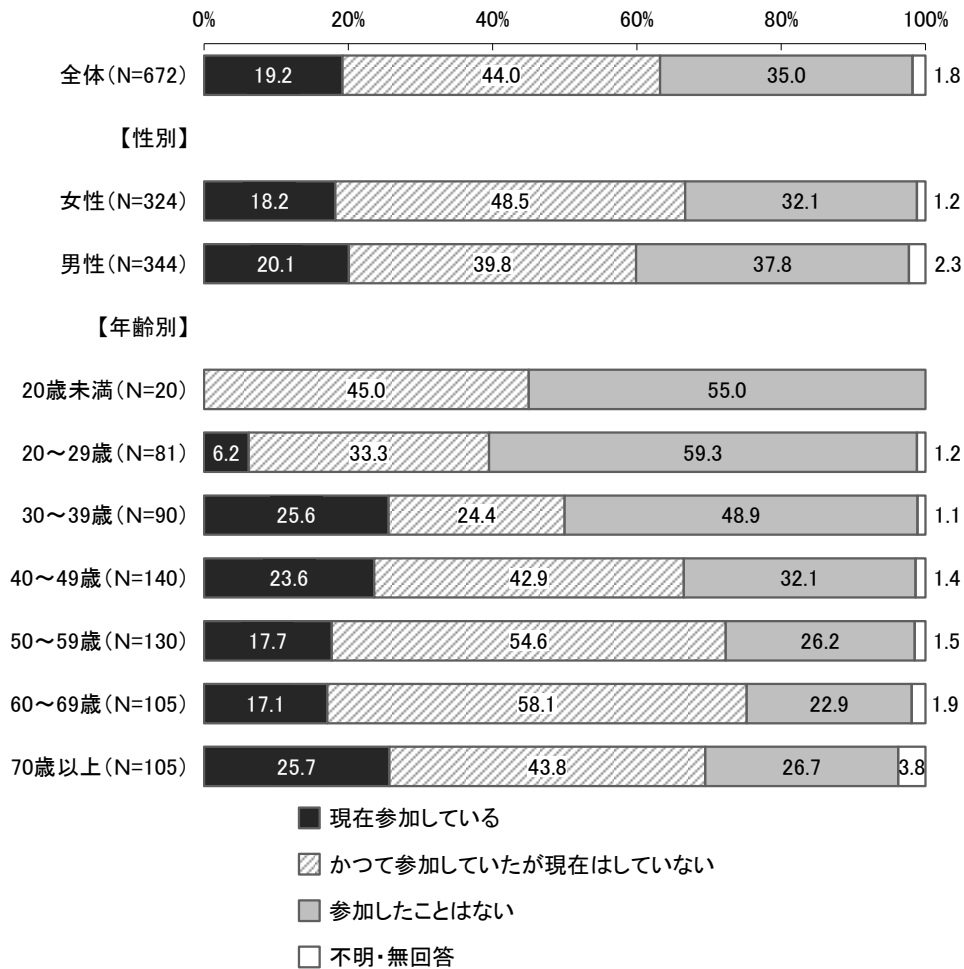
※「特にない」は国・愛知県のみ選択肢

問 11 あなたは何か地域の活動に参加した経験はありますか。(〇はひとつ)

地域の活動に参加した経験についてみると、全体では「かつて参加していたが現在はしていない」が44.0%と最も高く、次いで「参加したことはない」が35.0%、「現在参加している」が19.2%となっています。

性別でみると、女性では「かつて参加していたが現在はしていない」の割合が、男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、30歳代以下では「参加したことはない」、40歳代以上では「かつて参加していたが現在はしていない」の割合が高くなっています。



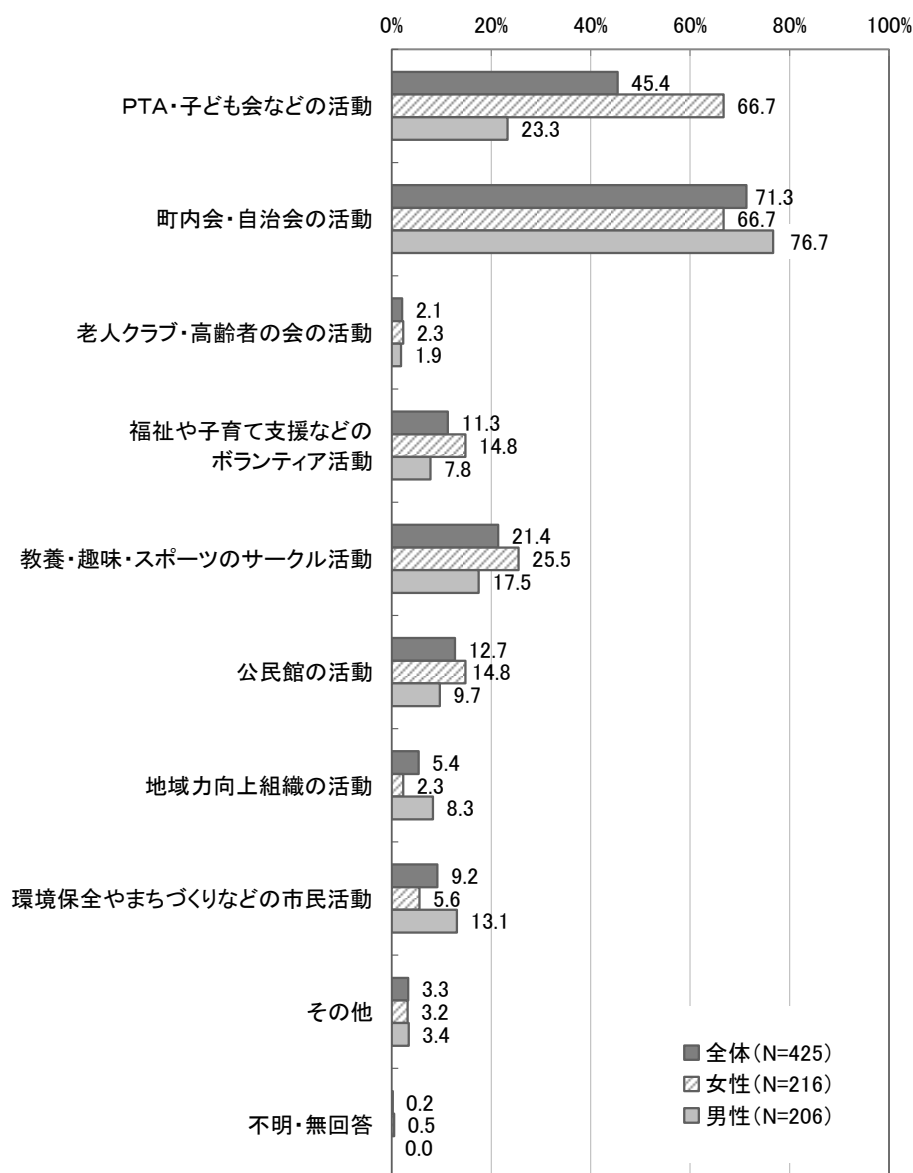
問 11 で「現在参加している」、「かつて参加していたが現在はしていない」と答えた方におたずねします。

問 12 現在(今までに)どのような活動に参加していますか(した経験がありますか)。

(〇はいくつでも)

現在または今までに、参加している(した)活動についてみると、全体では「町内会・自治会の活動」が71.3%と最も高く、次いで「PTA・子ども会などの活動」が45.4%、「教養・趣味・スポーツのサークル活動」が21.4%となっています。

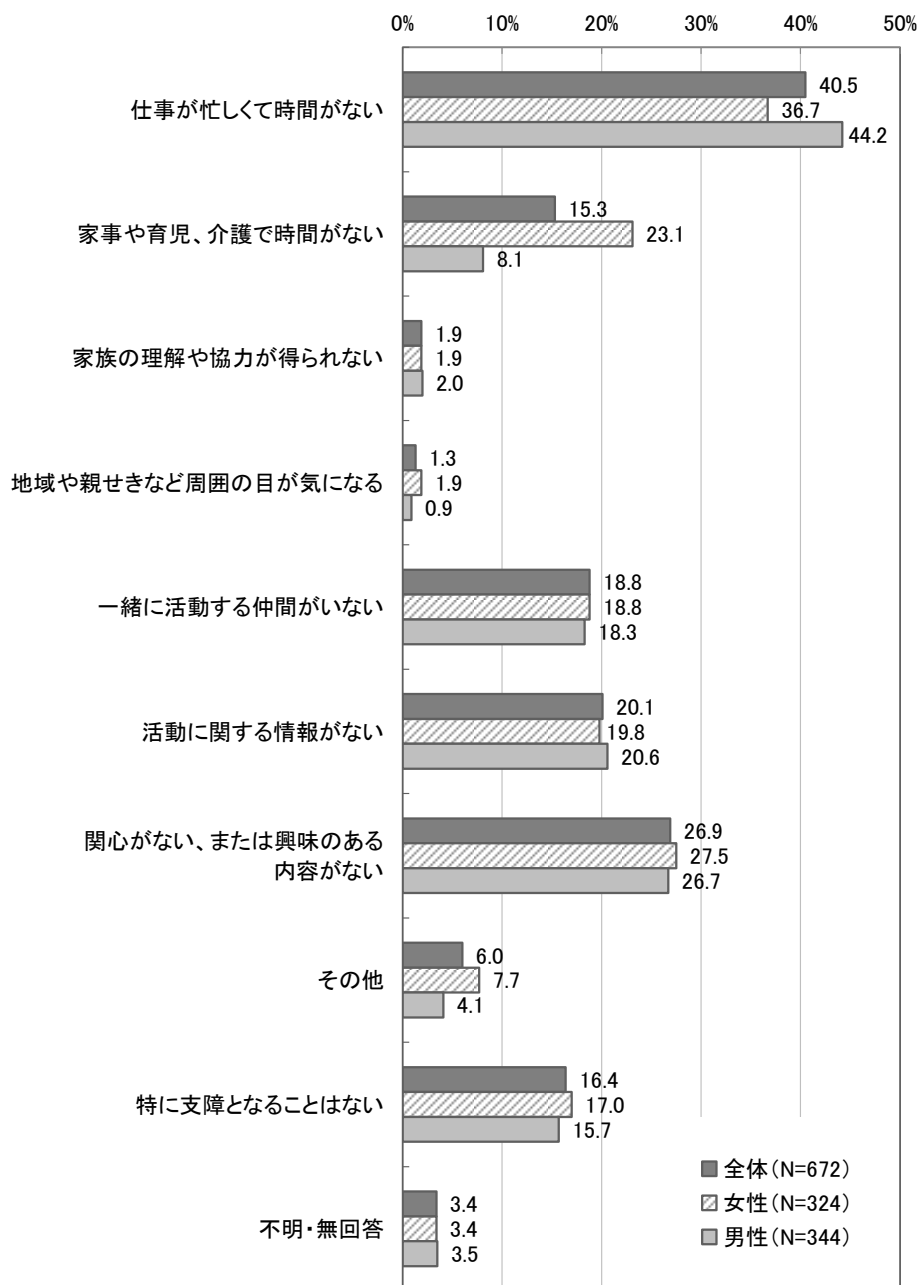
性別でみると、男性では「町内会・自治会の活動」の割合が女性と比べて高く、その差が大きい結果となっています。一方、女性では「PTA・子ども会などの活動」の割合が「町内会・自治会の活動」と同率で高く、男性との割合の差が大きい結果となっています。



問 13 あなたが地域活動をしようとする場合、支障となっていたり、支障となるであろうと思われることがありますか。(〇はいくつでも)

地域活動をする場合に、支障となっていたり、支障となるであろうと思われることについてみると、全体では「仕事が忙しくて時間がない」が40.5%と最も高く、次いで「関心がない、または興味のある内容がない」が26.9%、「活動に関する情報がない」が20.1%となっています。

性別でみると、女性では「家事や育児、介護で時間がない」の割合が男性と比べて高く、その差が大きい結果となっています。



年齢別比較

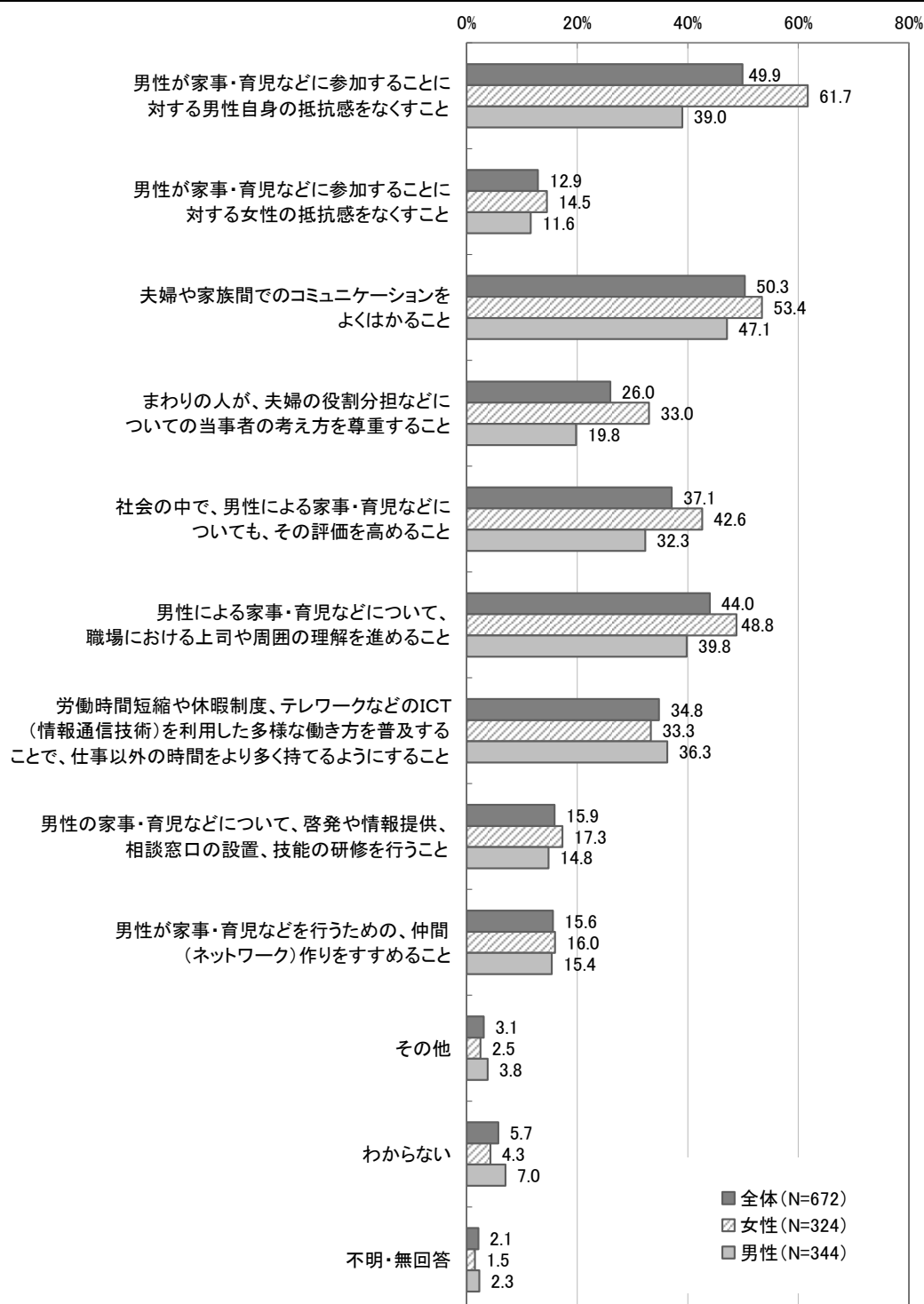
年齢別で見ると、50歳代以下では「仕事が忙しくて時間がない」、70歳以上では「特に支障となることはない」の割合が高くなっています。

	仕事が忙しくて時間がない	家事や育児、介護で時間がない	家族の理解や協力が得られない	地域や親せきなど周囲の目が気になる	一緒に活動する仲間がない	活動に関する情報がない	関心がない、または興味のある内容がない	その他	特に支障となることはない	不明・無回答
(単位：%)										
【年齢別】										
20歳未満(N=20)	60.0	15.0	0.0	0.0	45.0	50.0	35.0	5.0	0.0	0.0
20～29歳(N=81)	50.6	7.4	1.2	3.7	27.2	32.1	35.8	4.9	6.2	1.2
30～39歳(N=90)	47.8	30.0	3.3	1.1	22.2	23.3	31.1	3.3	10.0	0.0
40～49歳(N=140)	51.4	22.1	1.4	0.0	14.3	17.1	25.7	5.0	12.1	2.1
50～59歳(N=130)	54.6	12.3	3.1	2.3	15.4	10.0	18.5	6.9	13.8	4.6
60～69歳(N=105)	27.6	8.6	1.0	1.0	16.2	22.9	27.6	3.8	27.6	1.9
70歳以上(N=105)	3.8	10.5	1.9	1.0	17.1	16.2	25.7	11.4	30.5	10.5

問 14 男性が女性とともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

男性の家事、育児、介護、地域活動への積極的な参加に必要なことについてみると、全体では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が50.3%と最も高く、次いで「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が49.9%、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が44.0%となっています。

性別でみると、女性では「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「まわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」、「社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること」、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が男性と比べて高く、その差が大きい結果となっています。



年齢別比較

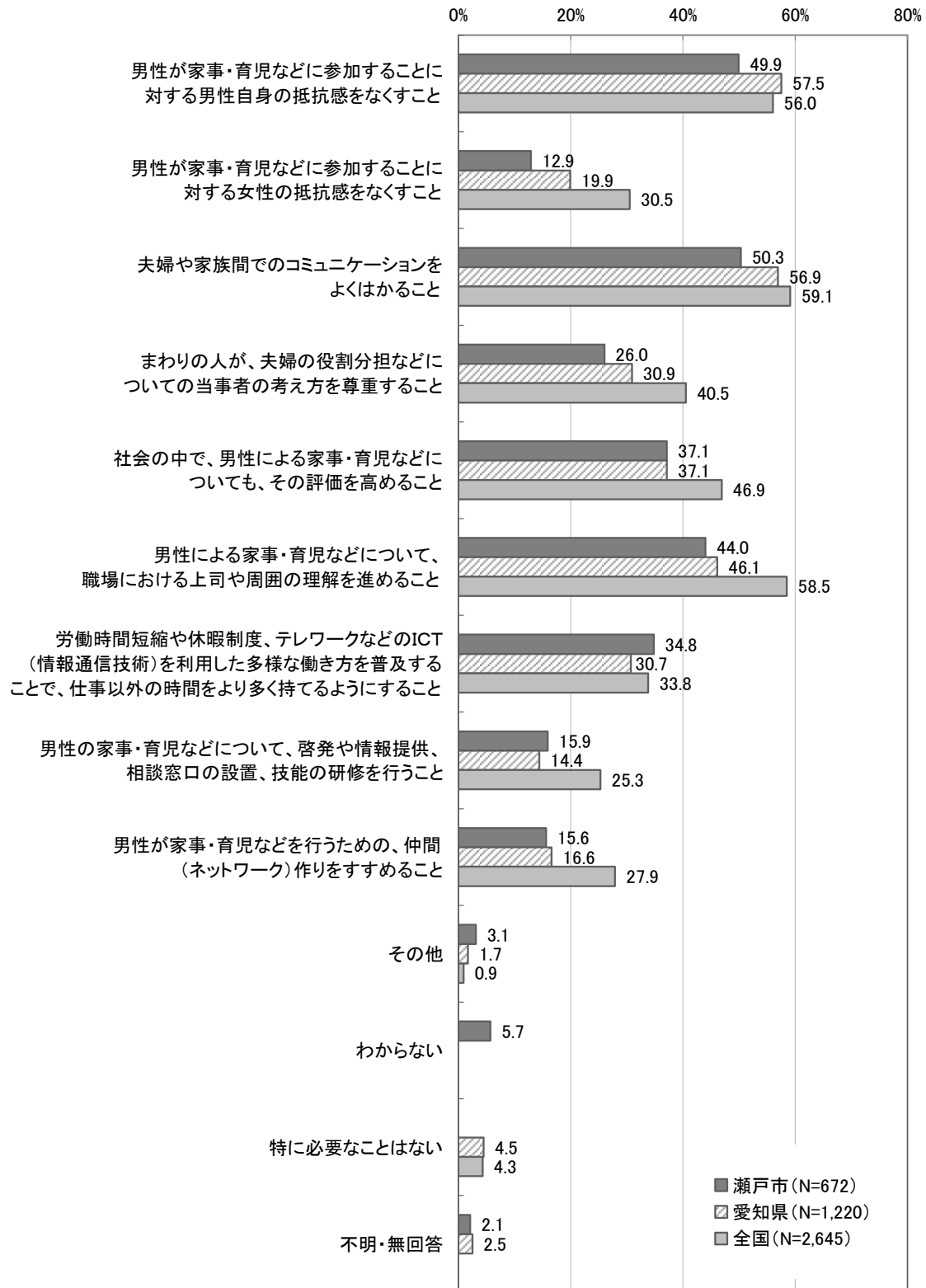
年齢別で見ると、30歳代では「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が高くなっています。

	男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	まわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること	男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICT(情報通信技術)を利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	口の設置、技能の研修を行うこと	男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓	男性が家事・育児などを行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること	その他	わからない	不明・無回答
(単位：%)													
【年齢別】													
20歳未満(N=20)	65.0	0.0	65.0	40.0	50.0	55.0	40.0	50.0	20.0	5.0	5.0	0.0	
20～29歳(N=81)	58.0	16.0	59.3	34.6	35.8	58.0	39.5	16.0	17.3	0.0	3.7	1.2	
30～39歳(N=90)	51.1	12.2	55.6	33.3	55.6	57.8	43.3	14.4	18.9	6.7	5.6	1.1	
40～49歳(N=140)	50.0	12.9	45.7	26.4	37.1	40.7	40.7	12.1	12.9	3.6	5.7	0.7	
50～59歳(N=130)	47.7	12.3	45.4	19.2	33.8	41.5	34.6	11.5	12.3	3.1	4.6	2.3	
60～69歳(N=105)	49.5	13.3	56.2	22.9	32.4	35.2	29.5	16.2	20.0	1.0	3.8	1.9	
70歳以上(N=105)	41.9	14.3	41.9	21.9	28.6	36.2	21.0	20.0	14.3	3.8	10.5	5.7	

《県調査・全国調査との比較》

県調査と比較すると、愛知県に比べ「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が低くなっています。

全国調査と比較すると、全国に比べ「男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」の割合が低くなっています。



※「わからない」は瀬戸市だけの選択肢

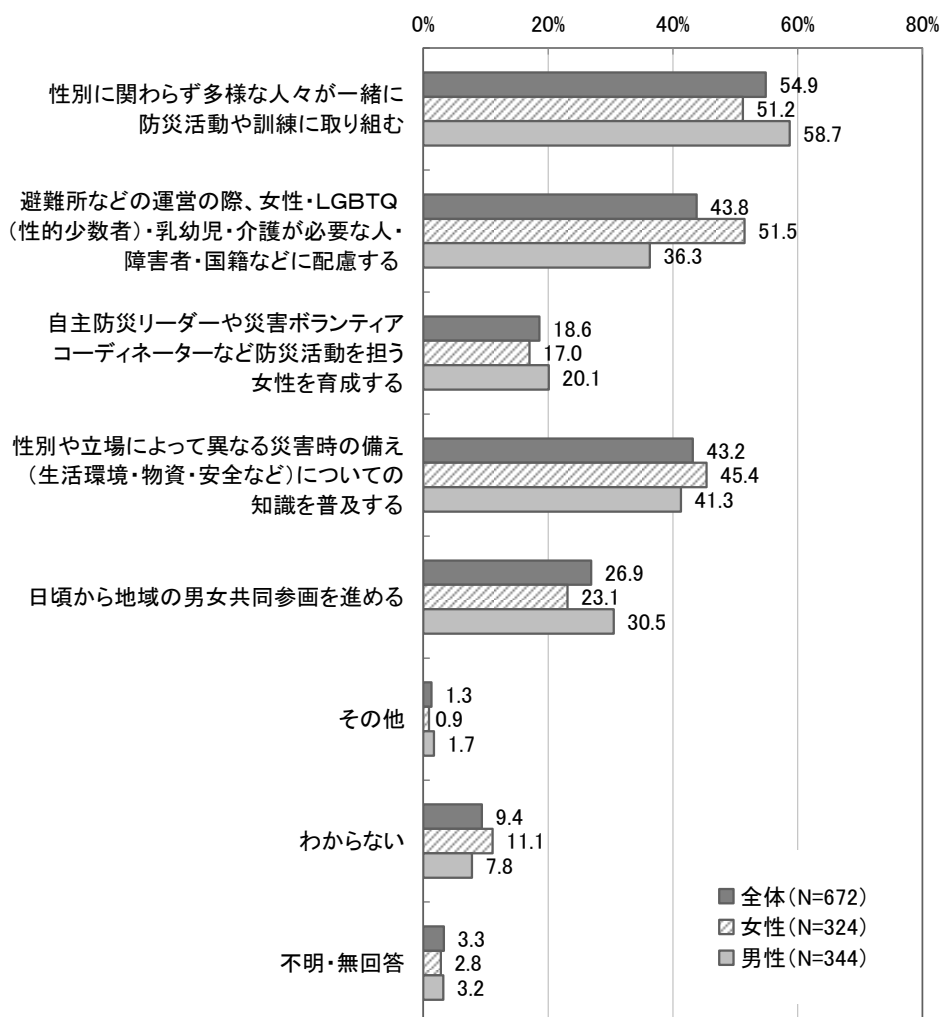
※「特に必要なことはない」は愛知県・国のみの選択肢

5 防災における男女共同参画について

問 15 男女共同参画や多様性の視点を取り入れた防災体制を構築するには、何が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

男女共同参画や多様性の視点を取り入れた防災体制の構築に必要なものについてみると、全体では「性別に関わらず多様な人々が一緒に防災活動や訓練に取り組む」が54.9%と最も高く、次いで「避難所などの運営の際、女性・LGBTQ（性的少数者）・乳幼児・介護が必要な人・障害者・国籍などに配慮する」が43.8%、「性別や立場によって異なる災害時の備え（生活環境・物資・安全など）についての知識を普及する」が43.2%となっています。

性別でみると、女性では「避難所などの運営の際、女性・LGBTQ（性的少数者）・乳幼児・介護が必要な人・障害者・国籍などに配慮する」の割合が男性に比べて高く、その差が大きい結果となっています。一方、男性では「性別に関わらず多様な人々が一緒に防災活動や訓練に取り組む」、「日頃から地域の男女共同参画を進める」の割合が女性に比べて高くなっています。



年齢別比較

年齢別でみると、20歳代では「避難所などの運営の際、女性・LGBTQ（性的少数者）・乳幼児・介護が必要な人・障害者・国籍などに配慮する」、30歳代以上では「性別に関わらず多様な人々が一緒に防災活動や訓練に取り組む」の割合が高くなっています。

(単位：%)	性別に関わらず多様な人々が一緒に防災活動や訓練に取り組む	避難所などの運営の際、女性・LGBTQ（性的少数者）・乳幼児・介護が必要な人・障害者・国籍などに配慮する	自主防災リーダーや災害ボランティアコーディネーターなど防災活動を担う女性を育成する	性別や立場によって異なる災害時の備え（生活環境・物資・安全など）についての知識を普及する	日頃から地域の男女共同参画を進める	その他	わからない	不明・無回答
【年齢別】								
20歳未満(N=20)	40.0	50.0	20.0	50.0	35.0	0.0	5.0	5.0
20～29歳(N=81)	40.7	48.1	8.6	33.3	23.5	1.2	12.3	1.2
30～39歳(N=90)	63.3	42.2	17.8	51.1	21.1	0.0	5.6	2.2
40～49歳(N=140)	54.3	37.1	15.0	45.7	27.1	0.7	8.6	2.1
50～59歳(N=130)	56.2	42.3	19.2	39.2	23.8	3.1	10.8	1.5
60～69歳(N=105)	59.0	47.6	21.0	47.6	30.5	1.0	9.5	3.8
70歳以上(N=105)	57.1	47.6	28.6	40.0	32.4	1.9	10.5	8.6

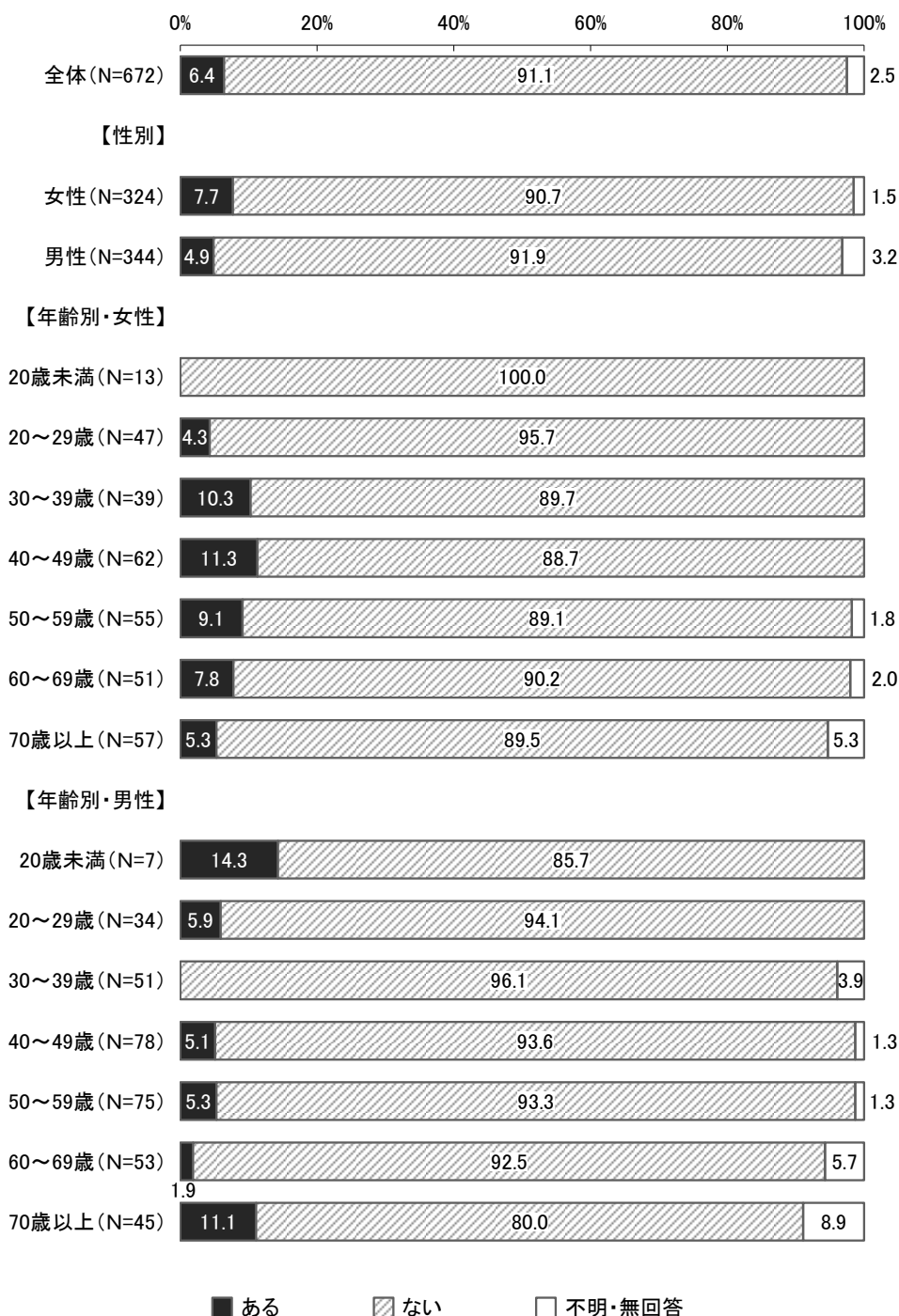
6 DV(ドメスティック・バイオレンス)^(※)について

※配偶者や恋人などの親密な関係にある者からの身体的、精神的、経済的または性的な苦痛を与えられる暴力的行為のこと。

問 16 あなたはDVを受けた経験がありますか。(○はひとつ)

DVを受けた経験についてみると、全体では「ない」が91.1%、「ある」が6.4%となっています。性別でみると、大きな差異はみられません。

性・年齢別でみると、女性の30～40歳代、男性の70歳以上では「ある」の割合が1割を超え、他の性・年齢区分と比べて高くなっています。

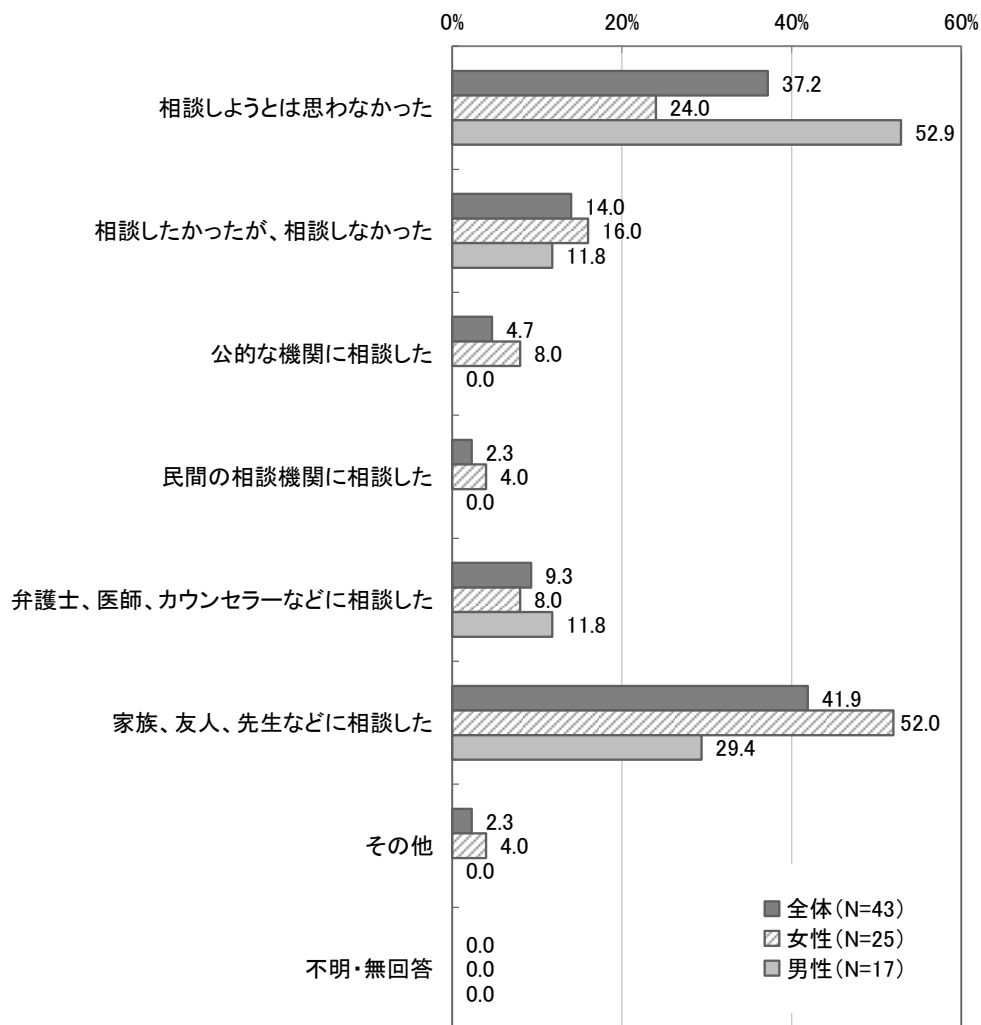


問 16 で「ある」と答えた方におたずねします。

問 17 DVについて誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

DVについて誰かに打ち明けたり相談したかについてみると、全体では「家族、友人、先生などに相談した」が41.9%と最も高く、次いで「相談しようとは思わなかった」が37.2%、「相談したかったが、相談しなかった」が14.0%となっています。

性別でみると、女性では「家族、友人、先生などに相談した」の割合が高い一方で、男性では「相談しようとは思わなかった」の割合が高く、その差が大きい結果となっています。

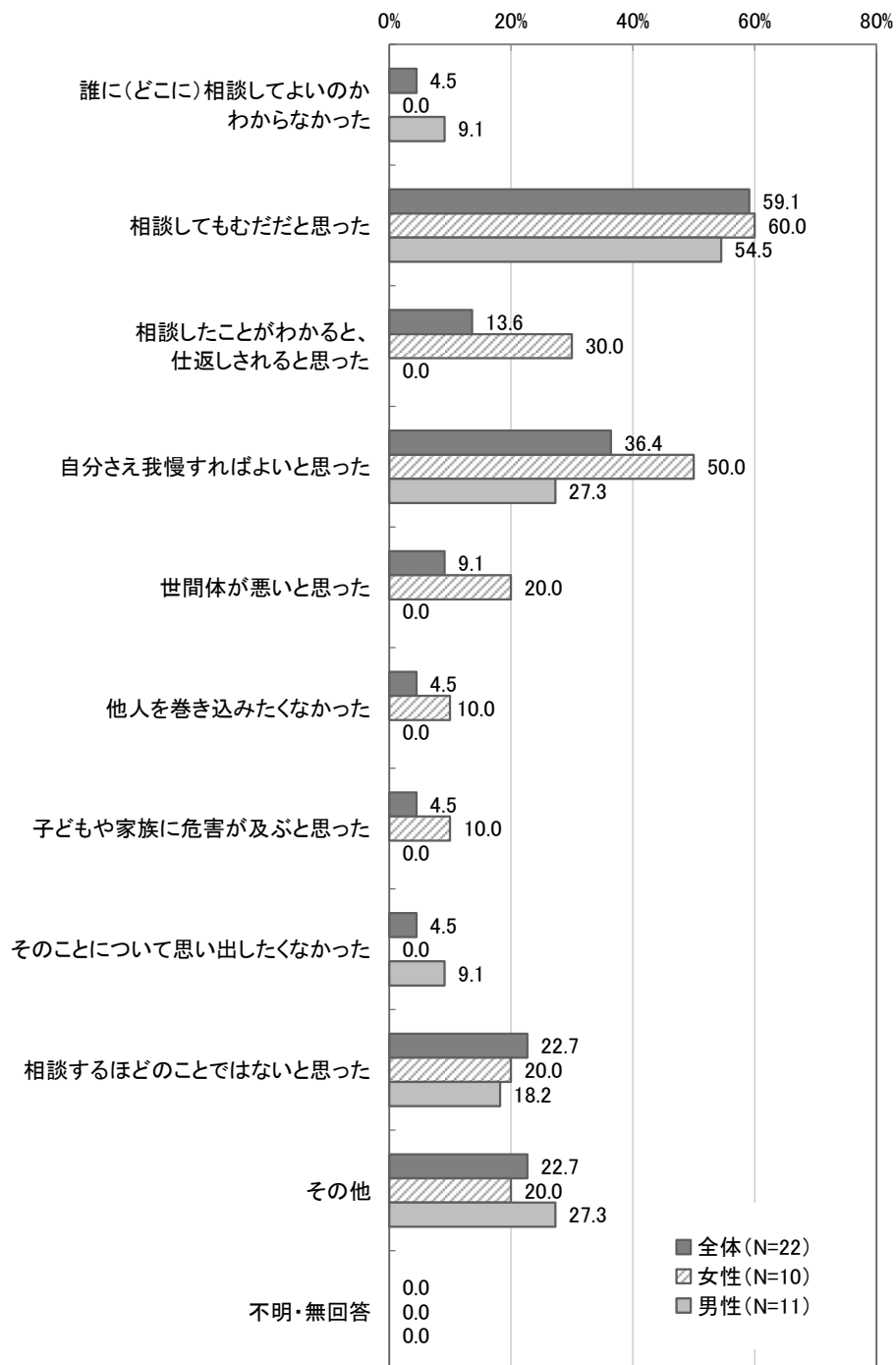


問 17 で「相談しようとは思わなかった」、「相談したかったが、相談しなかった」と答えた方におたずねします。

問 18 相談しなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

相談しなかった理由についてみると、全体では「相談してもむだだと思った」が 59.1%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すればよいと思った」が 36.4%、「相談するほどのことではないと思った」、「その他」がともに 22.7%となっています。

性別でみると、女性では「相談したことがわかると、仕返しされと思った」、「自分さえ我慢すればよいと思った」の割合が、男性と比べて高くなっています。

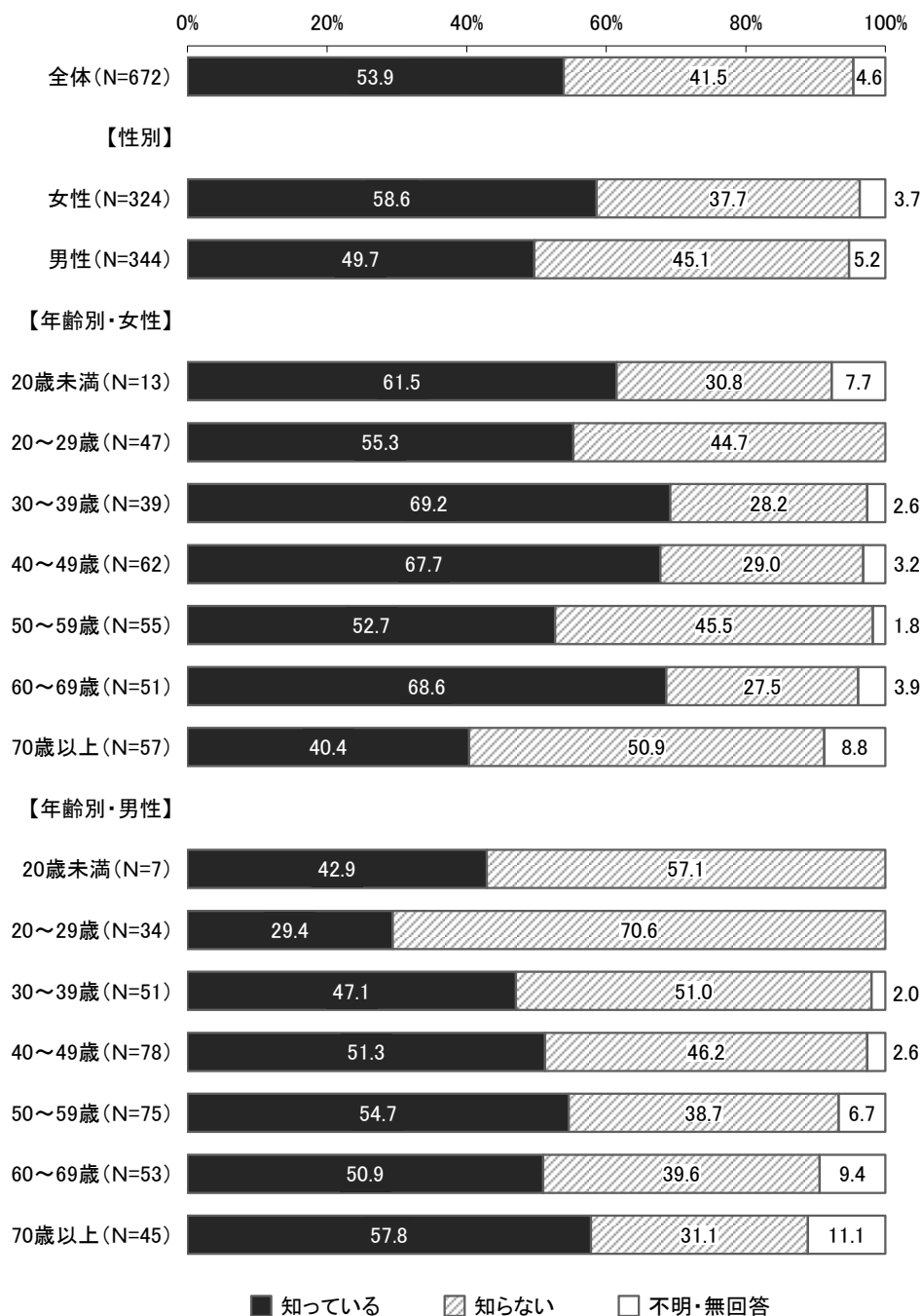


問 19 あなたはDVについて相談できる窓口があることを知っていますか。(〇はひとつ)

DVの相談窓口の認知状況についてみると、全体では「知っている」が53.9%、「知らない」が41.5%となっています。

性別でみると、女性では「知っている」の割合が、男性と比べて高くなっています。

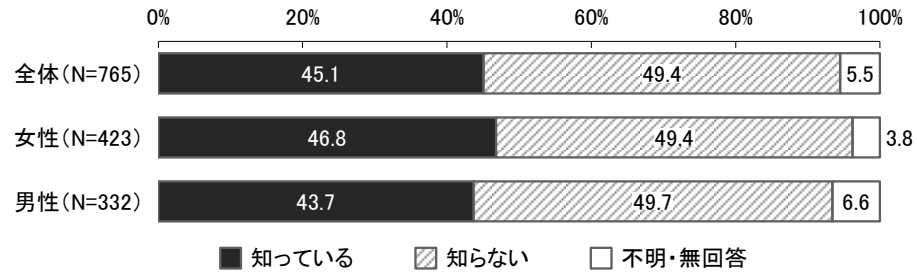
性・年齢別でみると、女性の60歳代以下、男性の40歳代以上では「知っている」の割合が5割を超えています。



《前回調査との比較（平成 27 年度）》

前回調査と比較すると、全体では「知っている」の割合が高くなっています。

性別で見ると、男女ともに全体と同様の傾向がみられ、特に女性では、その割合の差が大きい結果となっています。

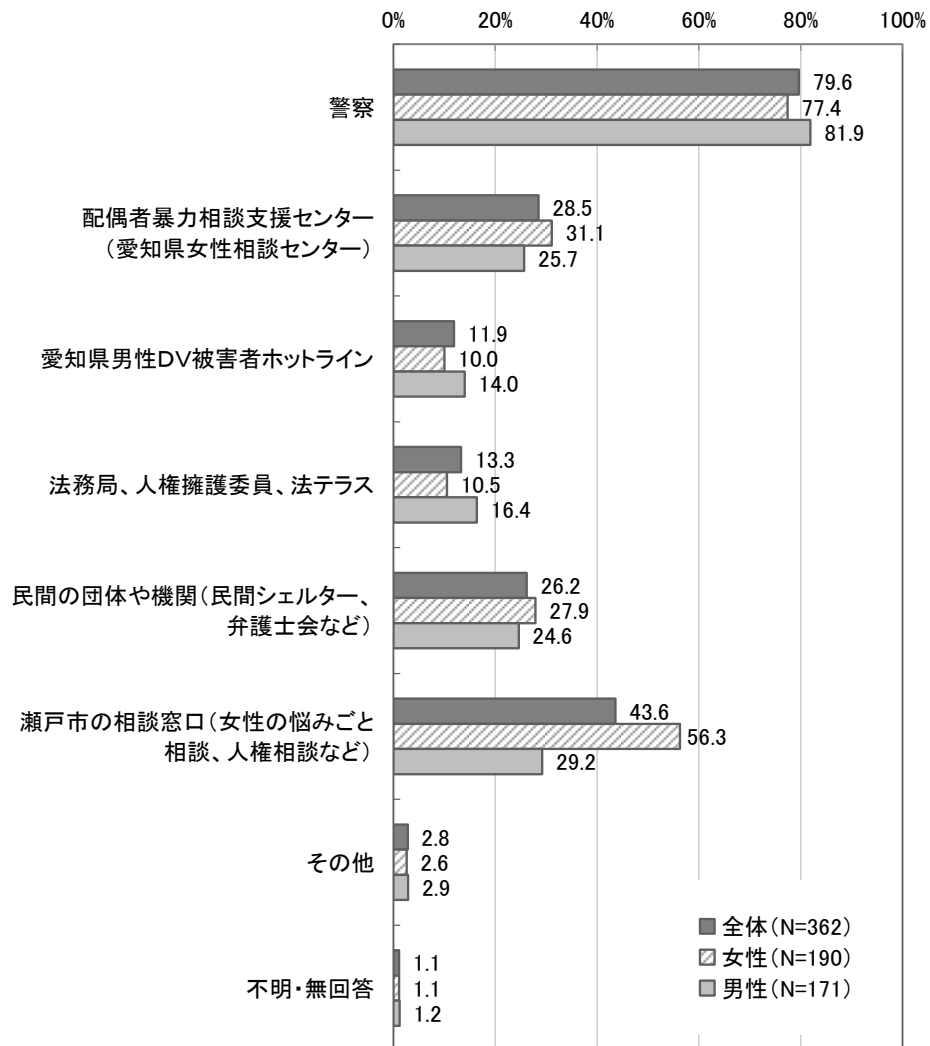


問 19 で「知っている」と答えた方におたずねします。

問 20 相談できる窓口について、どのようなところを知っていますか。(〇はいくつでも)

知っている相談窓口についてみると、全体では「警察」が79.6%と最も高く、次いで「瀬戸市の相談窓口（女性の悩みごと相談、人権相談など）」が43.6%、「配偶者暴力相談支援センター（愛知県女性相談センター）」が28.5%となっています。

性別でみると、女性では「瀬戸市の相談窓口（女性の悩みごと相談、人権相談など）」の割合が男性と比べて高く、その差が大きい結果となっています。



性・年齢別比較

性・年齢別で見ると、女性の60歳代以上では「瀬戸市の相談窓口（女性の悩みごと相談、人権相談など）」の割合が7割前後で、他の性・年齢区分と比べて高くなっています。

	警察	配偶者暴力相談支援センター (愛知県女性相談センター)	愛知県男性DV被害者ホットライン	法務局、 人権擁護委員、 法テラス	民間の団体や機関 (民間シェルター、 弁護士会など)	瀬戸市の相談窓口 (女性の悩みごと相談、 人権相談など)	その他	不明・無回答
(単位：%)								
【年齢別・女性】								
20歳未満(N=8)	100.0	12.5	25.0	12.5	25.0	25.0	12.5	0.0
20～29歳(N=26)	88.5	38.5	7.7	7.7	34.6	26.9	3.8	0.0
30～39歳(N=27)	70.4	25.9	7.4	0.0	25.9	59.3	3.7	0.0
40～49歳(N=42)	71.4	23.8	19.0	11.9	38.1	59.5	0.0	4.8
50～59歳(N=29)	79.3	41.4	10.3	13.8	34.5	55.2	3.4	0.0
60～69歳(N=35)	77.1	40.0	2.9	20.0	14.3	71.4	2.9	0.0
70歳以上(N=23)	73.9	21.7	4.3	4.3	17.4	69.6	0.0	0.0
【年齢別・男性】								
20歳未満(N=3)	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳(N=10)	80.0	30.0	10.0	0.0	30.0	30.0	10.0	0.0
30～39歳(N=24)	79.2	12.5	12.5	8.3	29.2	16.7	4.2	0.0
40～49歳(N=40)	87.5	25.0	22.5	15.0	27.5	27.5	0.0	0.0
50～59歳(N=41)	85.4	24.4	9.8	17.1	24.4	29.3	2.4	4.9
60～69歳(N=27)	74.1	37.0	11.1	22.2	33.3	29.6	3.7	0.0
70歳以上(N=26)	76.9	26.9	15.4	26.9	7.7	46.2	3.8	0.0

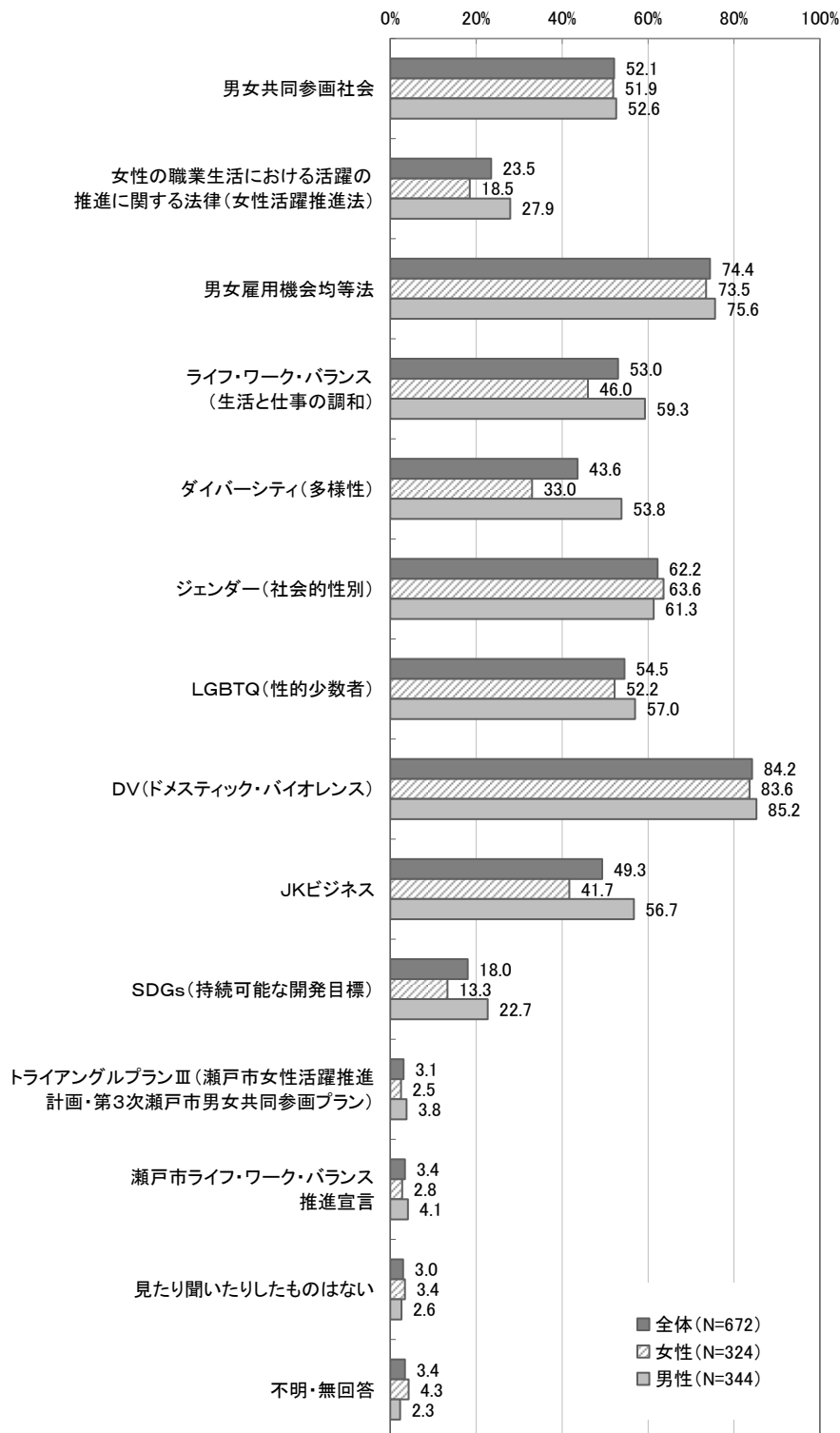
7 男女共同参画行政について

問 21 次の用語について、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを選んでください。

(○はいくつでも)

見聞きしたことがある用語についてみると、全体では「DV(ドメスティック・バイオレンス)」が84.2%と最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」が74.4%、「ジェンダー(社会的性別)」が62.2%となっています。

性別でみると、男性では「ジェンダー(社会的性別)」、「見たり聞いたりしたものはない」以外の項目の割合が女性と比べて高く、特に「ライフ・ワーク・バランス(生活と仕事の調和)」、「ダイバーシティ(多様性)」、「JKビジネス」の差が大きい結果となっています。



性・年齢別比較

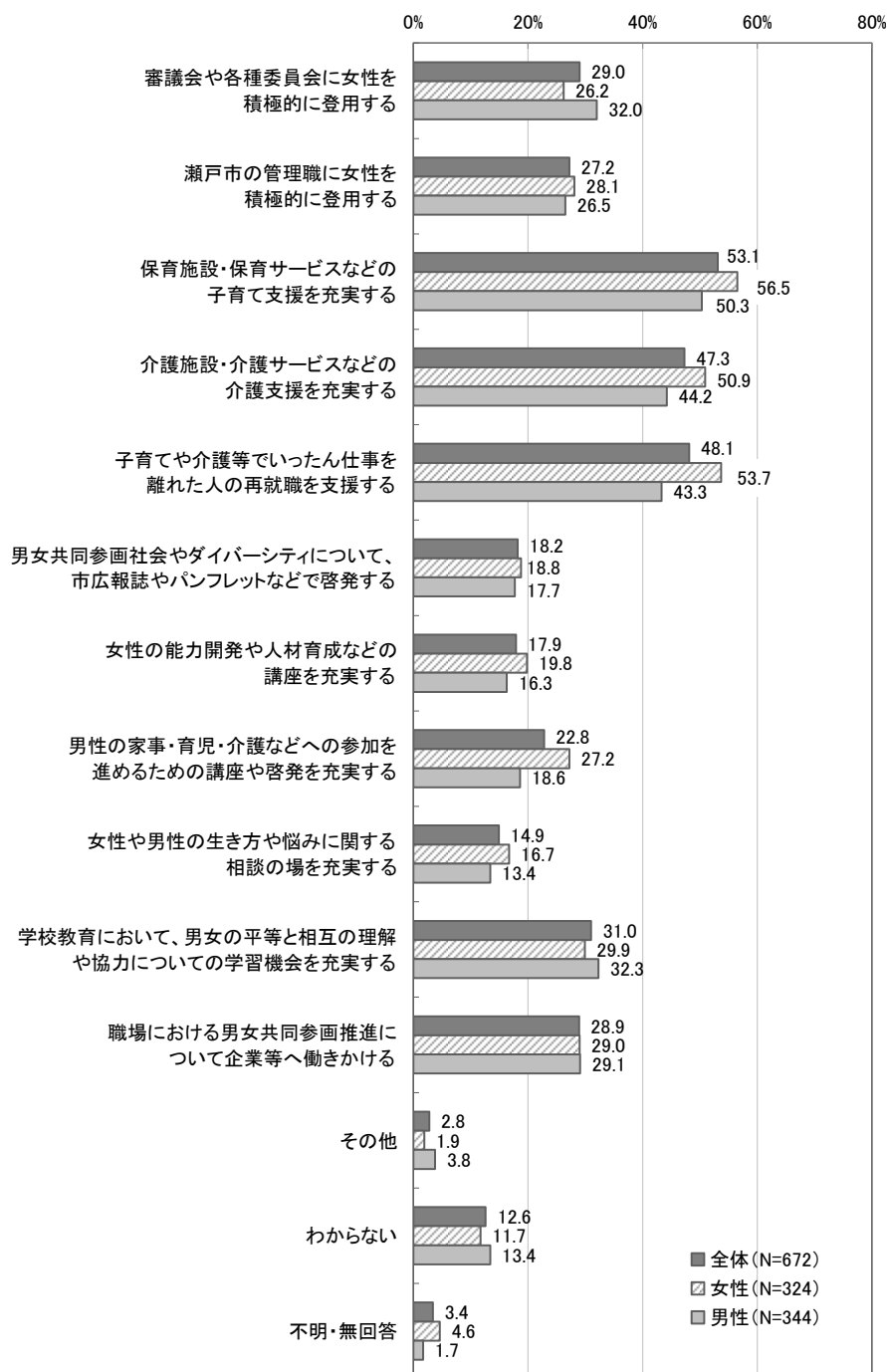
性・年齢別でみると、女性の70歳以上では「SDGs（持続可能な開発目標）」、「トライアングルプランⅢ（瀬戸市女性活躍推進計画・第3次瀬戸市男女共同参画プラン）」、「瀬戸市ライフ・ワーク・バランス推進宣言」、「見たり聞いたりしたものはない」以外の項目の割合が、他の性・年齢区分と比べて低くなっています。

	男女共同参画社会	女性の職業生活における活躍の推進に関する法律 (女性活躍推進法)	男女雇用機会均等法	ライフ・ワーク・バランス(生活と仕事の調和)	ダイバーシティ(多様性)	ジェンダー(社会的性別)	LGBTQ(性的少数者)	DV(ドメスティック・バイオレンス)	JKビジネス	SDGs(持続可能な開発目標)	トライアングルプランⅢ(瀬戸市女性活躍推進計画・第3次瀬戸市男女共同参画プラン)	瀬戸市ライフ・ワーク・バランス推進宣言	見たり聞いたりしたものはない	不明・無回答
(単位：%)														
【年齢別・女性】														
20歳未満(N=13)	92.3	30.8	92.3	84.6	30.8	92.3	84.6	100.0	38.5	38.5	7.7	0.0	0.0	0.0
20～29歳(N=47)	78.7	27.7	89.4	74.5	42.6	87.2	63.8	95.7	46.8	31.9	6.4	2.1	2.1	0.0
30～39歳(N=39)	46.2	20.5	64.1	53.8	46.2	76.9	53.8	87.2	51.3	17.9	0.0	0.0	2.6	0.0
40～49歳(N=62)	41.9	19.4	75.8	40.3	38.7	72.6	56.5	83.9	56.5	6.5	3.2	3.2	3.2	0.0
50～59歳(N=55)	52.7	14.5	78.2	40.0	38.2	67.3	56.4	89.1	50.9	12.7	0.0	1.8	3.6	1.8
60～69歳(N=51)	45.1	23.5	72.5	45.1	27.5	52.9	47.1	86.3	29.4	7.8	3.9	3.9	2.0	5.9
70歳以上(N=57)	40.4	5.3	56.1	21.1	10.5	24.6	29.8	59.6	17.5	1.8	0.0	5.3	7.0	17.5
【年齢別・男性】														
20歳未満(N=7)	85.7	42.9	85.7	85.7	57.1	71.4	42.9	100.0	71.4	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
20～29歳(N=34)	70.6	35.3	76.5	73.5	61.8	85.3	61.8	97.1	52.9	29.4	2.9	2.9	2.9	0.0
30～39歳(N=51)	54.9	33.3	76.5	76.5	60.8	76.5	60.8	86.3	60.8	35.3	3.9	3.9	2.0	2.0
40～49歳(N=78)	46.2	21.8	73.1	66.7	59.0	66.7	62.8	88.5	62.8	20.5	1.3	0.0	1.3	0.0
50～59歳(N=75)	44.0	32.0	72.0	60.0	58.7	53.3	61.3	80.0	65.3	28.0	5.3	5.3	5.3	5.3
60～69歳(N=53)	52.8	32.1	83.0	47.2	45.3	56.6	52.8	88.7	50.9	18.9	3.8	9.4	0.0	1.9
70歳以上(N=45)	57.8	13.3	73.3	24.4	33.3	35.6	40.0	71.1	33.3	6.7	6.7	2.2	4.4	4.4

問 22 「男女共同参画社会」・「ダイバーシティ(多様性)」を実現するために、今後、瀬戸市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

「男女共同参画社会」・「ダイバーシティ(多様性)」の実現のため、今後瀬戸市が力を入れていくべきことについてみると、全体では「保育施設・保育サービスなどの子育て支援を充実する」が53.1%と最も高く、次いで「子育てや介護等でいったん仕事を離れた人の再就職を支援する」が48.1%、「介護施設・介護サービスなどの介護支援を充実する」が47.3%となっています。

性別でみると、女性では「子育てや介護等でいったん仕事を離れた人の再就職を支援する」の割合が男性と比べて高く、その差が大きい結果となっています。



年齢別比較

年齢別でみると、20歳未満では「学校教育において、男女の平等と相互の理解や協力についての学習機会を充実する」、20～40歳代と60歳代では「保育施設・保育サービスなどの子育て支援を充実する」、50歳代と70歳以上では「介護施設・介護サービスなどの介護支援を充実する」の割合が高くなっています。

	審議会や各種委員会に女性を積極的に登用する	瀬戸市の管理職に女性を積極的に登用する	保育施設・保育サービスなどの子育て支援を充実する	介護施設・介護サービスなどの介護支援を充実する	子育てや介護等でいったん仕事を離れた人の再就職を支援する	男女共同参画社会やダイバーシティについて、市広報誌やパンフレットなどで啓発する	女性の能力開発や人材育成などの講座を充実する	男性の家事・育児・介護などへの参加を進めるための講座や啓発を充実する	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する	学校教育において、男女の平等と相互の理解や協力についての学習機会を充実する	職場における男女共同参画推進について企業等へ働きかける	その他	わからない	不明・無回答
(単位：%)														
【年齢別】														
20歳未満(N=20)	10.0	25.0	65.0	60.0	55.0	15.0	20.0	45.0	45.0	70.0	40.0	10.0	15.0	0.0
20～29歳(N=81)	21.0	23.5	60.5	40.7	48.1	12.3	12.3	32.1	27.2	37.0	24.7	3.7	12.3	0.0
30～39歳(N=90)	36.7	27.8	67.8	46.7	62.2	15.6	17.8	27.8	14.4	43.3	37.8	3.3	11.1	1.1
40～49歳(N=140)	27.9	27.9	54.3	46.4	50.7	14.3	18.6	25.0	13.6	30.0	27.1	2.9	11.4	0.7
50～59歳(N=130)	27.7	25.4	44.6	48.5	44.6	19.2	20.0	18.5	9.2	19.2	26.2	2.3	14.6	3.1
60～69歳(N=105)	29.5	26.7	50.5	48.6	47.6	21.9	19.0	12.4	8.6	26.7	26.7	1.0	14.3	3.8
70歳以上(N=105)	35.2	32.4	44.8	48.6	36.2	25.7	17.1	20.0	15.2	28.6	29.5	2.9	11.4	12.4

III 自由意見

1 自由意見

男女共同参画に関することで意見等を聞いたところ、132 件の意見が寄せられました。項目ごとに振り分けると、以下の表のとおりとなります。また、いくつかの意見を項目ごとに示しています。

なお、分類の都合上、文中から一部抜粋している場合がありますが、原文の内容の趣旨が損なわれないように配慮しています。

項目	件数
男女の平等感や結婚観・家庭観について	12
職業・職場環境について	8
男女共同参画の取り組みについて	25
子育てについて	4
新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、感じられた性差や働き方の変化など	60
その他	23
合計	132

●男女の平等感や結婚観・家庭観について

内容（抜粋）
男女平等は現在の社会では難しいと思う。男性に向いている仕事、女性に向いている仕事があり、どちらも重要である。男女共に全く同じような仕事内容で同じような勤務体制は無理だと思う。それを踏まえて、別のメリット、デメリットを考えた上での平等性をいかにして見出すかだと思う。
時代の流れと共に家事に対する男性の考え方も変化してきていると思う。女性が自分なりの目的を持ち、自己研鑽する事で年齢に関係なく地域の中で活動していけると思う。仕事を離れた後の生活の充実を見通して、考えていく事が大切ではないか。
男女の考え方の差は、親の育て方によるものに大きな影響があると思う。長い歴史の中で培われてきた男尊女卑という考え方が色々な活動、社会情勢によって少しずつ変わってきた。子どもを育てる立場の人が意識を持つことにより、将来が変わっていくのではないか。
いまだに女性が家事をする事が当たり前のままだとよく感じる。夫婦共働きの場合は特に、子育て支援のサポートがもっと充実していたら良い。
性差により良い面、悪い面があると思っており、職種によって男性が支えるものもあると思う。権利と共に義務が発生すると思う。現状の平等が感じられない社会は男性優位の慣習も多いが、女性が「ズルイ」部分も多分にあると思う。男性から見た不公平感も同時に減らすような社会づくりをしてもらいたい。

●職業・職場環境について

内容（抜粋）
女性の社会進出は歓迎するが、果たしてどれくらいの女性が男性の上に立ち、管理職などに就きたいと思っているのだろうか。
少子化で働き手が少なくなるため、女性の働き口、活躍の場を推進していただききたい。
何を議論しても、結局現場では働き方等を変えるのは難しい。その部分の改善は必要。
大企業が少ない所では、会社での教育等が無いため、なかなか浸透は難しいと感じる。
そもそも女性自身の自立への意識はどうだろうかと思う。男性・女性各々の特性を生かして、お互いが話し合う事から始まると思う。

●男女共同参画の取り組みについて

内容（抜粋）
SDGsでも日本はジェンダーについてランクが低い。性差によって起きる避けられない違い（出産など）を考慮した社会をつくっていく事が大切だと思う。
北欧等の先進事例を再確認し、クォータ制の導入や企業（地元）への働きかけが、スピードアップのポイントだと思う。また、子育て支援等の社会的構造改革をしない限りは、実現は難しいかも。さらに瀬戸市としての先進的モデルケース導入を、いくつかの分野で取り入れる事が良いと思う。
これからの社会は、男性とか女性とかに縛られず、互いの立場や生活を思いやり、尊重して助け合い、向上させていくべきだと考える。
男女共同参画行政について意識せず常にできる人ができる事をし、それについて男女の意識をせず活躍できる日本になると良いと思う。
女性だから男女共同参画のために評価を高められるのではなく、男女等しく力量を評価するという視点を忘れてはならないと思う。本来は性別関係なく「その人個人」を評価するのが正しいと思うから。その結果やはり男性のどなたかが優れているため昇進しても批判が出ないようにしなければならないと思う。

●子育てについて

内容（抜粋）
親族の状況を見て思うが、公的な子育て支援をもっと充実させないといけない。これは出生率ともリンクすると思う。
以前よりは改善されているが、まだ男性の育児に対する理解や制度が足りないと感じる。周囲の理解や男性への育児休暇などの制度を充実させるのはもちろん、男性自身の意識も変えなければ、よりよい社会にならない。
瀬戸市で保育園に入れようと保育課に行ったが、子どもがいっぱい順番待ちする状況だった。保育課では、仕事をしているお母さんはベビーシッターなど自分で頼ってがんばっていると言われた。保育園が少ない、でも人口も減っている。市としてどこに力を注ぐべきなのか、今一度考えていただきたい。

●新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、感じられた性差や働き方の変化など

内容（抜粋）
<p>自分自身パートとして働いているが、勤務を自分のライフスタイルに合わせることができる職場である。そのため、新型コロナウイルスの影響も大きくはなかった。しかし職場や働き方によっては、無理に休みを取らされたり、職を失った話も聞いた。多様化の今、働き方は様々だと思う。それぞれの人が働き続けることができるよう尊重してもらいたい。</p>
<p>新型コロナで学校が休校になったが、仕事を休んで子どもの世話をしたのは母親。国の収入保障（小学校対象の保障）は夫の職場でも使えるはずだが、使っている男性職員はいないと職場でも言い出せなかった様子。やはり、本人の意識改革と、社会の意識改革が必要だと痛感した。現政権の女性の社会進出を推進しながらも、休校で、負担が全て家庭（母親）に負わされたのには、とても矛盾を感じている。</p>
<p>パートタイマーという事で、最初に仕事から外された。主人の給料で食べてはいけるが、やはり収入は減った。家の時間が増えても、家事は女の仕事である。高齢の親の事も、目を配り気を配っているのは女の方が圧倒的に多い。瀬戸市は、自然災害も少なく暮らしやすいと思うが、やはり小さな町ならではの世間の目は厳しいと思う。</p>
<p>テレワーク、在宅勤務等、業種によるが、可能である事がわかった。これによって、男女問わず、働きやすくなるのではと思う。</p>
<p>テレワークを行っていた職場に勤めている友人が、旦那さんもテレワークであるにも関わらず、家事をほとんど友人自身で行っていたとの話を聞いた。共に入社していた時は早く帰宅した方が家事を行っていたようだが、テレワークでどちらも同じ環境になると「家事は基本的に女性が行うもの」という潜在意識が出てくるのだと感じた。</p>

●その他

内容（抜粋）
<p>学童保育で子育てを支援するのはもちろんだが、その職場の職員への負担増が気になる。行政の具体的な姿（行動）が広報だけでは見えない。ラジオサンキュー、ケーブルTVなどを利用して何をしているのか発信してほしい。</p>
<p>今回トライアングルプランⅢの終了に伴うアンケートだという事だが、このアンケートをもってはじめて、その計画の事を知った。またこういった計画を実施するようなことがあれば、より強く情報発信していただくことを願う。</p>
<p>ダイバーシティ、ジェンダー、LGBTQ等、男女の切り口だけでは語れない世の中に既になっており、調査すべきテーマから全面的に見直されるのが良いのではないかと。</p>
<p>男性はあまり関心が無いように感じ、女性も何らかの思いを持っていると思うが、発信する方法等を知らない、あるいはできないのでは。やはり情報発信や啓発を誰もがわかりやすい形でしていく必要があるのでは。市が取り組んでいる具体的なものがあれば、示しながら啓発してみたらどうかと思う。言葉（ライフ・ワーク・バランス、ダイバーシティなど）だけではイメージができない。</p>

IV 調査結果のまとめ

1 調査結果のまとめ

1 男女平等・女性の活躍

- 男女平等について、家庭・学校教育・地域活動では「平等」の割合が3割を超えており、なかでも学校教育の場では55.2%と最も高くなっている。しかし、職場では「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が約5割となっており、さらに政治の場・社会通念上においてはこの割合が約7割に上る。これらの分野における不平等感が影響し、社会全体としては「平等」の割合が1割強という低い結果になっていると考えられる。
また、男女があらゆる分野で平等になるためには何が重要であるかについて、「男性の家事・育児・介護などの家庭参画を促進する」、「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」が約5割となっており、こうしたことから、男女共同参画社会の形成が社会全体として十分でないことがうかがえる。
- 一般的に女性が職業を持つことについて、平成27年度調査では「ずっと職業を持つ方がよい」の割合が3割ほどだったが今年度調査では5割を超えていることから、女性が生涯を通して社会で活躍することへの意識の高まりがうかがえる。育児や介護などと両立して柔軟に働ける環境づくりや男性の家庭参画・意識改革などが求められている。
- 家事に携わる時間について、女性では「1時間から5時間以上」の割合が7割を超えており、一方で、男性では「1時間未満」の割合が約6割となっている。就業状況と照らし合わせてみると、女性の就業率が男性と比べて低いことや、固定的性別役割分担意識が今なお根強くあることが背景にあると考えられる。

2 生活と仕事の調和（ライフ・ワーク・バランス）

- 理想として優先するものについて、全体では『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が30.1%と最も高く、次いで『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の3つのバランスをとりたい」が29.5%となっている。しかし、現実として優先するものについてみると、全体では『仕事』を優先している」が34.2%と最も高くなっている。男女別でみた場合、男性は「仕事を優先している」、女性は「家庭生活を優先している」の割合がそれぞれ高く、ここにおいても固定的性別役割分担意識が根底にあることがうかがえる。現実を理想に近づけるため、環境整備を含めた働き方改革を進める必要がある。

3 ジェンダー・防災

- 見聞きしたことがある用語について、「ジェンダー（社会的性別）」、「LGBTQ（性的少数者）」は全体の6割前後となっている。「ダイバーシティ（多様性）」については、男女の認知度に差がみられた。ジェンダー平等の実現に向け、情報発信及び啓発を通してさらなる意識改革が必要である。
- 男女共同参画や多様性の視点をとり入れた防災体制の構築に必要なと思うものについて、全体では「性別に関わらず多様な人々が一緒に防災活動や訓練に取り組む」が54.9%と最も高くなっている。防災体制における多様性の視点は、いざという時にすぐに持てる視点ではないため、日頃からの意識醸成が必要である。

4 DV（ドメスティックバイオレンス）

- DVについて、相談窓口の認知状況は「知っている」が 53.9%であるのに対し、DVを受けた経験がある人が誰かに打ち明けたり相談したかについては、「相談しようとは思わなかった」が 37.2%に上る。理由として、「相談してもむだだと思った」が 59.1%、次いで「自分さえ我慢すればよいと思った」が 36.4%と高い割合となっている。暴力は許さないという意識啓発とともに、ハラスメントやDVは「相談できる」という認識をさらに広め、相談窓口の一層の周知を図ることが必要である。

5 男女共同参画行政

- 今後瀬戸市が力を入れていくべきことについて、「子育て・介護支援の充実」や「それらを理由とする離職者の再就職支援」がいずれも5割前後と高くなっていることから、女性が働き続けるための施策や環境の整備が求められている。
- 自由意見からうかがえることとして、新型コロナウイルス感染拡大の影響への対応や、より効果的な情報発信による男女共同参画推進啓発が求められている。

瀬戸市
男女共同参画に関するアンケート調査
【結果報告書】

発行年月 令和3年2月
発行 瀬戸市
編集 まちづくり協働課
〒489-8701
愛知県瀬戸市追分町64番地の1
TEL 0561-88-2801 (直通)
FAX 0561-88-2803